

浦安市
障がい福祉に関するアンケート調査
報告書

令和5年3月

浦安市

目 次

第1章 調査の枠組み	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 調査書の見方	1
第2章 調査結果の概要	3
1. 障がいや疾病のある方に対する調査	3
2. 障がい福祉サービス事業者に対する調査結果の概要	7
第3章 障がい福祉に関するアンケート調査	11
1. 基礎的事項	11
2. 福祉サービス等について	21
3. 生活の場について	27
4-1. 日中活動の場について（15歳以上（義務教育修了後）の方）	40
4-2. 日中活動の場について（15歳未満（義務教育修了前）の方）	52
5. 趣味、地域活動について	54
6. 外出・移動手段について	61
7. 悩み・相談ごと等について	65
8. 災害時の備えについて	75
9. 障がい者差別に関する法律及び条例について	79
10. 福祉施策について	82
11. 希望・要望	86
第4章 障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査	91
障がい福祉サービス等一覧	91
1. 事業所の経営状況について	92
2. 事業所の職員について	96
3. 現在、提供している障がい福祉サービス等について	98
4. 災害時の備えについて	100
5. 医療的ケア等が必要な方への支援状況について	102
6. 支援が困難だと感じるケースについて	104
7. 地域生活支援拠点について	105
8. サポートファイルうらやすについて	106
9. 今後の事業展開について	108
10. 自由意見	110
第5章 アンケート調査票	115
障がい福祉に関するアンケート調査	115
障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査	124

第 1 章 調査の枠組み

1. 調査の目的

本調査は、計画期間を令和6年度から8年度までの3か年とする「浦安市障がい者福祉計画」を策定するための基礎資料とするため、市内の障がいや疾病のある方の生活実態や障がい福祉サービス等に対する意向を把握するとともに、市内で障がい福祉サービス等を提供する事業者の状況や実態を把握する事を目的として実施しました。

2. 調査の概要

調査名	①障がい福祉に関するアンケート調査	②障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査
対象者	身体障がい児・者、知的障がい児・者、精神障がい児・者、難病疾患児・者	浦安市内の障がい福祉サービス事業者
調査対象数	2,000名	100事業所
回収数	1,213名	61事業所
回収率	60.1%	61.0%
記名の有無	無記名式	記名式
調査期間	令和4年12月	
調査方法	郵送配布・郵送回収	

3. 調査書の見方

○回答者数について

- ・ 図中の「回答者数（n）」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。

○百分率について

- ・ 百分率（%）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合があります。
- ・ 回答者が2つ以上回答することができる設問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。

○図表の単位について

- ・ 本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」であらわしています。

○表記について

- ・ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

第2章 調査結果の概要

1. 障がいや疾病のある方に対する調査

浦安市内の障がい福祉サービス事業者を対象としたアンケート調査について、概要を整理した結果は以下のとおりです。

なお、令和元年度に実施した前回調査については、「前回調査」又は「前回」と表記します。

(1) 利用している福祉サービス等について

障がい福祉サービス・制度については、「利用している」が 66.6%、「過去に利用していたが、現在は利用していない」が 4.0%、「利用していない」が 23.8%となっており（前回調査では「あなたは障がい福祉サービスを利用していますか。」）、このうち、現在利用している障がい福祉サービス・制度は、「バス・鉄道等運賃助成」が 60.7%と最も多く、次いで、「医療費助成」が 53.8%、「障がい者手当」が 32.1%となっています。

利用していない理由については、「必要ではない」が 36.2%と最も多く、前回調査の 48.3%より 12.1 ポイント減少し、次いで、「自分に合ったサービスがない」が 11.6%と前回調査の 14.5%より 2.9 ポイント減少し、「サービスの内容や相談先がわからない」が 6.2%と前回調査の 13.7%より 7.5 ポイント減少しています。

なお、利用していない理由の「その他」として、「現在、サービス検討中」及び「サービス内容を把握していない」などの理由が挙げられています。

(2) 介助について

身の周りの介助者については、「配偶者（夫・妻）」が 23.0%と最も多く、前回調査の 25.1%より 2.1 ポイント減少し、次いで、「母親」が 15.1%と前回調査の 19.9%より 4.8 ポイント減少し、「子ども」が 7.7%と前回調査と同様の割合となっています。

介助者の年齢については、「65 歳～74 歳」が 22.3%と最も多く、前回調査と同様の割合となっており、次いで、「50 代」が 22.1%と前回調査の 20.8%より 1.3 ポイント増加し、「75 歳以上」が 20.4%と前回調査の 18.0%より 2.4 ポイント増加しています。

なお、障がい者の年代別に介助者の年齢を見ると、18 歳未満では「40 代」が 60.0%、18 歳～40 歳未満及び 40 歳～65 歳未満では「50 代」がそれぞれ 42.5%、23.3%、65 歳以上では「65 歳～74 歳」が 32.1%と最も多く、年齢区分が高くなるに従い、介助者の年代も高くなっています。

(3) 今後（将来）の過ごし方について

今後（将来）希望する暮らしについては、「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」が 48.9%と最も多く、次いで、「ひとり暮らし」が 15.3%、「グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし」（以下、「グループホーム」という。）が 10.0%となっています。

なお、療育手帳所持者では 28.2%が、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では 31.7%が「グループホーム」で暮らしたいと回答しており、その理由としては、「入居費用が安い」が 50.4%と最も多く、前回調査の 59.0%より 8.6 ポイント減少し、「困った時に相談できる」が 33.9%と前回調査の 44.3%より 10.4 ポイント減少し、「医療職と連携している」が

25.6%と前回調査の41.6%より16.0ポイント減少しています。

なお、本調査で新たに設定した選択肢の「24時間支援員がいる」が47.9%と、「入居費用が安い」に次ぐ割合となっています。

また、今後（将来）希望する暮らしとして「グループホーム」を選択した人では、82.6%が市内のグループホームを希望しており、市外のグループホームを希望している人（「可」と回答。）は51.2%、どこの場所のグループホームでもよい人（「可」と回答。）は11.6%となっています。

今後（将来）の暮らしで課題または不安だと思うことについては、本調査で新たに設定した選択肢の「同居する家族が亡くなった後の生活」が40.1%と最も多く、次いで、「生活費等の金銭面」が34.1%と前回調査の30.5%より3.6ポイント増加し、「緊急時の対応」が26.7%と前回調査の34.2%より7.5ポイント減少しています。

特に、「同居する家族が亡くなった後の生活」が今後（将来）の暮らしで課題または不安だと思うと回答した人は、18歳未満、18歳～40歳未満及び65歳以上で、それぞれ58.8%、49.7%、38.1%と最も多く、40歳～65歳未満においても、「生活費等の金銭面」の48.1%に次いで33.2%と2番目に多い回答となっています。

（４）就労について

15歳以上の障がい者で「働いている（民間企業や自営業、就業訓練、福祉的就労等）」人は31.5%となっており、そのうち、18歳～40歳未満では58.5%と前回調査の54.2%より4.3ポイント増加し、65歳以上では12.0%と前回調査の8.9%より3.1ポイント増加していますが、40歳～65歳未満では49.8%と前回調査の53.9%より4.1ポイント減少しています。

就労の形態については、「企業等で正社員・正職員」が30.6%と前回調査の38.3%より7.7ポイント減少し、「企業等で臨時、アルバイト、パート」が25.7%と前回調査の31.3%より5.6ポイント減少しており、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」が17.5%と前回調査（選択肢は「就労継続支援や就労移行支援を利用」）の15.2%より2.3ポイント増加しています。

また、今後（将来）「働きたい」人は29.4%と前回調査の36.4%より7.0ポイント減少し、「働かない」（「働きたくない」及び「働きたいが働けない」の合計。）が30.7%と前回調査の28.1%より2.6ポイント増加しています。

なお、年齢区分別に見ると、18歳～40歳未満で「働きたい」が52.3%と前回調査の65.4%より13.1ポイント減少し、40歳～65歳未満で45.4%と前回調査の60.5%より15.1ポイント減少し、65歳以上では9.1%と前回調査の10.5%より1.4ポイント減少と、いずれの年代でも就労意欲が減少しています。

働くために必要なことについては、「障がいにあった仕事であること」が22.2%と前回調査の20.3%より1.9ポイント増加し、「周囲が障がいに対して理解があること」が16.1%と前回調査の15.0%より1.1ポイント増加しています。また、「賃金が妥当であること」が16.3%と前回調査の13.4%より2.9ポイント増加しています。

(5) 悩み・相談ごと等について

相談にのってもらっている人が「いる」と回答した人は 72.2%となっており、前回調査の 69.5%より 2.7ポイント増加しています。

相談にのってもらっている人や機関としては、「家族」が 76.5%と最も多く、次いで、「友人・知人」が 33.0%、「医療機関（医師、歯科医師、薬剤師等）」が 29.4%となっています。

一方で、相談相手がいない理由については、「気軽に相談できる場や人がいない」が 47.9%と最も多く、前回調査の 29.3%より 18.6ポイント増加し、次いで、「どこに相談したら良いかわからない」が 16.9%と前回調査の 27.7%より 10.8ポイント減少しています。

また、現在、悩んでいることについては、「健康・病気・治療のこと」が 42.3%と最も多く、前回調査の 36.7%より 5.6ポイント増加し、次いで、「将来のこと」が 32.4%と前回調査の 26.6%より 5.8ポイント増加し、「年金や生活費や金銭管理のこと」が 26.4%と前回調査の 21.8%より 4.6ポイント増加しています。

なお、情報の収集先については、「テレビ・ラジオ」が 69.0%と最も多く、前回調査の 69.7%より 0.7ポイント減少し、次いで、本調査で新たに設定した選択肢の「家族・友人・知人」が 39.6%となっており、「新聞・雑誌・フリーペーパー」が 28.1%と前回調査の 33.6%より 5.5ポイント減少しています。

なお、「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」が 16.4%と前回調査の 11.1%より 5.3ポイント増加し、動画配信サイト（YouTube 等）が 14.8%と前回調査の 9.5%より 5.3ポイント増加しています。

(6) 災害時の備えについて

災害（地震や水害等）の備えについては、「準備をしている」が 55.7%と前回調査の 44.4%より 11.3ポイント増加し、一方で、「準備をしていない」が 34.1%と前回調査の 36.9%より 2.8ポイント減少し、「準備をすることができない」が 4.4%と前回調査の 8.8%より 4.4ポイント減少しています。

なお、「準備をしていない」及び「準備をすることができない」と回答した人に、その理由を訊ねたところ、「何を準備すればいいかわからない」が 44.2%と最も多く、前回調査の 60.1%より 15.9ポイント減少し、次いで、「金銭的な余裕がない」が 24.0%と前回調査の 21.9%より 2.1ポイント増加し、「忙しくて時間がない」が 13.1%と前回調査の 6.0%より 7.1ポイント増加しています。

なお、本調査で新たに設定した選択肢の「考えたことがない」が 23.6%となっています。

(7) 障がい者差別に関する法律及び条例について

市の障がい者権利擁護センターの認知度（「利用したことがある」及び「知っているが、利用したことはない」の合計。）は 19.8%と前回調査の 17.0%より 2.8ポイント増加しており、「まったく知らない」は 73.8%と前回調査の 77.2%より 3.4ポイント減少しています。

また、過去3年間に差別等の経験については、「ある」（「よくある」及び「時々ある」の合計。）が 16.6%と前回調査の 20.6%より 4.0ポイント減少し、「ない」（「ほとんどない」及び「まったくない」の合計。）が 75.5%と前回調査の 73.3%より 2.2ポイント増加しています。

その内容としては、「公共施設や交通機関を利用するとき」が 45.3%と前回調査の 43.3%より 2.0ポイント増加し、「仕事を探すとき」が 23.9%と前回調査の 19.1%より 4.8ポイント増加していますが、

一方で、「職場や学校にいるとき」が 28.9%と前回調査の 35.5%より 6.6 ポイント減少し、「お店を利用するとき」が 22.4%と前回調査の 25.9%より 3.5 ポイント減少しています。

なお、本調査で新たに設定した選択肢の「障がい福祉サービスを利用しているとき」が 14.4%、「インターネットや SNS を利用しているとき」が 8.5%となっています。

(8) 市の福祉施策について

東野地区複合福祉施設（東野パティオ）の認知度（「利用したことがある」及び「知っているが利用したことがない」の合計。）が 46.2%となっており、「まったく知らない」の 47.9%を下回っています。

また、利用にあたり、満足な点・不満足な点については、「施設に対する感謝・満足な点」についてのご意見が 39 件となっており、一方で、不満な点についてのご意見が 49 件となっており、特に、「施設周辺の環境・アクセスについて」及び「支援体制について」のご意見が多くなっています。

2. 障がい福祉サービス事業者に対する調査結果の概要

浦安市内の障がい福祉サービス事業者を対象としたアンケート調査について、概要を整理した結果は以下のとおりです。

なお、令和元年度に実施した前回調査については、「前回調査」又は「前回」と表記します。

(1) 事業所の令和3年度経営状況について

浦安市内の障がい福祉サービス事業者で実施している障がい福祉サービスは、「居宅介護」及び「放課後等デイサービス」がともに23.0%と最も多く、次いで、「児童発達支援」が19.7%となっており、前回調査で2番目に多かった「移動支援」は13.1%と、前回調査の21.5%から8.4ポイント減少しています。

また、利用者の増減状況については、「増えた」が36.8%と「減った」の14.5%を上回っており、「変わらない」が36.8%となっていますが、事業所の経営状況については、「黒字」が17.1%と、前回調査の28.0%から10.9ポイント減少し、「概ね均衡」が37.6%と前回調査の48.6%から11.0ポイント減少しており、「赤字」は20.5%と、前回調査の15.9%から4.6ポイント増加しています。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響は、事業活動に「影響はない」と回答した事業者が18.0%となっている一方で、「影響があった」と回答した事業者は78.7%となっており、その内容は、「クラスターの発生」及び「キャンセルの増加」など、事業所の経営に直接影響がある事柄が多くなっており、対応策としては、「外出やイベントの自粛」及び「マスクや消毒液の導入」などが多く挙げられています。

(2) 事業所の職員について

事業所の運営を進めていく上での課題として、「職員の採用が困難」が62.3%と最も多く、次いで、「利用者の確保が困難」が34.4%、「職員の人材育成が困難」が32.8%となっており、利用者の確保とともに、職員の確保・育成が大きな課題となっています。

過去1年間における職員の平均採用者数については、正規職員で2.5人、非正規職員で2.4人となっており、正規職員は、前回調査の1.8人より増加していますが、非正規職員は、前回調査の2.5人より減少しています。平均離職者数については、正規職員、非正規職員がともに1.8人と、前回調査の正規職員1.3人、非正規職員1.4人より、それぞれ増加しています。

なお、平均離職者数を勤続年数で見ると、正規職員では1年未満の離職が1.4人と前回調査の0.9人より0.5人増加し、3年未満の離職が1.7人と前回調査の1.0人より0.7人増加しています。また、非正規職員では、1年未満の離職が1.1人と前回調査の1.2人より0.1人減少していますが、3年未満の離職が1.2人と前回調査の0.7人より0.5人増加しています。

職員の充足状況については、「十分である」が26.2%と、前回調査の19.6%から6.6ポイント増加しているものの、「不足している」（「やや不足している」、「不足している」及び「非常に不足している」の合計。）の73.8%を大きく下回っています。

職員が不足している理由については、「離職率が高い（定着率が低い）」が2.2%と前回調査の8.2%より6.0ポイント減少し、「募集しても応募がない」が51.1%と前回調査の60.0%より8.9ポイント減

少しています。

一方で、「応募者がいても、採用基準に達していない」が20.0%と前回調査の18.8%より1.2ポイント増加し、「その他」が17.8%と前回調査の10.6%より7.2ポイント増加しており、その内容としては、「募集の中止を検討しているため」及び「経営状況により」などの理由が挙げられています。

人材確保・人材定着のために取り組んでいることについては、「求人誌、インターネット求人サイトでの募集」が70.5%と最も多く、前回調査の65.4%から5.1ポイント増加し、次いで、「ハローワークを通じて募集する」が68.9%と、前回調査の49.5%から19.4ポイント増加しています。

(3) 提供している障がい福祉サービス等について

利用者が希望するサービスを「提供できている」（「十分提供できている」及び「どちらかといえば提供できている」の合計。）と回答した事業者が88.5%と前回調査の90.6%より2.1ポイント減少し、特に「十分提供できている」が13.1%と前回調査の29.9%より16.8ポイント減少しています。

利用者にサービス提供する上での課題については、「困難事例への対応が難しい」が42.6%と前回調査の49.5%より6.9ポイント減少し、「職員の職種やスキルにより、利用者の希望するサービスが提供できない」が21.3%と前回調査の33.6%より12.3ポイント減少しているものの、「変更やキャンセルが多い」が36.1%と前回調査の21.5%より14.6ポイント増加し、「休日（土・日・祝日）や早朝夜間の対応が難しい」が34.4%と前回調査の25.2%より9.2ポイント増加しています。

また、「その他」では「社会資源、特にヘルパー不足により十分な支援が行き届かない」及び「新規利用希望の問い合わせが少ない。新規で立ち上げた際、周知する機会が少ない」などの回答が挙げられています。

(4) 災害時の備えについて

災害時の準備として実施しているものについては、「地震・水害などの災害（火災を除く）を想定した避難訓練を実施」が68.9%と前回調査の63.6%より5.3ポイント増加している一方で、「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成」が68.9%と前回調査の81.3%より12.4ポイント減少し、「備蓄品の整備」が62.3%と前回調査の65.4%より3.1ポイント減少しています。

また、「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」については、「協定を締結している」が44.3%、「締結していない」（「以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している」及び「協定を締結したことはない」の合計。）が50.8%と、締結していない事業所の方が多くなっています。

なお、協定を解約、もしくは締結していない理由については、「災害発生時に福祉避難所として開設するための職員の確保が難しいため」が48.4%と最も多く、次いで、「福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため」が32.3%、「通所系のサービスを実施していないため」が25.8%となっており、「その他」の理由としては、「他の施設で協定を締結している」及び「協定を把握していなかった」という回答が挙げられています。

今後の締結の意向については、「引き続き協定の締結を継続する」が36.1%、「事業所の体制が整い次第、協定を締結したい」が19.7%、「協定の締結は考えていない」が32.8%となっています。

(5) 地域生活支援拠点について

地域生活支援拠点については、「登録している」が 31.1%、「登録していない」が 67.2%となっています。このうち、登録していない理由については、「地域生活支援拠点の名称・内容は知っているが、事業所として役割を担うことが難しいと感じるため」が 41.5%と最も多く、次いで、「地域生活支援拠点を知らなかったため」が 36.6%、「地域生活支援拠点の名称は知っているが、内容がよくわからないため」が 14.6%となっています。

なお、「地域生活支援拠点を知らなかったため」が全体に占める割合は 24.6%となっており、前回調査の 10.3%より 14.3 ポイント増加しています。

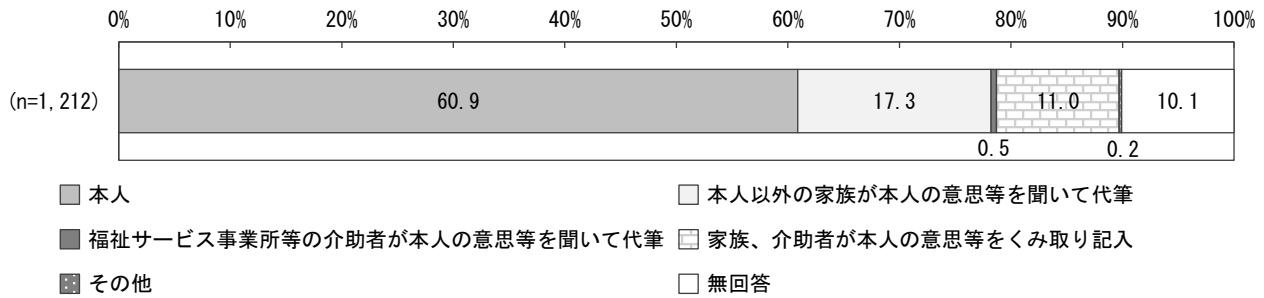
また、地域生活支援拠点に期待する機能については、「地域の体制づくり」が 63.9%と前回調査の 60.7%より 3.2 ポイント多くなっていますが、「緊急時の受け入れ・対応」が 59.0%と前回調査の 74.8%より 15.8 ポイント減少し、「相談支援機能の充実」が 54.1%と前回調査の 62.6%より 8.5 ポイント減少し、「専門的人材の確保・養成」41.0%と前回調査の 56.1%より 15.1 ポイント減少しています。

第3章 障がい福祉に関するアンケート調査

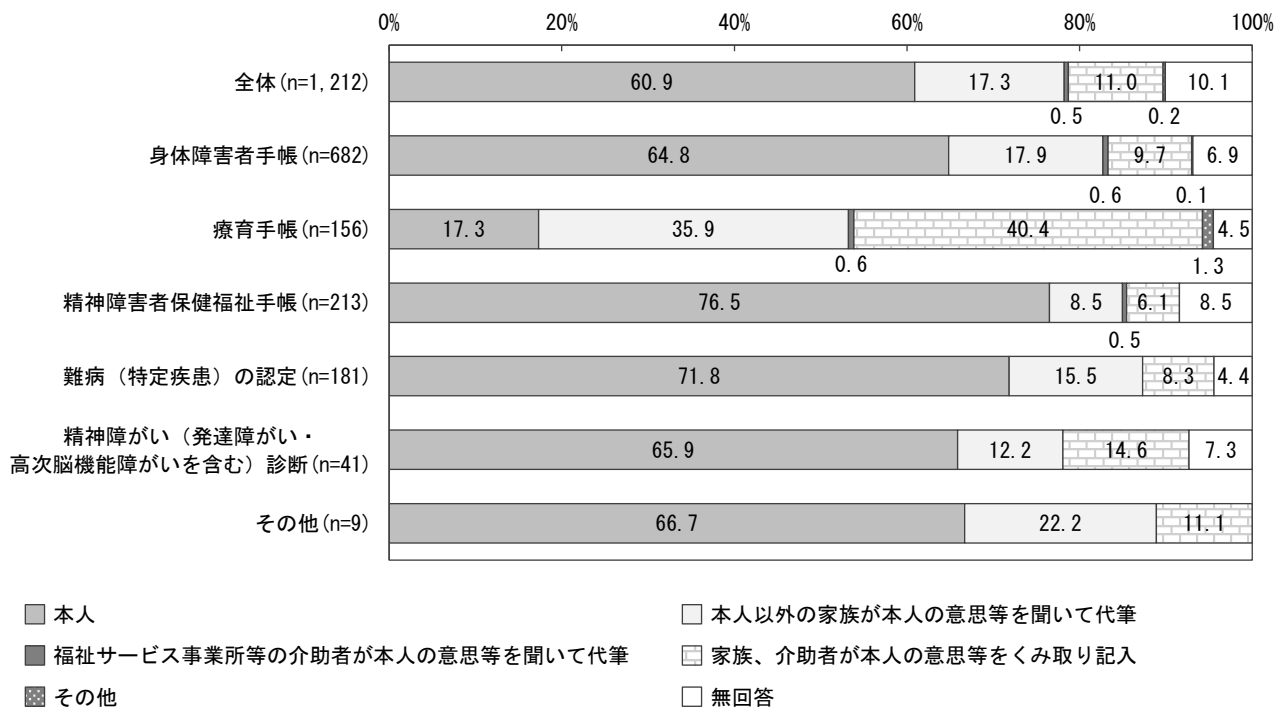
1. 基礎的事項

この調査票を記入していただいたのはどなたですか。（1つに○）

調査票の記入者は、全体では、「本人」が 60.9%で最も多く、次いで、「本人以外の家族が本人の意思等を聞いて代筆」が 17.3%、「家族、介助者が本人の意思等をくみ取り記入」が 11.0%となっています。

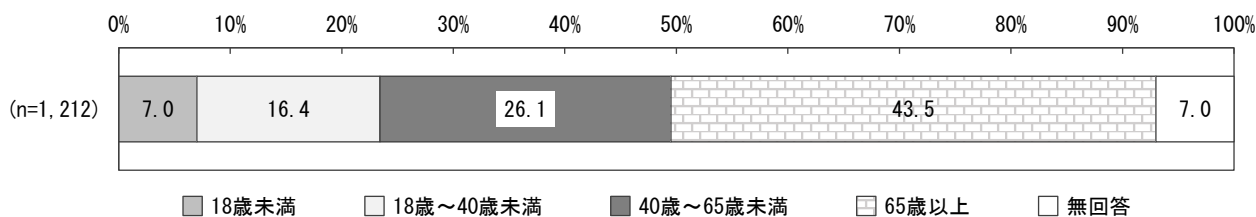


障がい種別ごとに見ると、療育手帳所持者では「家族、介助者が本人の意思等をくみ取り記入」が 40.4%と最も多く、次いで、「本人以外の家族が本人の意思等を聞いて代筆」が 35.9%となっていますが、他の障がい種別では、いずれも「本人」が60%以上と最も多くなっています。



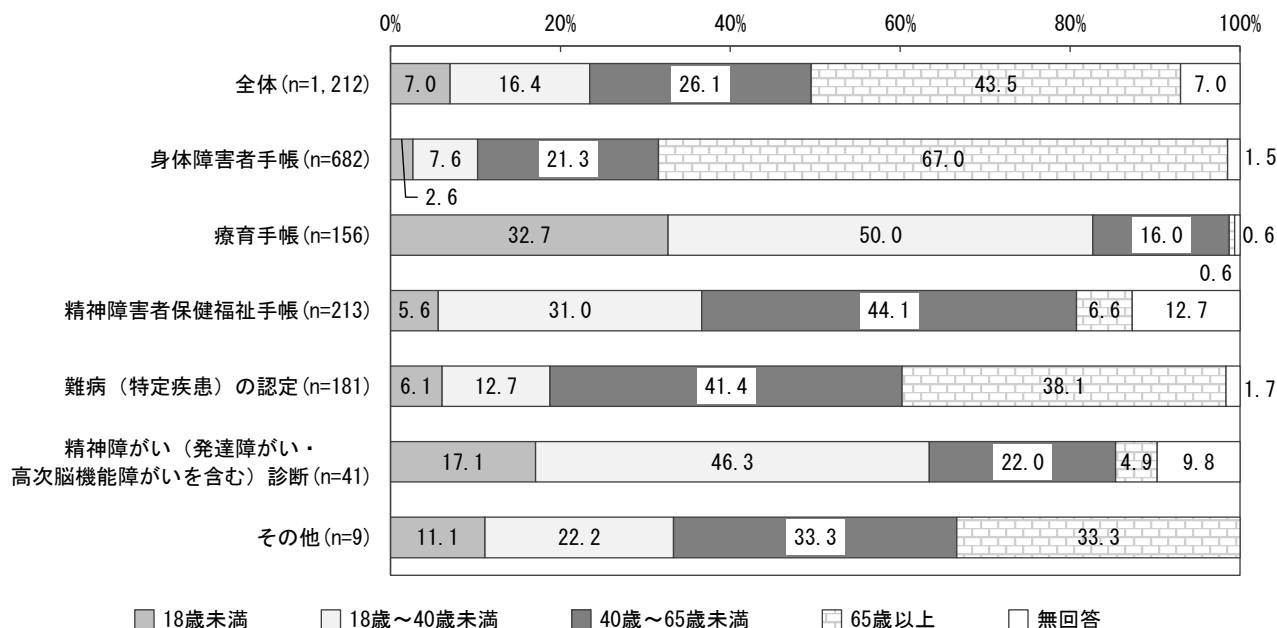
問1 あなたの年齢（令和4年12月1日現在）をお答えください。（記入）

回答者の年齢については、「65歳以上」が43.5%と最も多く、次いで、「40歳～65歳未満」が26.1%、「18歳～40歳未満」が16.4%、「18歳未満」が7.0%となっています。



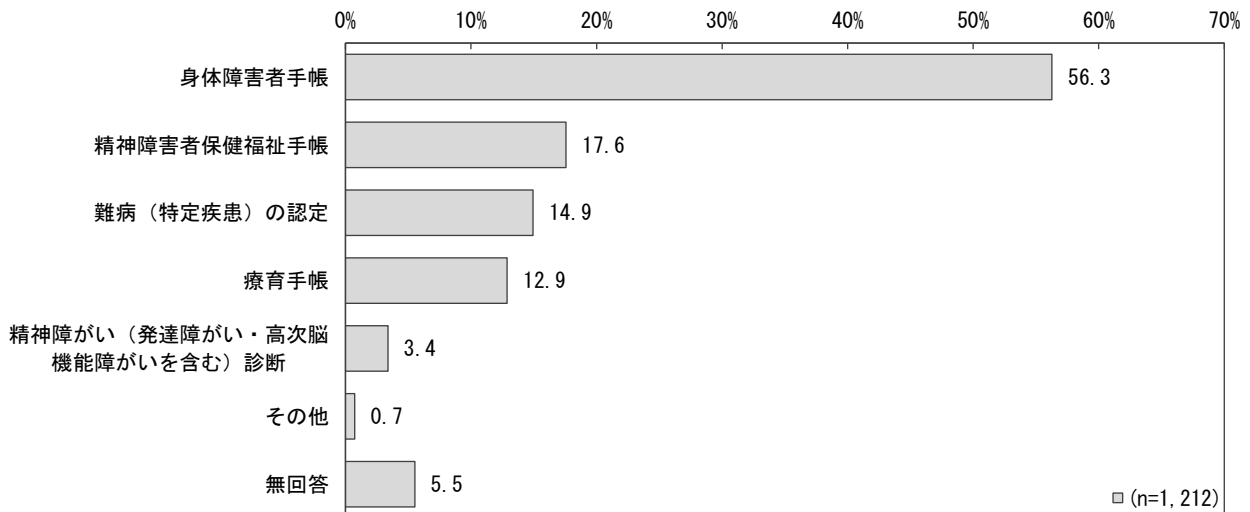
障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「65歳以上」が67.0%と最も多く、療育手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けた方では「18歳～40歳未満」がそれぞれ50.0%、46.3%と最も多くなっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けた方では、「40歳～65歳未満」がそれぞれ44.1%、41.4%と最も多くなっています。



問2 お持ちの手帳や、認定・診断を受けている状況をお答えください。
また、手帳をお持ちの場合は、種類と等級をお答えください。
(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

所持している手帳や認定・診断については、「身体障害者手帳」が56.3%、「精神障害者保健福祉手帳」が17.6%、難病（特定疾患）の認定が14.9%、療育手帳が12.9%となっています。

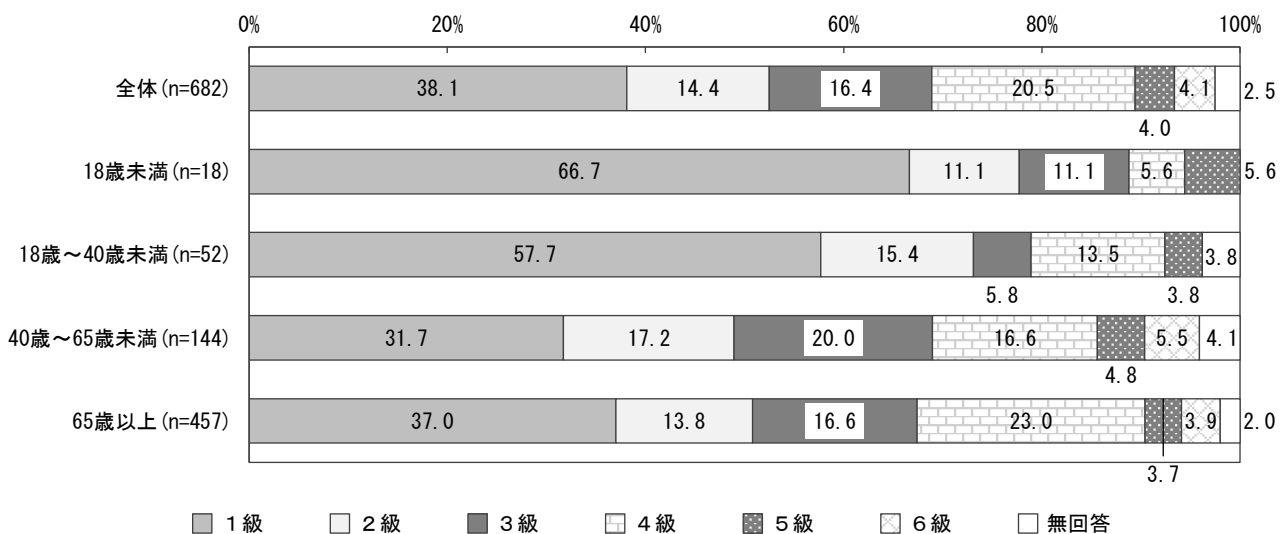


①身体障害者手帳 等級

身体障害者手帳所持者の等級については、全体では、「1級」が38.1%、「2級」が14.4%、「3級」が16.4%、「4級」が20.5%、「5級」が4.0%、「6級」が4.1%となっています。

年齢区分ごとに見ると、18歳未満で「1級」が66.7%と最も多くなっています。

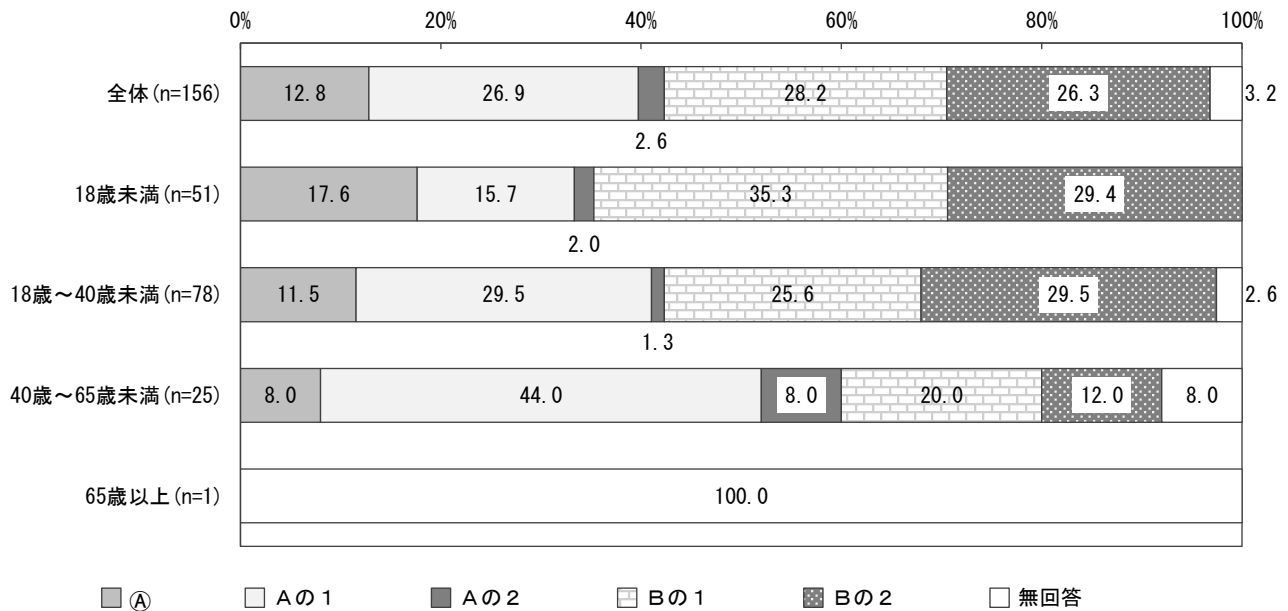
また、年齢が上がるにつれて「3級」「4級」といった中度の割合が高くなっており、65歳以上では「4級」の割合が23.0%となっています。



②療育手帳 等級

療育手帳の等級については、全体では、「A」が12.8%、「Aの1」が26.9%、「Aの2」が2.6%、「Bの1」が28.2%、「Bの2」が26.3%となっています。

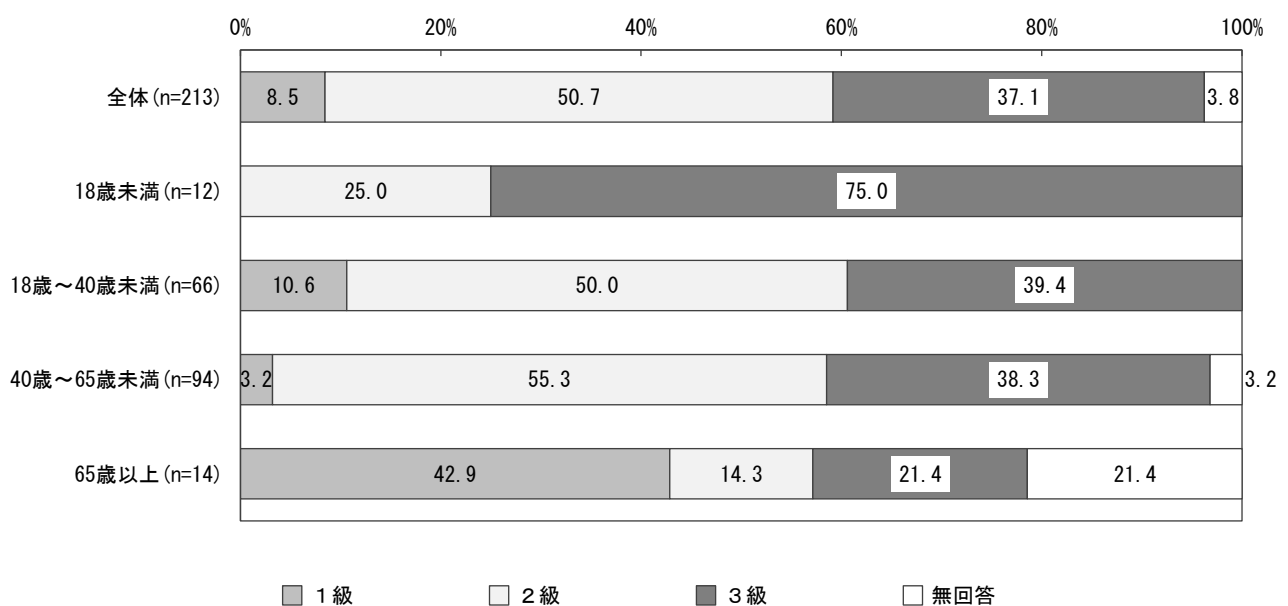
年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「Bの1」が35.3%、18歳～40歳未満では「Aの1」及び「Bの2」がともに29.5%、40歳～65歳未満では「Aの1」が44.0%と最も多くなっています。



③精神障害者保健福祉手帳 等級

精神障害者保健福祉手帳の等級については、全体では、「1級」が8.5%、「2級」が50.7%、「3級」が37.1%となっています。

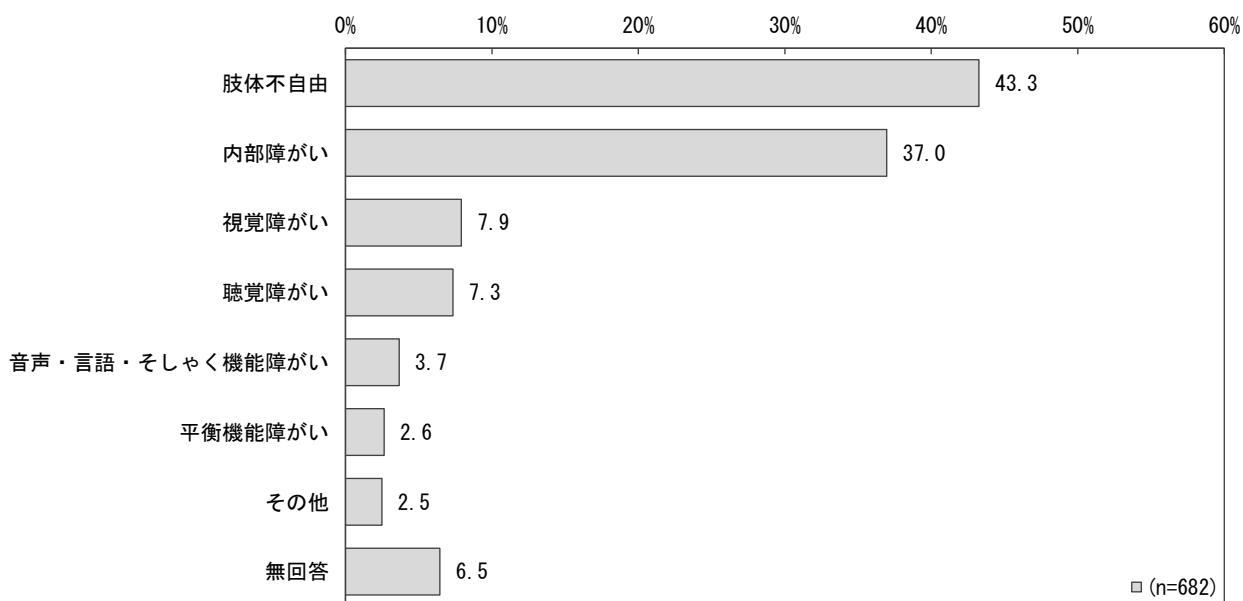
年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「3級」が75.0%と最も多く、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「2級」がそれぞれ50.0%、55.3%となっています。



問2で「1. 身体障害者手帳」と答えた方におたずねします。

問2-1 障がいの種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

身体障がいの種類については、「肢体不自由」が43.3%と最も多く、次いで、「内部障がい」が37.0%となっています。



年齢区分ごとに見ると、いずれの年齢層でも「肢体不自由」が最も多く、いずれの年齢層でも40%以上となっており、特に、18歳未満で61.1%となっています。

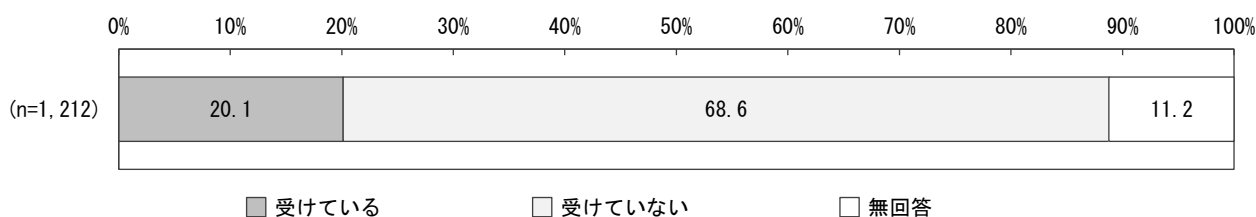
次いで多い回答は、いずれの年齢層でも「内部障がい」となっており、特に、65歳以上では40.5%となっています。

(単位：%)

	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	内部障がい	その他	無回答
全体 (n=682)	7.9	7.3	2.6	3.7	43.3	37.0	2.5	6.5
18歳未満 (n=18)	11.1	5.6	0.0	5.6	61.1	16.7	11.1	5.6
18歳～40歳未満 (n=52)	17.3	11.5	3.8	5.8	42.3	25.0	5.8	7.7
40歳～65歳未満 (n=145)	9.7	9.0	3.4	4.8	42.8	33.8	2.8	8.3
65歳以上 (n=457)	6.3	6.3	2.4	3.1	43.1	40.5	1.8	5.0

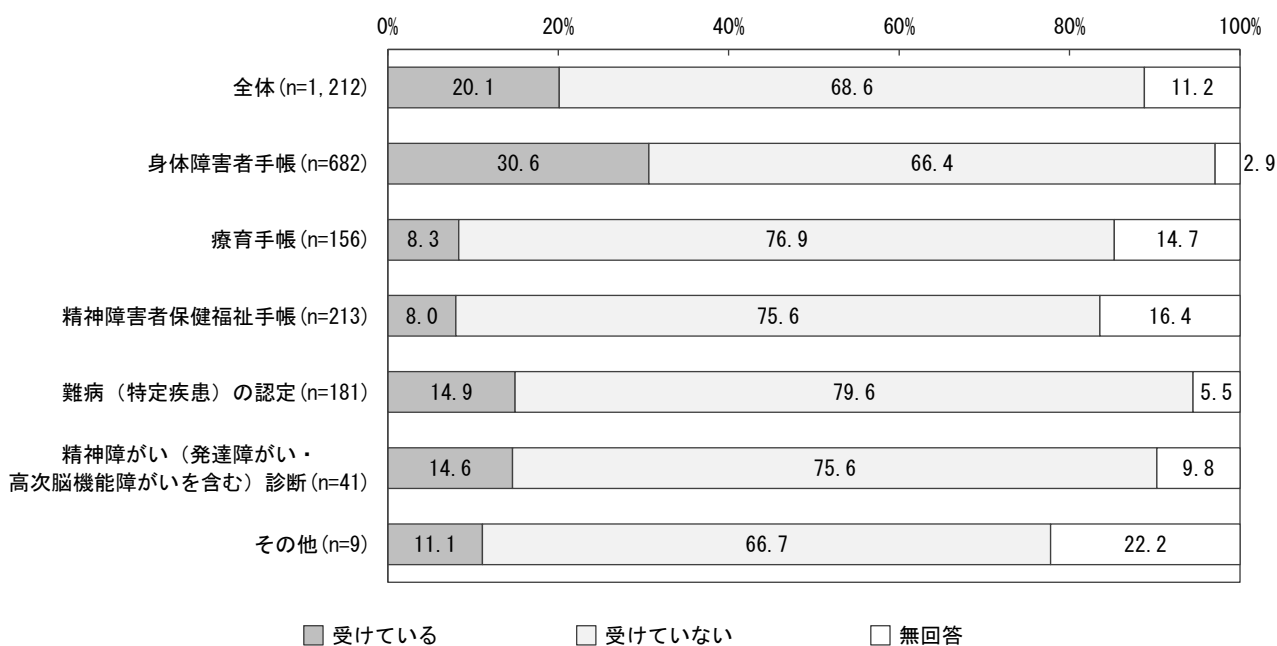
問3 あなたは、日常的に必要なとなる医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

全体では、日常的に必要なとなる医療的ケアを「受けている」人が20.1%、「受けていない」人が68.6%となっています。



障がい種別ごとに見ると、いずれの障がい種別でも、日常的に必要なとなる医療的ケアを「受けてない」人の割合が60%以上となっており、「受けている」人を上回っています。

なお、身体障害者手帳所持者では、日常的に必要なとなる医療的ケアを「受けている」人が30.6%となっており、他の障がい種別より多くなっています。

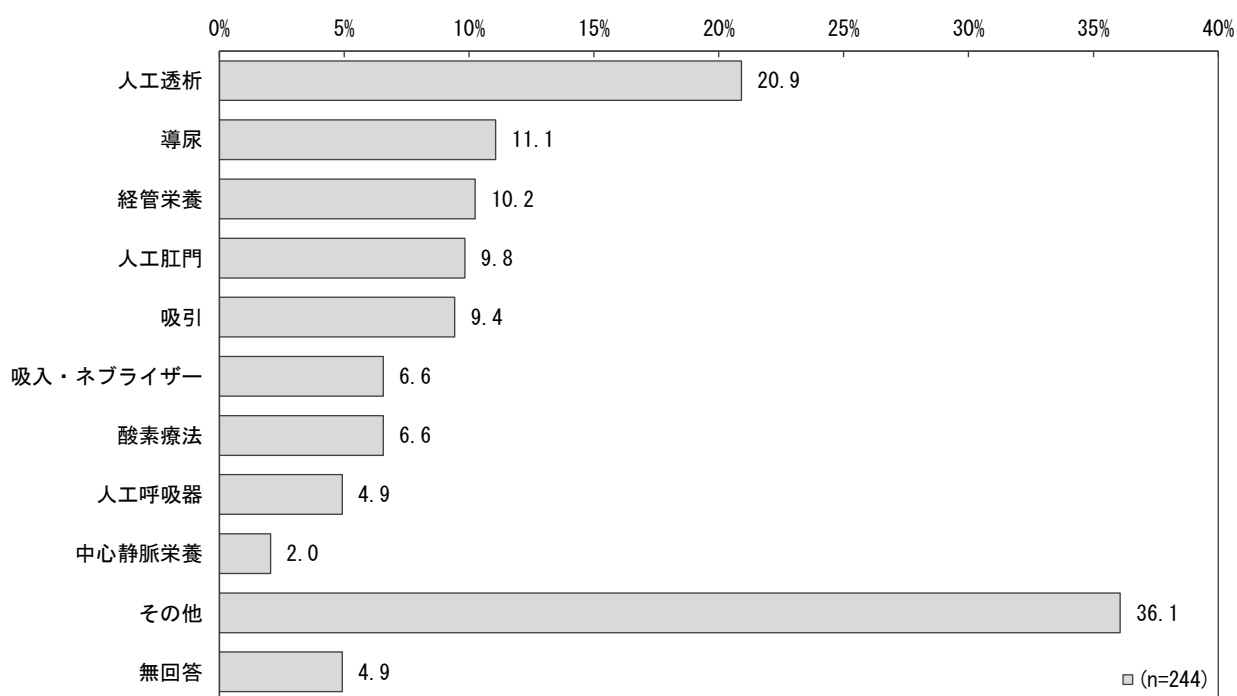


問3で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

問3-1 あなたが現在受けている医療ケア、または医療的ケアの種類は次のどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

現在受けている医療ケアとその種類については、「人工透析」が20.9%と最も多く、次いで、「導尿」が11.1%、「経管栄養」が10.2%となっています。

なお、「その他」では、「ペースメーカー埋め込み」及び「服薬処方」などの回答が多く挙げられています。



・その他一覧

- ・ペースメーカー埋め込み (23 件)
- ・服薬処方 (14 件)
- ・リハビリ (6 件)
- ・通院 (3 件)
- ・定期健診 (3 件)
- ・心臓機能検査 (3 件)
- ・胃瘻 (3 件)
- ・メンタルクリニック (3 件)
- ・カウンセリング (2 件)
- ・マッサージ (2 件)
- ・高血圧 (2 件)

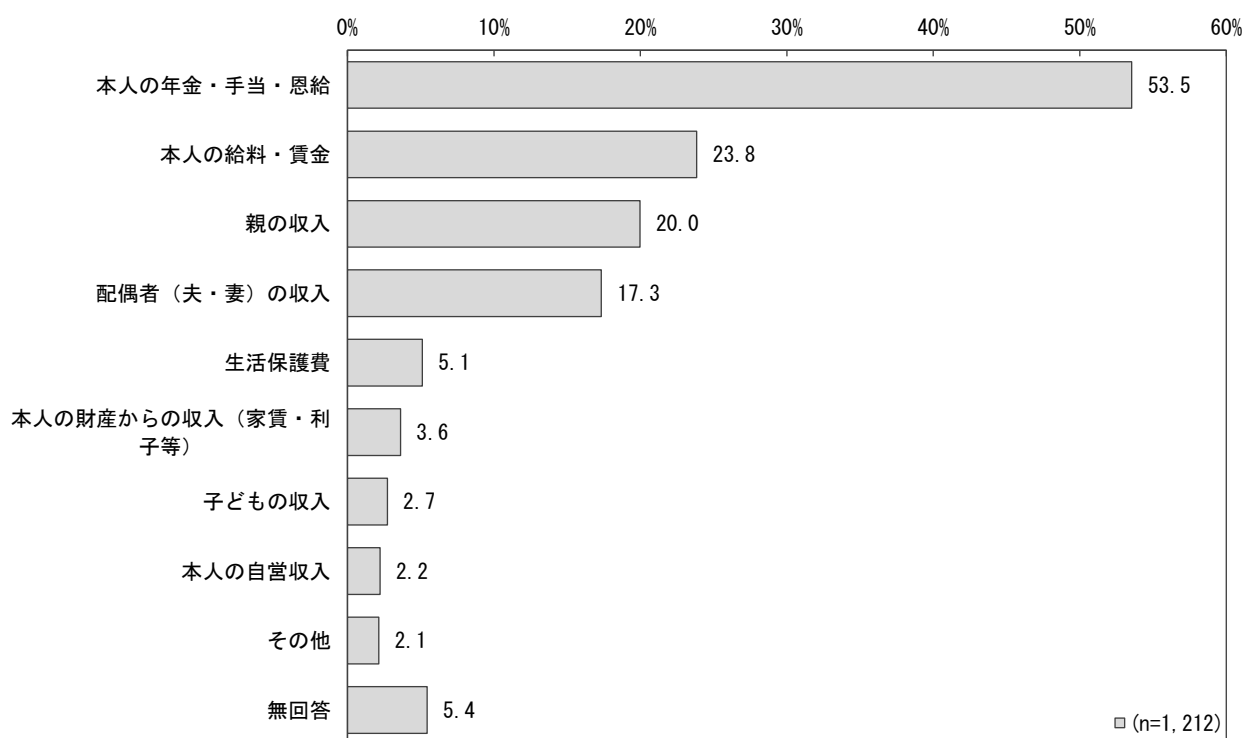
- ・C-PAP
- ・脳神経系
- ・腹膜透析
- ・注射
- ・予約外来
- ・気管切開管理
- ・訪問看護
- ・酵素療法
- ・糖尿
- ・脈、体温測定
- ・尿管ステント留置
- ・補聴器
- ・肢体不自由の難病。進行性核上性マヒ。
- ・点滴、リウマチ
- ・セブリオン/治療
- ・理学療法
- ・車椅子
- ・毎月耳垢を取ってもらっている。

※以下では1件ずつの回答となっています。

- ・人工膀胱
- ・歩行器
- ・メトグルコ
- ・睡眠時無呼吸対策のマスク療法
- ・脳梗塞

問4 あなたが現在の生活をしていくうえでの主な収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在の生活をしていくうえでの主な収入については、「本人の年金・手当・恩給」が53.5%と最も多く、次いで、「本人の給料・賃金」が23.8%、「親の収入」が20.0%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「本人の年金・手当・恩給」がそれぞれ70.1%、41.3%、43.1%と最も多く、療育手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「親の収入」がそれぞれ78.2%、58.5%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、療育手帳所持者では「本人の年金・手当・恩給」となっていますが、他の障がい種別では、「本人の給料・賃金」となっています。

（単位：％）

	本人の給料・賃金	本人の自営収入	本人の年金・手当・恩給	本人の財産からの収入 (家賃・利子等)	親の収入	配偶者(夫・妻)の収入	子どもの収入	生活保護費	その他	無回答
全体(n=1,212)	23.8	2.2	53.5	3.6	20.0	17.3	2.7	5.1	2.1	5.4
身体障害者手帳(n=682)	20.7	3.5	70.1	5.0	7.3	19.2	4.0	4.0	2.5	0.9
療育手帳(n=156)	24.4	0.6	34.0	0.0	78.2	1.3	0.0	1.9	0.6	2.6
精神障害者保健福祉手帳(n=213)	29.6	0.5	41.3	1.4	33.3	17.4	0.0	16.9	3.3	2.8
難病(特定疾患)の認定(n=181)	33.7	1.1	43.1	5.0	12.7	28.7	3.9	2.8	1.7	0.6
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断(n=41)	41.5	0.0	39.0	2.4	58.5	9.8	0.0	2.4	2.4	7.3
その他(n=9)	33.3	0.0	11.1	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0

年齢区分ごとに見ると、18歳未満及び、18歳～40歳未満では「親の収入」がそれぞれ92.9%、50.8%と最も多く、40歳～65歳未満では「本人の給料・賃金」が44.3%、65歳以上では「本人の年金・手当・恩給」が84.6%と最も多くなっています。

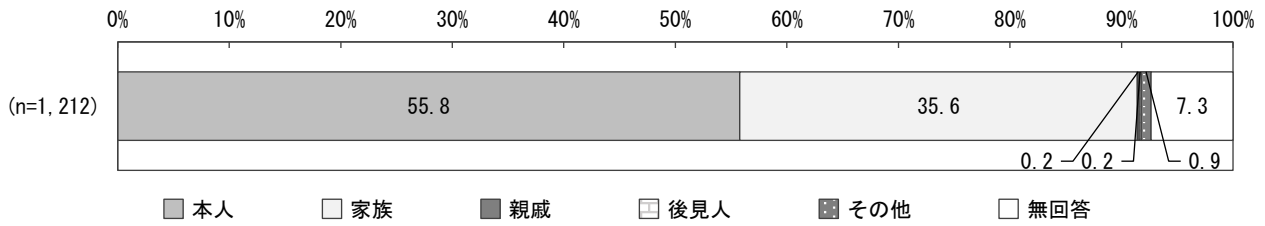
次いで多い回答は、18歳～40歳未満では「本人の給料・賃金」が41.2%、40歳～65歳未満では「本人の年金・手当・恩給」が37.7%、65歳以上では「配偶者(夫・妻)の収入」が19.0%となっています。

（単位：％）

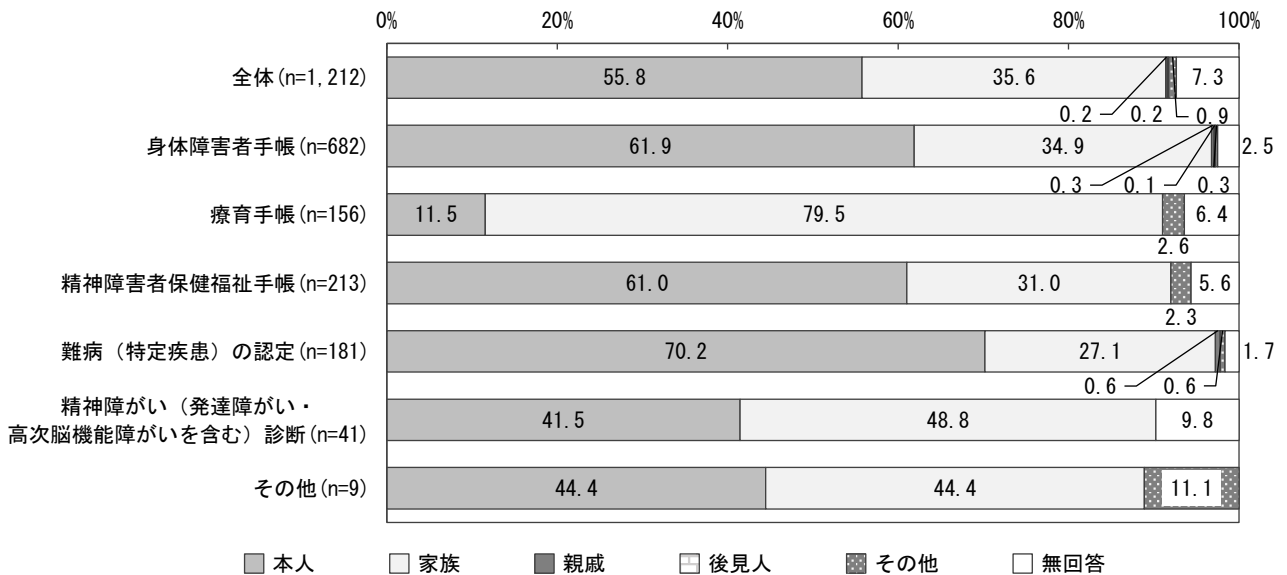
	本人の給料・賃金	本人の自営収入	本人の年金・手当・恩給	本人の財産からの収入 (家賃・利子等)	親の収入	配偶者(夫・妻)の収入	子どもの収入	生活保護費	その他	無回答
全体(n=1,212)	23.8	2.2	53.5	3.6	20.0	17.3	2.7	5.1	2.1	5.4
18歳未満(n=85)	0.0	0.0	3.5	1.2	92.9	3.5	0.0	0.0	1.2	1.2
18歳～40歳未満(n=199)	41.2	0.5	33.7	0.5	50.8	12.6	0.0	4.5	3.0	4.0
40歳～65歳未満(n=316)	44.3	1.9	37.7	2.5	15.8	23.1	2.5	10.1	2.2	2.2
65歳以上(n=527)	10.6	3.6	84.6	6.5	0.8	19.0	4.7	2.7	2.1	0.6

問5 あなたの収入を管理しているのは、誰ですか。(主なもの1つに○)

収入を管理している人については、「本人」が55.8%と最も多く、次いで、「家族」が35.6%となっています。

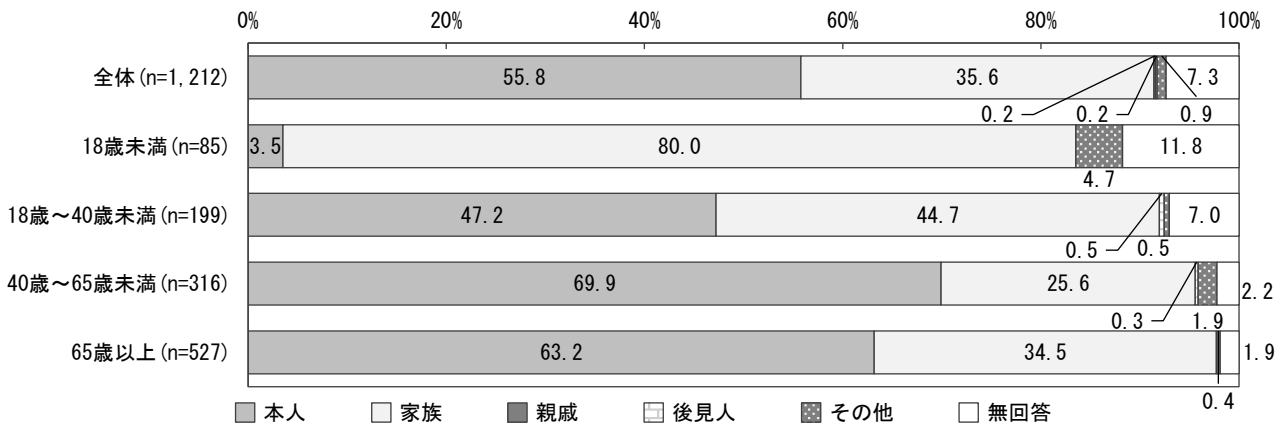


障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「本人」がそれぞれ61.9%、61.0%、70.2%と最も多くなっていますが、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「家族」が48.8%と最も多く、療育手帳所持者では「家族」が79.5%と最も多くなっています。



年齢区分ごとに見ると、18歳～40歳未満より上の年齢では、「本人」が最も多く、40歳～65歳未満では69.9%となっています。

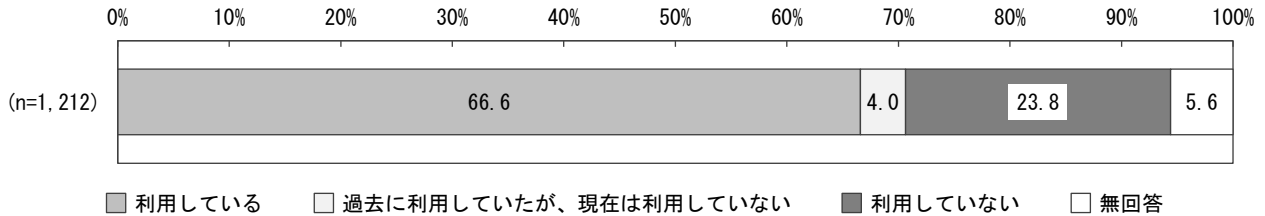
また、18歳未満では「本人」が3.5%にとどまっておき、「家族」が80.0%となっています。



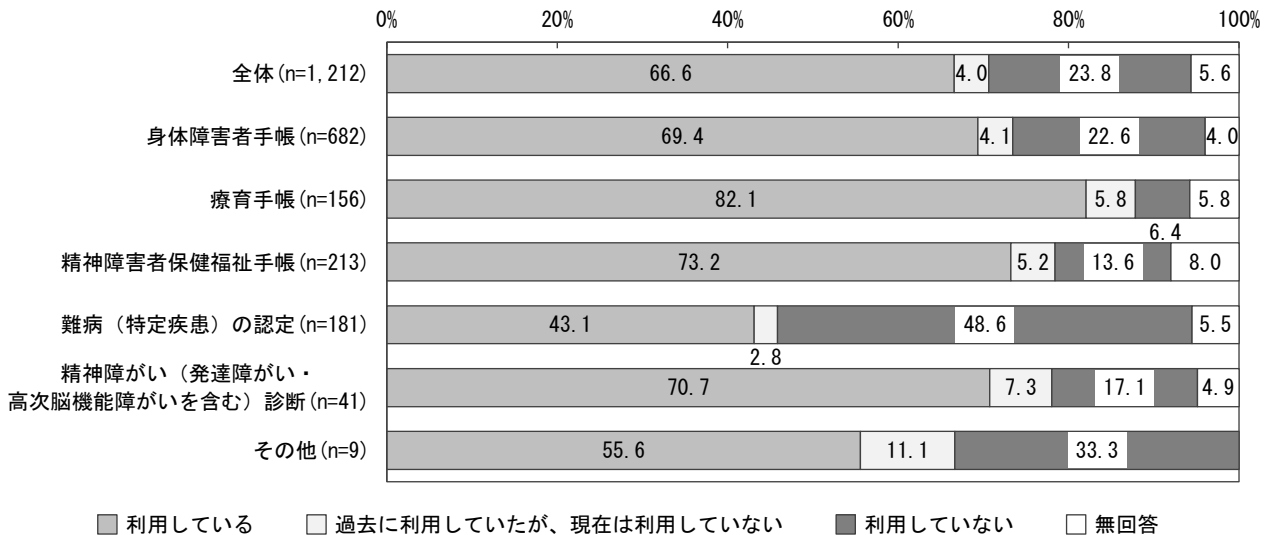
2. 福祉サービス等について

問6 あなたは障がい福祉サービス・制度を利用していますか。(1つに○)

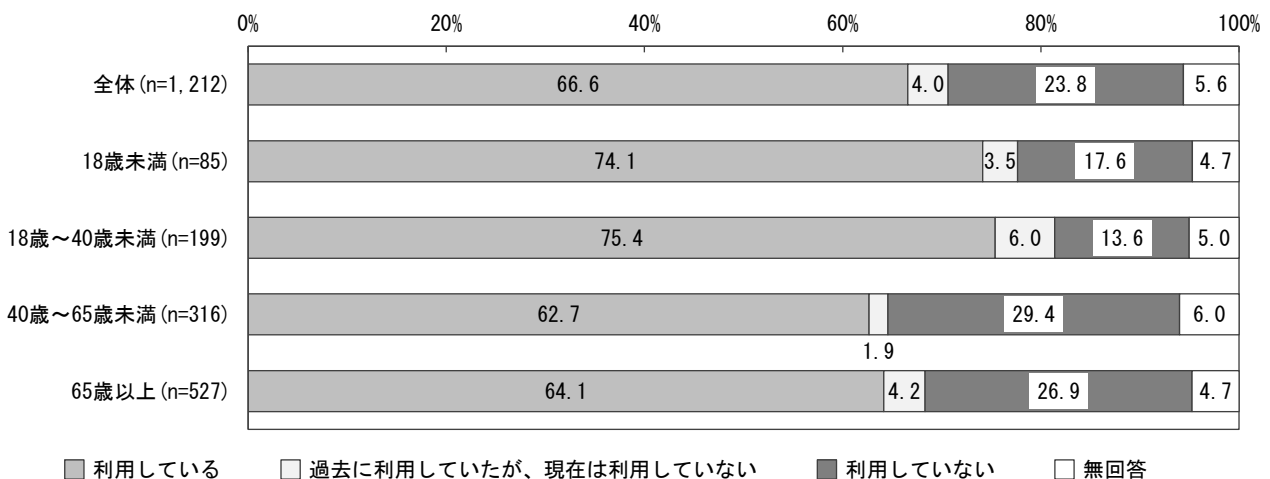
障がい福祉サービス・制度については、「利用している」が66.6%、「過去に利用していたが、現在は利用していない」が4.0%、「利用していない」が23.8%となっています。



障がい種別ごとに見ると、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「利用している」が43.1%と他の障がい種別より少なくなっています。



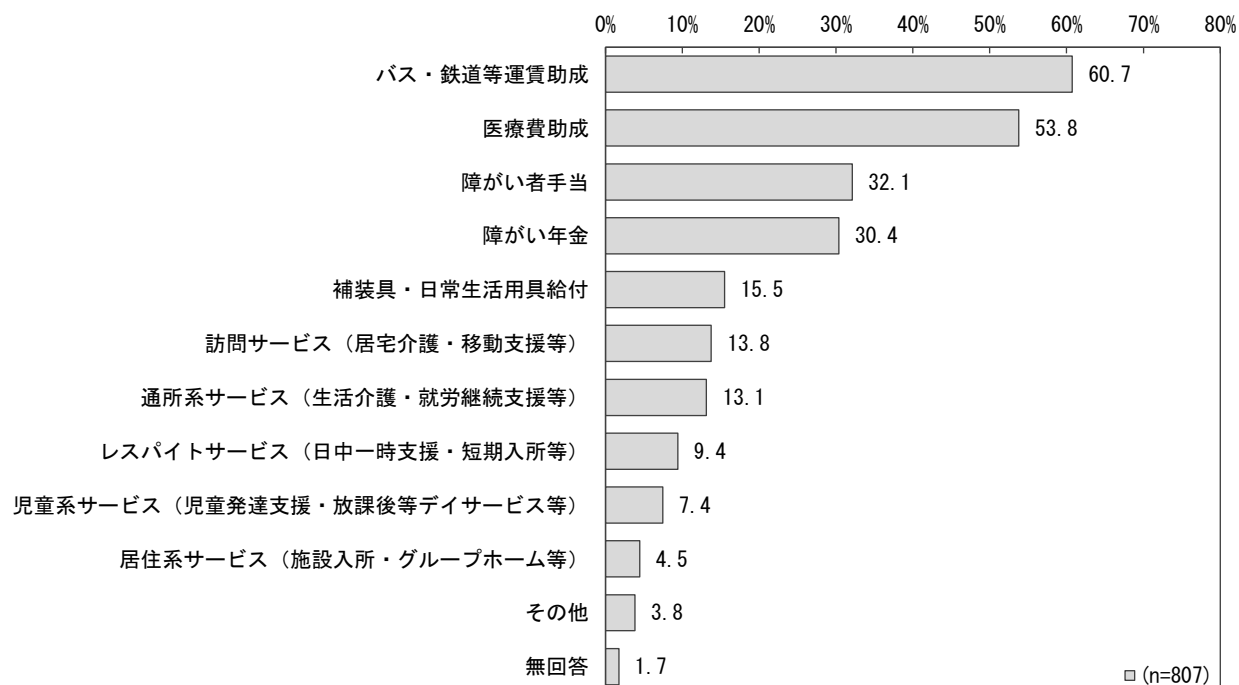
年齢区分ごとに見ると、「利用している」は40歳未満では70%以上となっているのに対し、40歳以上では60%代と少なくなっています。



問6で「1.利用している」と答えた方におたずねします。

問6-1 現在、どの障がい福祉サービス・制度を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

現在利用している障がい福祉サービス・制度については、「バス・鉄道等運賃助成」が60.7%と最も多く、次いで、「医療費助成」が53.8%、「障がい者手当」が32.1%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「バス・鉄道等運賃助成」がそれぞれ65.5%、53.1%、64.1%、75.9%と最も多くなっていますが、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「医療費助成」が82.1%と最も多くなっています。

(単位：%)

	障がい者手当	障がい年金	バス・鉄道等運賃助成	医療費助成	補装具・日常生活用具給付	訪問サービス (居宅介護・移動支援等)	通所系サービス (生活介護・就労継続支援等)	居住系サービス (施設入所・グループホーム等)	レスパイトサービス (日中一時支援・短期入所等)	児童系サービス (児童発達支援・放課後等デイサービス等)	その他	無回答
全体 (n=807)	32.1	30.4	60.7	53.8	15.5	13.8	13.1	4.5	9.4	7.4	3.8	1.7
身体障害者手帳 (n=473)	41.9	23.9	65.5	54.8	22.8	14.6	8.0	4.0	3.6	3.0	3.8	1.5
療育手帳 (n=128)	31.3	44.5	53.1	42.2	10.2	21.9	36.7	7.0	46.1	35.2	0.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=156)	12.2	49.4	64.1	54.5	3.8	15.4	19.9	3.2	5.8	4.5	5.1	3.2
難病（特定疾患）の認定 (n=78)	21.8	19.2	37.2	82.1	16.7	15.4	2.6	2.6	3.8	2.6	1.3	1.3
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=29)	20.7	48.3	75.9	48.3	0.0	17.2	24.1	3.4	24.1	17.2	10.3	0.0
その他 (n=5)	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

問6で「1. 利用している」と答えた方におたずねします。

問6-2 利用しているサービス・制度名の番号（問6-1で選んだ番号）と、利用したご意見を教えてください。（記入）

利用しているサービス・制度と利用した意見について、369名から回答がありました。

各意見を、問6-1の選択肢ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は562件となり、回答者数よりも多くなっています。

項目	件数	主な意見
1. 障がい者手当	33	<ul style="list-style-type: none"> ・制度に対する感謝・満足 (23件) ・手続きについて (6件) ・手当の金額について (2件) ・情報について (1件) ・制度利用について (1件)
2. 障がい年金	47	<ul style="list-style-type: none"> ・制度に対する感謝・満足 (26件) ・年金額について (13件) ・手続きについて (5件) ・制度の必要性について (2件) ・その他 (1件)
3. バス・鉄道等運賃助成	210	<ul style="list-style-type: none"> ・制度利用について (142件) ・助成金額について (29件) ・制度に対する感謝・満足 (24件) ・手続きについて (7件) ・制度についての感想 (4件) ・利用した影響について (2件) ・情報について (1件) ・その他 (1件)
4. 医療費助成	97	<ul style="list-style-type: none"> ・制度に対する感謝・満足 (59件) ・手続きについて (20件) ・助成金額について (8件) ・更新について (5件) ・制度利用について (4件) ・その他 (1件)
5. 補装具・日常生活用具給付	46	<ul style="list-style-type: none"> ・制度に対する感謝・満足 (19件) ・装具について (13件) ・給付金について (7件) ・手続きについて (7件)
6. 訪問サービス（居宅介護・移動支援等）	34	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスに対する感謝・満足 (13件) ・サービス利用について (10件) ・事業所・職員について (9件) ・手続きについて (1件) ・その他 (1件)
7. 通所系サービス（生活介護・就労継続支援等）	21	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスに対する感謝・満足 (7件) ・通所施設・職員について (5件) ・サービス利用について (3件) ・サービス利用の影響について (3件) ・助成について (1件) ・その他 (2件)
8. 居住系サービス（施設入所・グループホーム等）	8	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用について (5件) ・サービスに対する感謝・満足 (1件) ・金額について (1件) ・その他 (1件)
9. レスパイトサービス（日中一時支援・短期入所等）	24	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスに対する感謝・満足 (9件) ・事業所について (8件) ・サービス利用について (5件) ・手続きについて (2件)
10. 児童系サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス等）	29	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスに対する感謝・満足 (14件) ・施設・職員について (9件) ・サービス利用について (3件) ・手続きについて (2件) ・その他 (1件)
11. その他	13	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスに対する感謝・満足 (5件) ・サービス利用について (5件) ・手続きについて (3件)
合計	562	

頂いたご意見を項目ごとに整理すると、以下の通りです。

1. 障がい者手当 (33 件)

- ・各種手当などをいただき、定期変換での入院時に実用の負担で助かっている。
- ・ガソリン代申請において市役所に書類(領収書)提出の不便。画像などオンライン望む。
- ・オンラインやマイナンバーカードなどで手続きがスマートになると助かります。
- ・障害認定までの期間が長い。申請時に遡及したらどうか。
- ・今どれだけの種類の手当をもらっているか漏れがないかわからない。

2. 障がい年金 (47 件)

- ・フルタイムでの労働ができないため、助かっている。
- ・健常者と同等の収入がある場合、年金支給額は収入に応じて違いがあっても良いのでは。
- ・年金制度が複雑で手続き時説明を受けても理解しきれなかった。
- ・有難いが認定のハードルが高すぎて、実情に即していない。
- ・障害年金、規定の症状だが(内部障害)、手帳に規定がない病名のため、本来の身体障害者手帳の申請ができない。

3. バス・鉄道等運賃助成 (210 件)

- ・公共交通機関を利用するときに、手帳と IC カードを両方提示しなければならず、不便である。
- ・運転手(バス)に嫌な顔をされることがある。
- ・従来の福祉乗車券¥5,600、IC カード¥3,000 助成、不公平です。IC カード助成を年 1 回から年 2 回くらいまで助成してください。
- ・おさんぽバスにも助成があるとありがたいです。停留所で降りること、再び乗る事等、本人のペースで様々なケースがあり、ヘルパー代とで結構な交通費になることがしばしばあるため。
- ・車の ETC の手続きが難解で不便です。
- ・PASMO の入金領収証を福祉課へ届けられないといけない。自動振り込みで本人に入金してほしい。
- ・手帳提示が面倒。又、紙製なのでボロボロで困っている。
- ・交通移動時に 1 人で行ける時、子供料金を適応してほしい。

4. 医療費助成 (97 件)

- ・県内一律の支払いで助かっています。
- ・保険証と同じ扱いですが、会計のたびに見せないといけないので手間だなと思っている。
- ・他市で受診した時清算するのが不便である。
- ・難病者見舞金現状届出書の作成費用が高額化してきている。
- ・更新のための期間が短すぎる。
- ・自立支援で一つの病院だけではなく複数の病院をカバーしてもらいたい。

5. 補装具・日常生活用具給付（46件）

- ・入浴を助けていただいたり、身体の機能の補助をして頂いたりと助かっています。
- ・定期的に装具の購入が必要であるが助成金のみでは全く足りない為、自己負担も多くなり、災害時などに備えて予備を手元に用意しておくには自己負担が増えるのでもう少し考えてもらいたい。
- ・電動車いす給付時、障がい者相談センターまで出向くのが大変。
- ・給付費が補装具の価格上昇に追いついてなく負担が大。
- ・年2回の申し込みを1回にしてほしい。

6. 訪問サービス（居宅介護・移動支援等）（34件）

- ・外出時介護タクシーで移動支援利用。助かっています。
- ・移動支援でヘルパーの交通費などかかるので、行きたい所に行けない。
- ・移動に施設マイクロバスが利用可能であれば助かります。
- ・スタッフさんの定着が短い印象が最近感じます。年間通して確実に依頼を引き受けてもらえる確率が低くなっているのが不安です。

7. 通所系サービス（生活介護・就労継続支援等）（21件）

- ・働ける場所がなかったので助かっています。
- ・就労先への自分の希望が伝わらないことが多い。
- ・もう少し通勤の助成があるとよい。

8. 居住系サービス（施設入所・グループホーム等）（8件）

- ・特養入所していると、同じ施設内のデイサービスを受けられず、日々の楽しみがない。（手足不自由でTV視聴等も不自由。別料金支払うのでデイサービスを受けたい。）
- ・浦安市に施設が少ないので不便である。

9. レスパイトサービス（日中一時支援・短期入所等）（24件）

- ・学校外で過ごす時間がありとても良い。
- ・医ケアがあると日中一時支援になかなか入れない。浦安市でも医ケアの子どもを受け入れる短期入所施設を作ってほしい。他の市で利用しています。遠くて不便です。

10. 児童系サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス等）（29件）

- ・必要な支援を受けられて、とても感謝している。
- ・なかなか空きがない。施設により、人員の質に差がある。
- ・医療ケアを行う事業が少なく不便。

11. その他（13件）

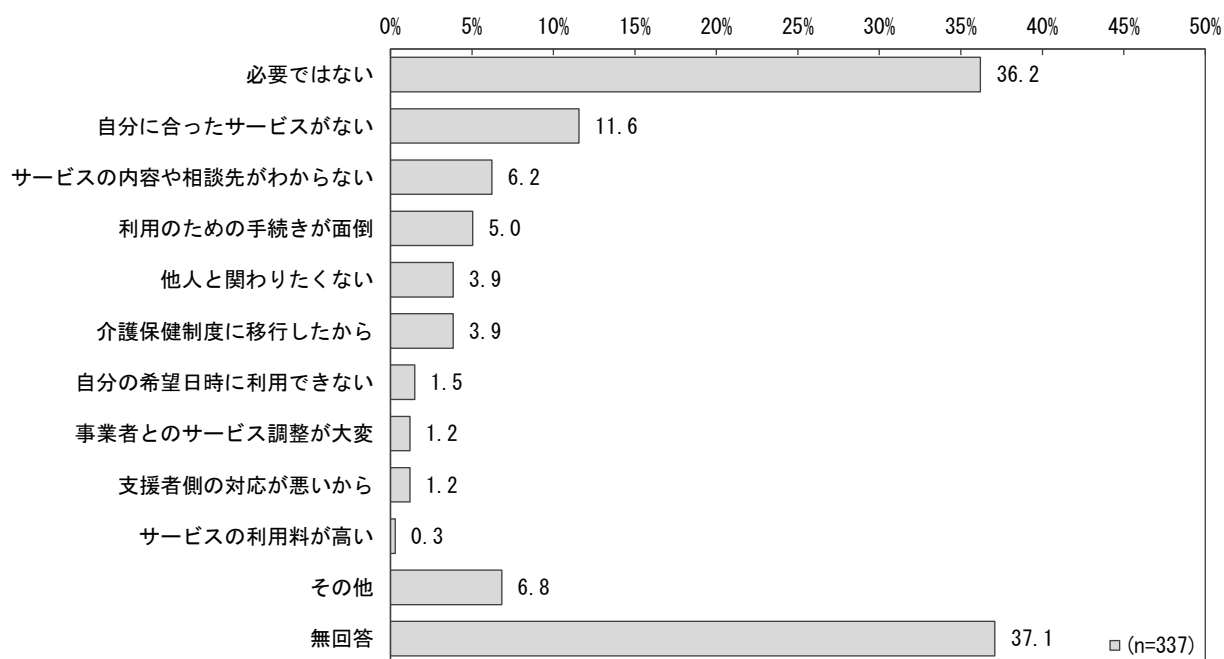
- ・通所している事業所でできない身体の機能訓練や専門職の意見を聞けるところが良い。
- ・第三者の目線で指導していただけますので、能力向上に役立つと思います。

問6で「2. 過去に利用していたが、現在は利用していない」または「3. 利用していない」と答えた方におたずねします。

問6-3 サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

サービスを利用していない理由については、「必要ではない」が36.2%と最も多く、次いで、「自分に合ったサービスがない」が11.6%、「サービスの内容や相談先がわからない」が6.2%となっています。

なお、「その他」では、「現在、サービス検討中」及び「サービス内容を把握していない」などの理由が挙げられています。



障がい種別ごとに見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「自分に合ったサービスがない」が30.0%と最も多くなっていますが、他の障がい種別では「必要ではない」が最も多くなっています。

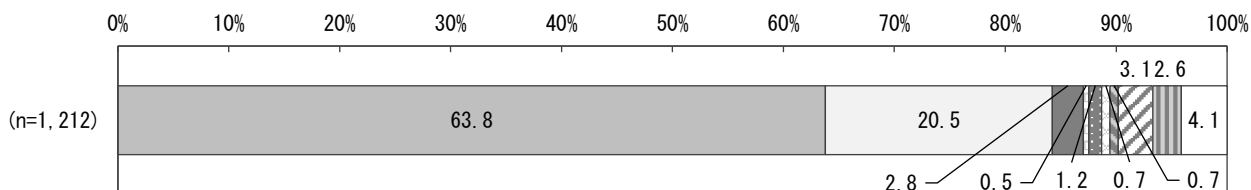
(単位：%)

	必要ではない	自分に合ったサービスがない	サービスの内容や相談先がわからない	サービスの利用料が高い	利用のための手続きが面倒	事業者とのサービス調整が大変	自分の希望日時に利用できない	支援者側の対応が悪いから	他人と関わりたくない	介護保健制度に移行したから	その他	無回答
全体 (n=337)	36.2	11.6	6.2	0.3	5.0	1.2	1.5	1.2	3.9	3.9	6.8	37.1
身体障害者手帳 (n=182)	34.6	10.4	7.7	0.5	5.5	0.5	0.5	0.0	4.4	6.0	8.2	33.5
療育手帳 (n=19)	31.6	21.1	10.5	0.0	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	5.3	10.5	31.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=40)	27.5	30.0	12.5	0.0	15.0	5.0	5.0	7.5	12.5	0.0	10.0	27.5
難病（特定疾患）の認定 (n=93)	40.9	7.5	2.2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	47.3
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=10)	40.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	20.0	30.0
その他 (n=4)	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0

3. 生活の場について

問7 あなたは現在、どこで暮らしていますか。(主なもの1つに○)

現在の住まいについては、「持ち家（戸建て、分譲マンション等）」が63.8%と最も多く、次いで、「民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート、マンション等）」が20.5%となっています。



- 持ち家（戸建て、分譲マンション等）
- 民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート、マンション等）
- 公営住宅（県営住宅、市営住宅等）
- 社宅、会社の寮
- グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）
- 病院に入院
- 障がい者・障がい児の福祉施設に入所
- 介護保健施設（特別擁護老人ホーム等）に入所
- その他
- 無回答

障がい種別ごとに見ると、どの障がい種別でも「持ち家（戸建て、分譲マンション等）」が最も多く、次いで、「民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート、マンション等）」となっています。

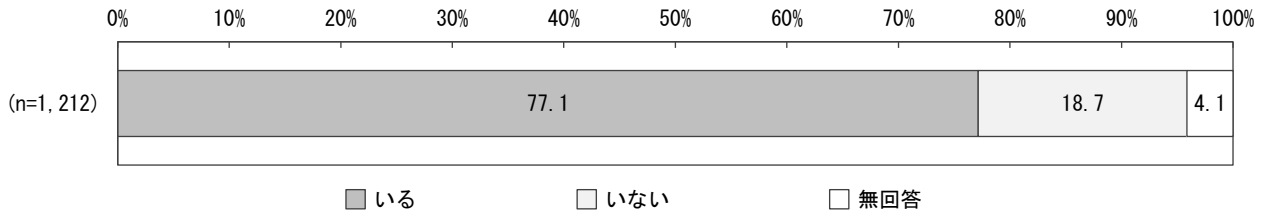
また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート、マンション等）」が34.7%と他の障がい種別よりも多くなっています。

(単位：%)

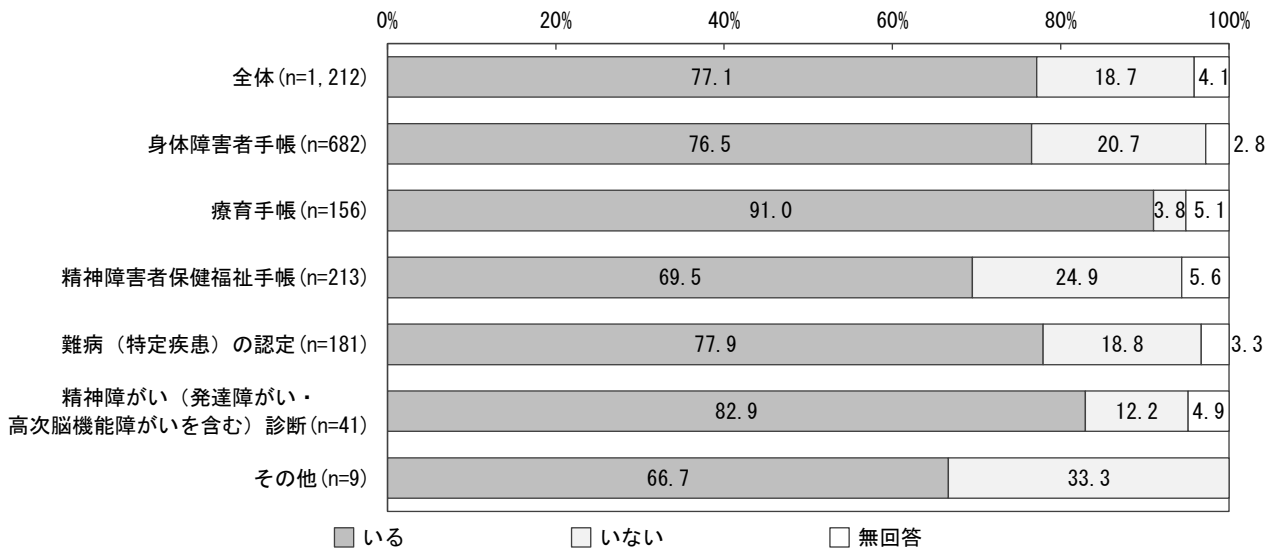
	持ち家（戸建て、分譲マンション等）	民間賃貸住宅（戸建て、賃貸アパート、マンション等）	公営住宅（県営住宅、市営住宅等）	社宅、会社の寮	グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）	病院に入院	障がい者・障がい児の福祉施設に入所	介護保健施設（特別擁護老人ホーム等）に入所	その他	無回答
全体 (n=1,212)	63.8	20.5	2.8	0.5	1.2	0.7	0.7	3.1	2.6	4.1
身体障害者手帳 (n=682)	67.4	16.1	3.8	0.3	0.6	0.9	0.6	4.8	2.8	2.6
療育手帳 (n=156)	61.5	21.8	1.9	0.6	2.6	0.0	3.8	0.0	1.3	6.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	46.9	34.7	1.9	0.9	2.3	1.9	0.0	1.4	3.3	6.6
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	69.1	21.0	2.2	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	1.7	3.3
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	53.7	36.6	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9
その他 (n=9)	33.3	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0

問8 一緒に住んでいる方はいますか。(1つに○)

同居者の有無については、「いる」が77.1%、「いない」が18.7%となっています。



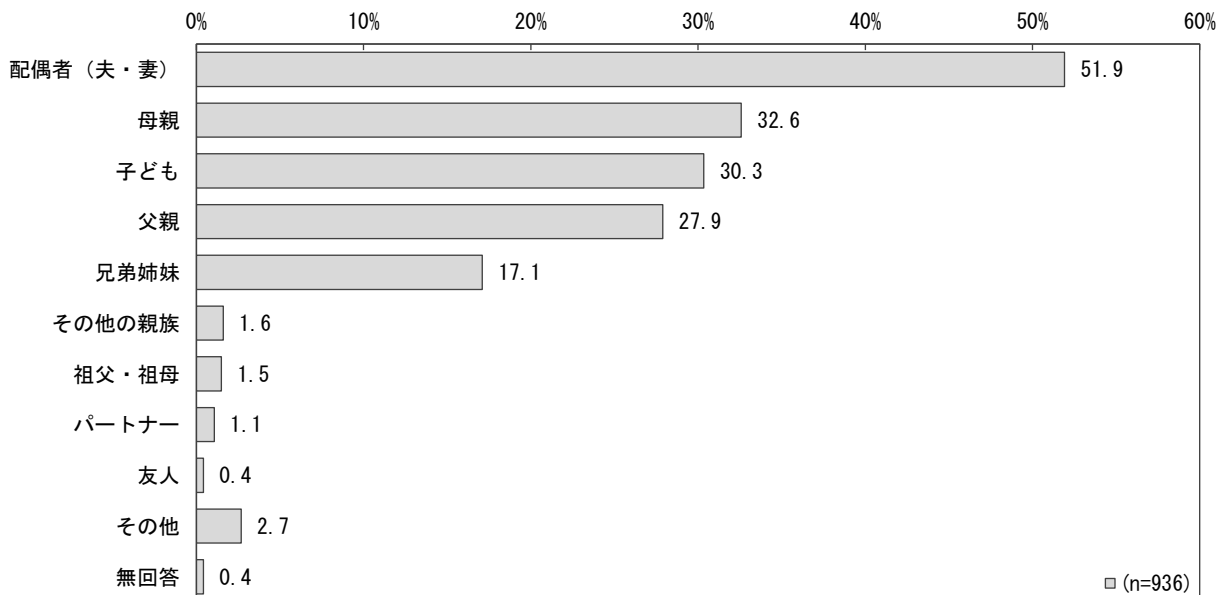
障がい種別ごとに見ると、いずれの障がい種別でも「いる」が60%以上となっており、特に、療育手帳所持者では「いる」が91.0%と他の障がい種別よりも多くなっています。



問8で「1.いる」と答えた方におたずねします。

問8-1 一緒に住んでいる方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

同居者については、「配偶者 (夫・妻)」が51.9%と最も多く、次いで、「母親」が32.6%、「子ども」が30.3%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ69.2%、61.7%と最も多く、次いで、「子ども」がそれぞれ38.4%、39.0%と多くなっています。

また、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「母親」がそれぞれ93.7%、57.0%、79.4%と最も多く、次いで、「父親」がそれぞれ83.8%、45.6%、73.5%となっています。

(単位：%)

	父親	母親	配偶者 (夫・妻)	パートナ ー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	その他	無回答
全体(n=936)	27.9	32.6	51.9	1.1	30.3	17.1	1.5	1.6	0.4	2.7	0.4
身体障害者手帳(n=523)	10.5	12.6	69.2	1.0	38.4	6.7	0.4	2.1	0.4	2.5	0.4
療育手帳(n=142)	83.8	93.7	0.0	0.0	1.4	51.4	4.2	0.7	0.7	2.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=149)	45.6	57.0	26.2	1.3	16.1	25.5	1.3	2.0	0.7	2.7	2.7
難病（特定疾患）の認定(n=141)	19.1	22.0	61.7	0.7	39.0	15.6	2.1	1.4	0.0	2.8	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断(n=34)	73.5	79.4	11.8	5.9	5.9	41.2	5.9	0.0	0.0	2.9	0.0
その他(n=6)	33.3	33.3	50.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0

年齢区分ごとに見ると、18歳未満及び18歳～40歳未満では「母親」がそれぞれ93.8%、71.8%と最も多く、次いで、「父親」がそれぞれ90.1%、66.5%となっています。

また、40歳～65歳未満及び65歳以上では「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ53.9%、74.9%と最も多く、次いで、40歳～65歳未満では「母親」及び「子ども」がともに36.5%、65歳以上では「子ども」が41.9%となっています。

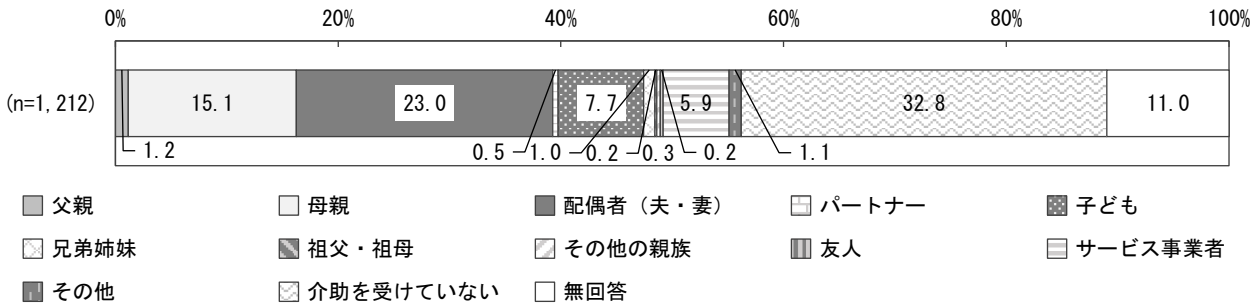
(単位：%)

	父親	母親	配偶者 (夫・妻)	パートナ ー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親族	友人	その他	無回答
全体(n=936)	27.9	32.6	51.9	1.1	30.3	17.1	1.5	1.6	0.4	2.7	0.4
18歳未満(n=81)	90.1	93.8	2.5	0.0	1.2	70.4	9.9	1.2	0.0	0.0	0.0
18歳～40歳未満(n=170)	66.5	71.8	19.4	2.4	9.4	35.3	2.4	0.6	0.6	2.9	0.0
40歳～65歳未満(n=230)	24.3	36.5	53.9	1.7	36.5	11.7	0.4	1.3	0.9	3.0	0.9
65歳以上(n=399)	0.5	1.3	74.9	0.5	41.9	2.5	0.0	2.0	0.3	2.8	0.0

問9 ふだん、身の周りの介助をしてくれるのは誰ですか。(主なもの1つに○)

身の周りの介助者については、「配偶者（夫・妻）」が23.0%と最も多く、次いで、「母親」が15.1%、「子ども」が7.7%となっています。

なお、「介助を受けていない」は32.8%となっています。



「介助を受けていない」を除いて障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ33.1%、19.9%と最も多く、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「母親」がそれぞれ64.1%、21.1%、41.5%と最も多くなっています。

(単位：%)

	父親	母親	配偶者(夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母
全体 (n=1,212)	1.2	15.1	23.0	0.5	7.7	1.0	0.2
身体障害者手帳 (n=682)	0.1	6.3	33.1	0.4	10.9	1.0	0.1
療育手帳 (n=156)	2.6	64.1	0.0	0.0	0.6	0.0	1.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	4.2	21.1	9.9	0.5	3.8	1.9	0.5
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	0.0	6.1	19.9	0.6	9.9	0.6	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	7.3	41.5	7.3	2.4	0.0	2.4	0.0
その他 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)

	その他の親族	友人	サービス事業者	その他	介助を受けていない	無回答
全体 (n=1,212)	0.3	0.2	5.9	1.1	32.8	11.0
身体障害者手帳 (n=682)	0.6	0.3	7.9	0.9	30.1	8.2
療育手帳 (n=156)	0.0	0.0	3.2	2.6	8.3	17.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	0.0	0.5	4.7	2.8	38.0	12.2
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	0.6	0.0	3.3	1.1	49.7	8.3
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	0.0	0.0	4.9	0.0	22.0	12.2
その他 (n=9)	0.0	11.1	11.1	0.0	44.4	33.3

年齢区分ごとに見ると、「介助を受けていない」を除いて、18歳未満及び18歳～40歳未満では「母親」がそれぞれ61.2%、40.2%と最も多く、40歳～65歳未満及び65歳以上では「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ18.7%、34.7%と最も多くなっています。

(単位：%)

	父親	母親	配偶者 (夫・妻)	パートナー	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母
全体(n=1,212)	1.2	15.1	23.0	0.5	7.7	1.0	0.2
18歳未満(n=85)	1.2	61.2	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2
18歳～40歳未満(n=199)	4.5	40.2	6.5	1.5	0.0	0.0	0.5
40歳～65歳未満(n=316)	0.6	13.6	18.7	0.9	3.2	0.9	0.0
65歳以上(n=527)	0.0	0.2	34.7	0.0	15.6	1.3	0.0

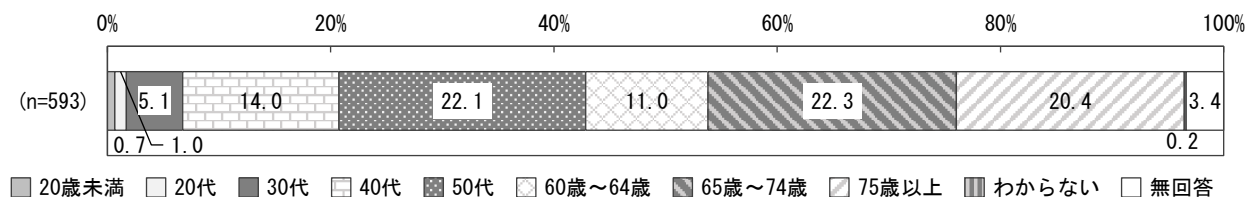
(単位：%)

	その他の親族	友人	サービス事業者	その他	介助を受けていない	無回答
全体(n=1,212)	0.3	0.2	5.9	1.1	32.8	11.0
18歳未満(n=85)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6	24.7
18歳～40歳未満(n=199)	0.0	0.0	3.5	2.0	30.2	11.1
40歳～65歳未満(n=316)	0.0	0.6	4.4	1.3	45.3	10.4
65歳以上(n=527)	0.8	0.2	8.7	0.6	30.0	8.0

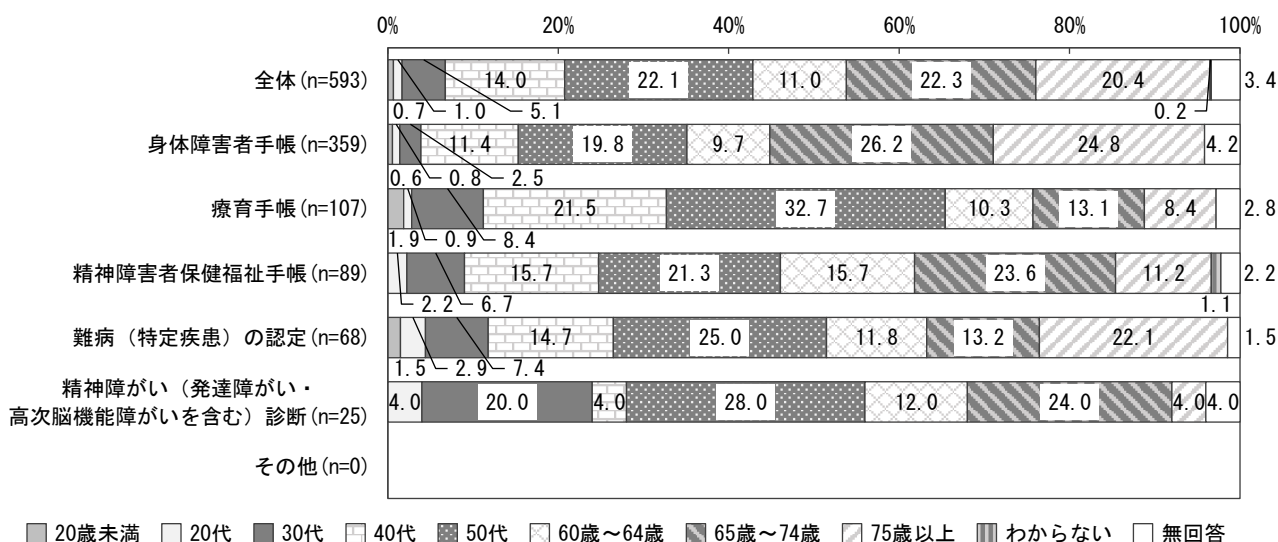
問9で「1」～「8」と答えた方におたずねします。

問9-1 その方の年齢についてお答えください。(1つに〇)

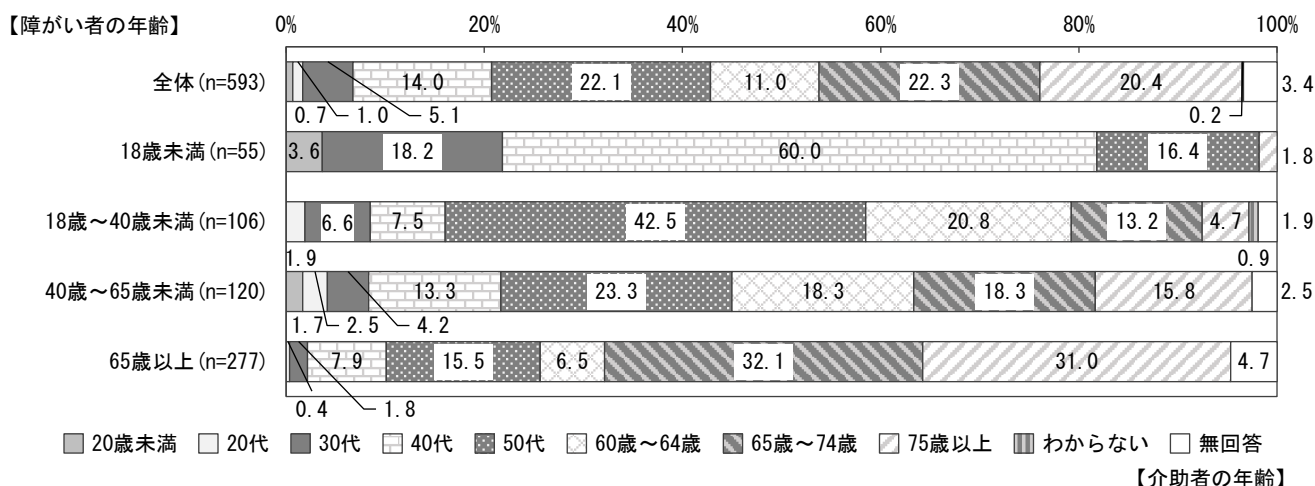
介助者の年齢については、「65歳～74歳」が22.3%と最も多く、次いで、「50代」が22.1%、「75歳以上」が20.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「65歳～74歳」がそれぞれ26.2%、23.6%、療育手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「50代」がそれぞれ32.7%、25.0%、28.0%と最も多くなっています。

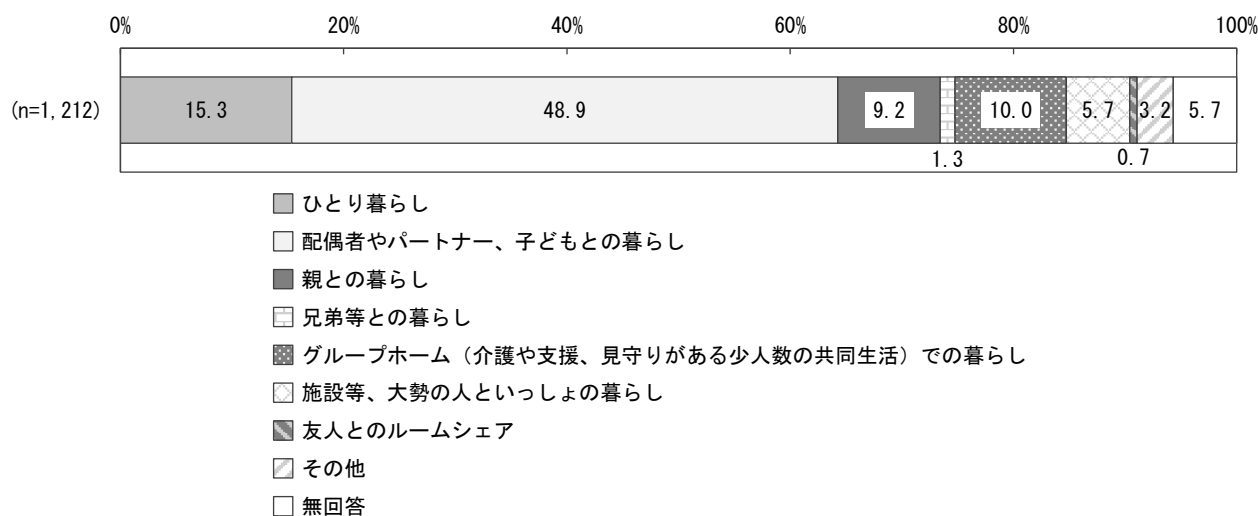


年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「40代」が60.0%、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「50代」がそれぞれ42.5%、23.3%、65歳以上では「65歳～74歳」が32.1%と最も多く、年齢区分が高くなるに従い、介助者の年代も高くなっています。



問10 あなたは、今後（将来）どのような暮らしを希望していますか。（1つに○）

今後（将来）希望する暮らしについては、「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」が48.9%と最も多く、次いで、「ひとり暮らし」が15.3%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けた方では「配偶者やパートナー、子どもとの暮らし」がそれぞれ59.8%、60.2%と最も多くなっています。

また、療育手帳所持者では「親との暮らし」が33.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ひとり暮らし」が29.6%、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし」が31.7%と最も多くなっています。

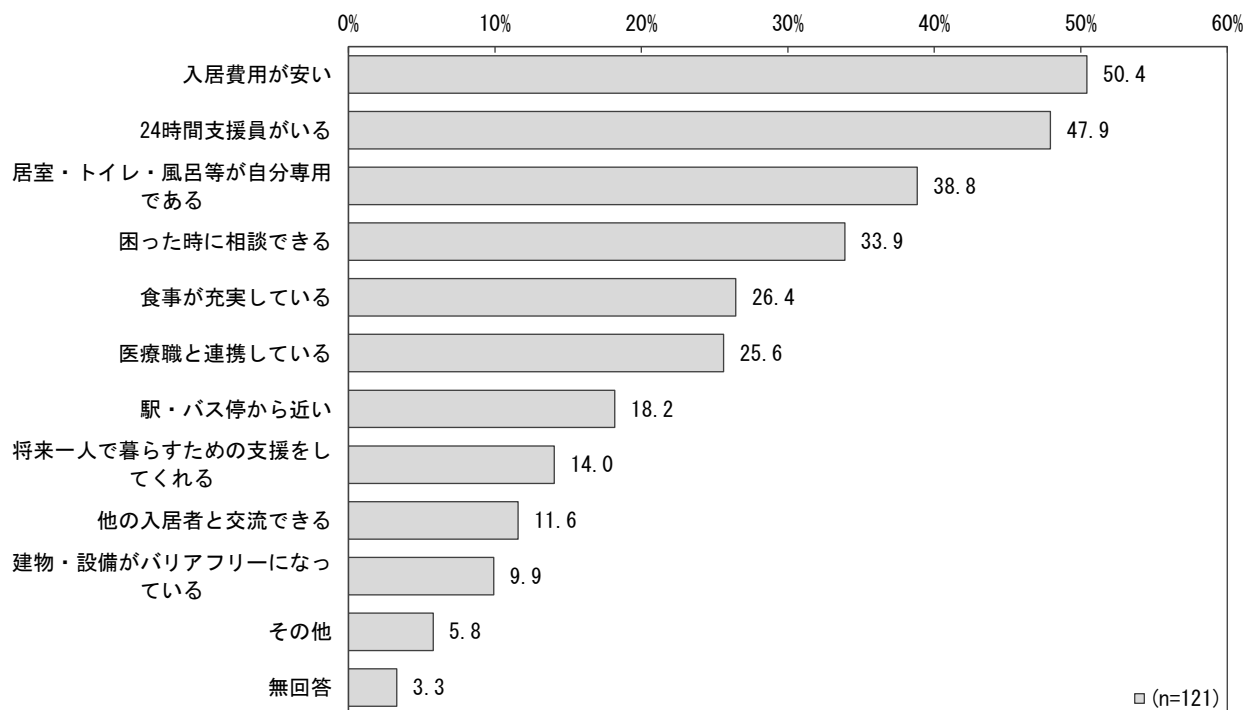
（単位：％）

	ひとり暮らし	配偶者やパートナー、子どもとの暮らし	親との暮らし	兄弟等との暮らし	グループホーム（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活）での暮らし	施設等、大勢の人といっしょの暮らし	友人とのルームシェア	その他	無回答
全体 (n=1,212)	15.3	48.9	9.2	1.3	10.0	5.7	0.7	3.2	5.7
身体障害者手帳 (n=682)	11.9	59.8	4.1	1.6	7.3	6.7	0.4	3.1	5.0
療育手帳 (n=156)	9.0	9.6	33.3	0.0	28.2	7.7	1.3	4.5	6.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	29.6	29.1	14.1	2.8	9.4	4.7	0.9	4.2	5.2
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	14.9	60.2	5.5	0.6	5.5	2.8	2.2	3.3	5.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	29.3	14.6	17.1	0.0	31.7	4.9	0.0	0.0	2.4
その他 (n=9)	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1

問10で「5. グループホーム」を答えた方におたずねします。

問10-1 どのようなグループホームで暮らしたいと思っていますか。(主なもの3つまでに○)

暮らしたいグループホームについては、「入居費用が安い」が50.4%と最も多く、次いで、「24時間支援員がいる」が47.9%、「居室・トイレ・風呂等が自分専用である」が38.8%、「困った時に相談できる」が33.9%、「食事が充実している」が26.4%、「医療職と連携している」が25.6%、「駅・バス停から近い」が18.2%、「将来一人で暮らすための支援をしてくれる」が14.0%、「他の入居者と交流できる」が11.6%、「建物・設備がバリアフリーになっている」が9.9%、「その他」が5.8%、「無回答」が3.3%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「入居費用」が最も多く、それぞれ56.0%、50.0%、53.8%となっています。

また、療育手帳所持者では「24時間支援員がいる」が65.9%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「居室・トイレ・風呂等が自分専用である」がそれぞれ60.0%、50.0%と最も多くなっています。

(単位：%)

	入居費用が安い	駅・バス停から近い	建物・設備がバリアフリーになっている	困った時に相談できる	医療職と連携している	他の入居者と交流できる	居室・トイレ・風呂等が自分専用である	将来一人で暮らすための支援をしてくれる	24時間支援員がいる	食事が充実している	その他	無回答
全体 (n=121)	50.4	18.2	9.9	33.9	25.6	11.6	38.8	14.0	47.9	26.4	5.8	3.3
身体障害者手帳 (n=50)	56.0	16.0	20.0	26.0	32.0	18.0	36.0	10.0	46.0	28.0	4.0	2.0
療育手帳 (n=44)	45.5	20.5	6.8	45.5	15.9	4.5	29.5	9.1	65.9	22.7	6.8	2.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=20)	50.0	30.0	10.0	25.0	15.0	0.0	60.0	25.0	35.0	30.0	10.0	5.0
難病（特定疾患）の認定 (n=10)	50.0	10.0	10.0	10.0	40.0	0.0	50.0	0.0	20.0	30.0	0.0	20.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=13)	53.8	7.7	0.0	38.5	15.4	15.4	30.8	38.5	30.8	23.1	7.7	7.7
その他 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。

問10-2 入居を希望するグループホームの場所はどこですか。

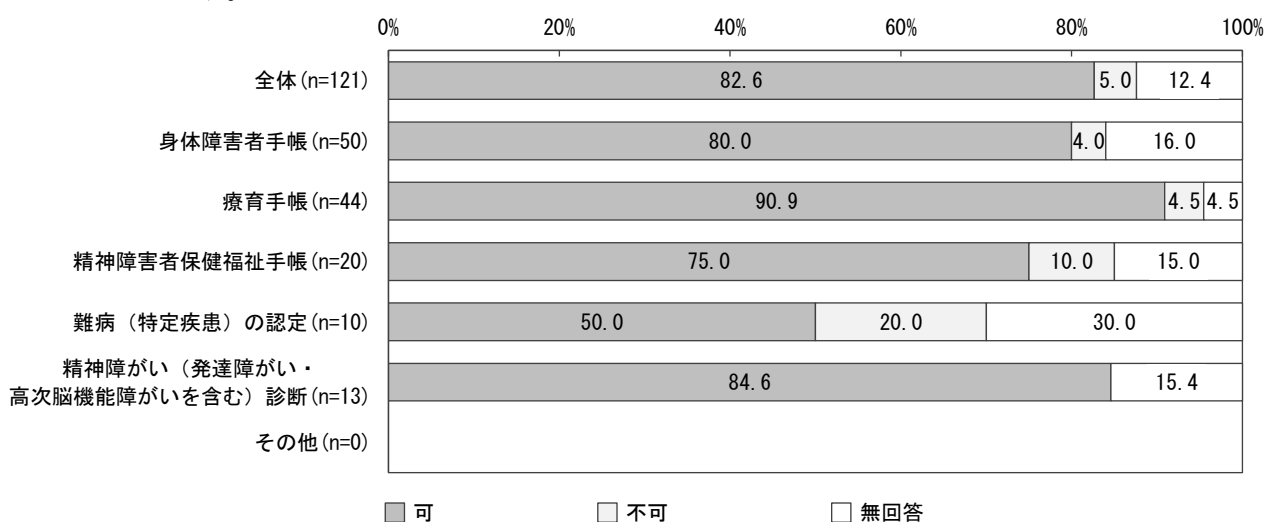
それぞれの項目（1～3）について、【可・不可】のどちらかに○をつけてください。

2で「可」を選んだ方は（ km圏内）についてご記入ください。

1. 市内のグループホーム

市内のグループホームを希望している人（「可」と回答。以下、同じ。）は、全体では 82.6%となっています。

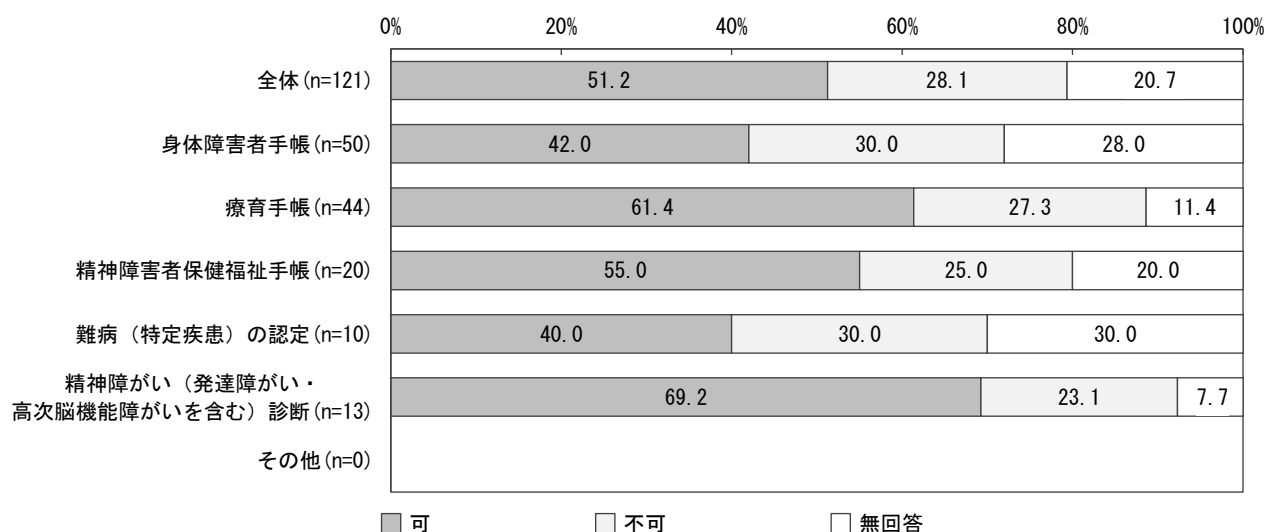
障がい種別ごとに見ると、市内のグループホームを希望している人は、療育手帳所持者で 90.9%と最も多く、一方で、難病（特定疾患）の認定を受けている方では、50.0%と他の障がい種別よりも少なくなっています。



2. 市外のグループホーム

市外のグループホームを希望している人（「可」と回答。以下、同じ。）は、全体では 51.2%となっています。

障がい種別ごとに見ると、市外のグループホームを希望している人は、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方で 69.2%と最も多く、一方で、難病（特定疾患）の認定を受けている方では、40.0%と他の障がい種別よりも少なくなっています。

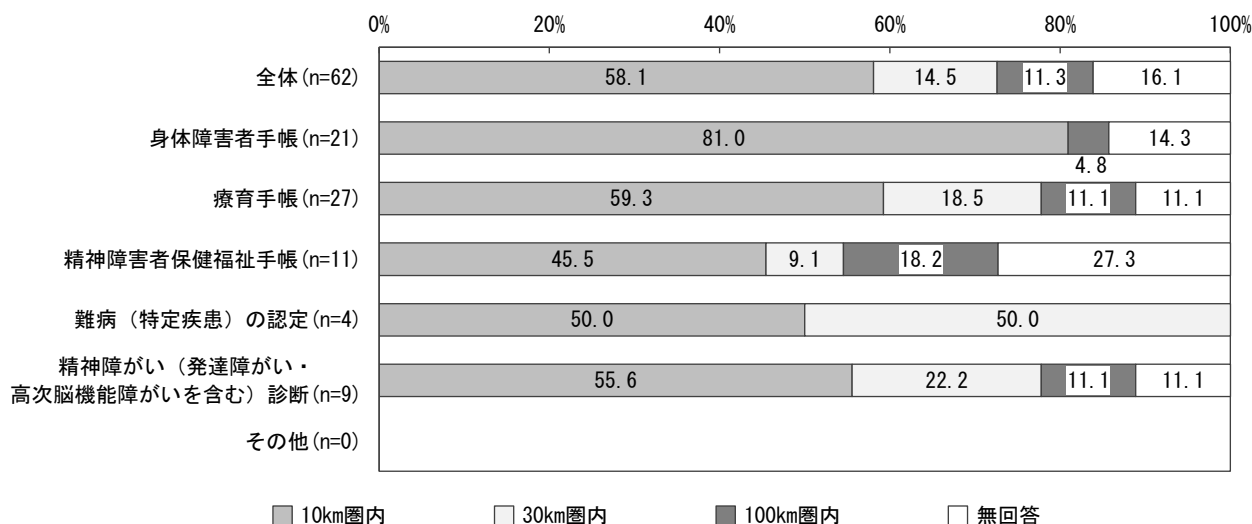


許容可能な距離 (km 圏内)

市外のグループホームで許容可能な距離は、全体では「10km圏内」が58.1%、「30km圏内」が14.5%、「100km圏内」が11.3%となっています。

障がい種別ごとに見ると、どの障がい種別でも「10km圏内」が最も多く、いずれも40%以上となっています。

また、身体障害者手帳所持者で「10km圏内」が81.0%と他の障がい種別よりも多くなっています。

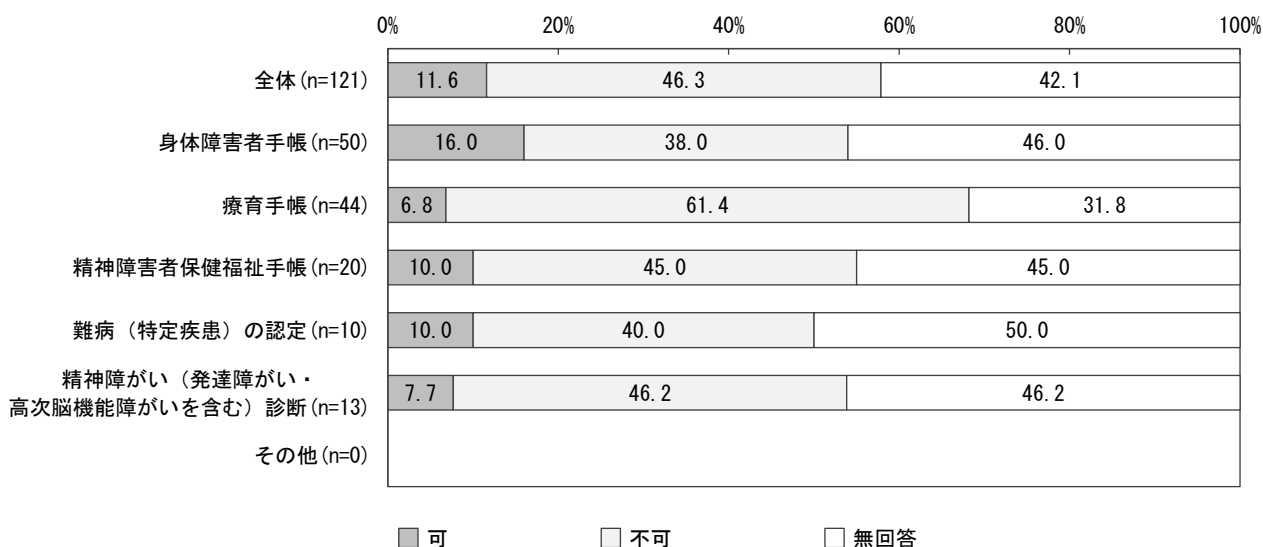


※ (参考) 10km 圏内：市川市、船橋市、江戸川区、江東区など
 30km 圏内：千葉市、柏市、川崎市、東京23区など
 100km 圏内：館山市、小田原市、秩父市、水戸市など

3. どの場所のグループホームでもよい

どの場所のグループホームでもよい人（「可」と回答。以下、同じ。）は、全体では 11.6% となっています。

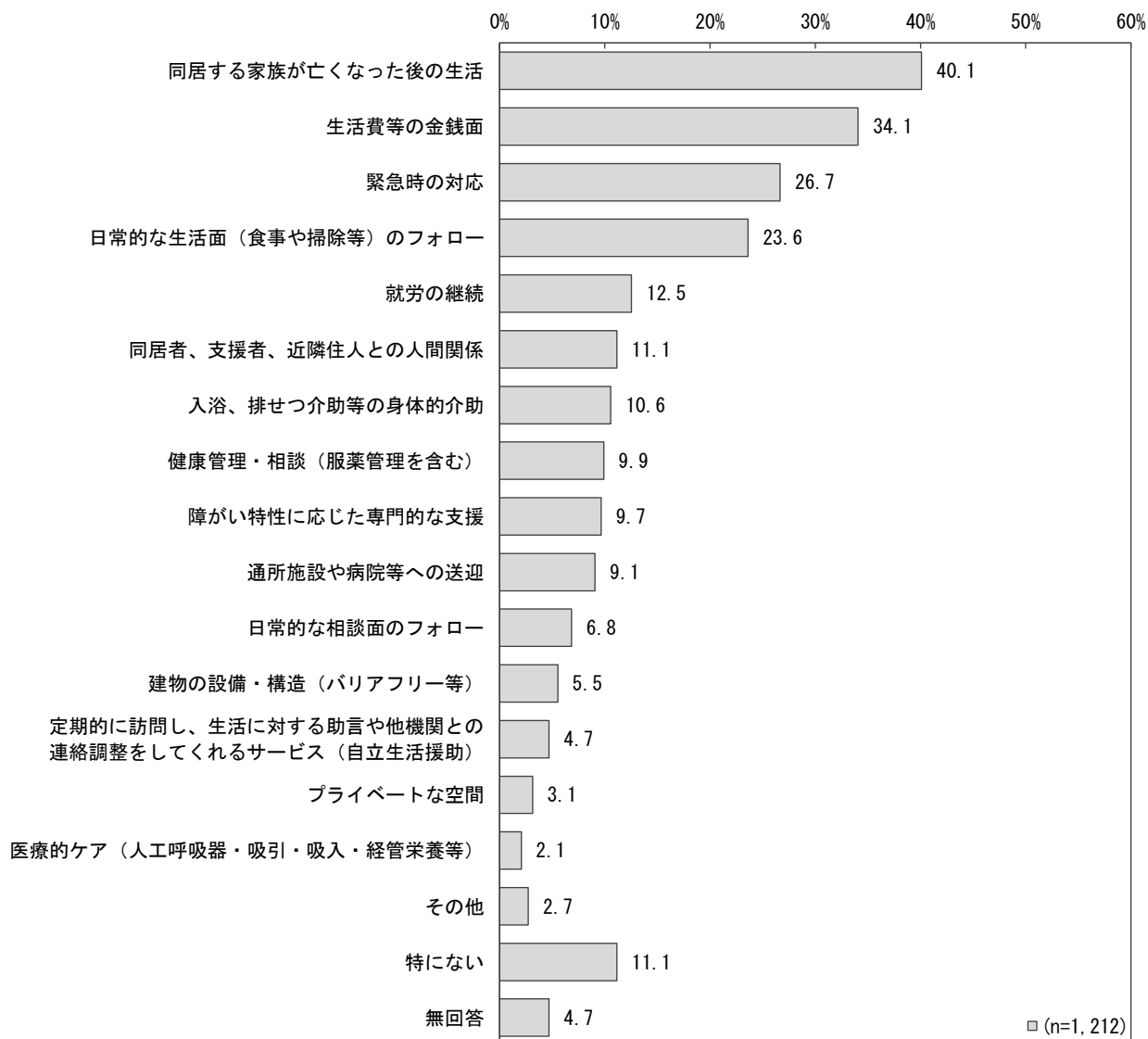
障がい種別ごとに見ると、どの場所のグループホームでもよい人は、身体障害者手帳所持者で 16.0% と最も多く、一方で、療育手帳所持者では 6.8% と他の障がい種別よりも少なくなっています。



問11 今後（将来）の暮らしについて、課題または不安だと思うことは何ですか。

（主なものを3つまでに○）

今後（将来）の暮らしの課題または不安だと思うことについては、「同居する家族が亡くなった後の生活」が40.1%と最も多く、次いで、「生活費等の金銭面」が34.1%、「緊急時の対応」が26.7%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び療育手帳所持者では「同居する家族が亡くなった後の生活」が最も多く、それぞれ39.1%、69.2%となっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「生活費等の金銭面」がそれぞれ54.9%、53.7%と最も多く、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「緊急時の対応」が36.5%と最も多くなっています。

(単位：%)

	同居者、支援者、近隣住人との人間関係	日常的な生活面（食事や掃除等）のフォロー	日常的な相談面のフォロー	緊急時の対応	通所施設や病院等への送迎	障がい特性に応じた専門的な支援	建物の設備・構造（バリアフリー等）	健康管理・相談（服薬管理を含む）	生活費等の金銭面
全体 (n=1,212)	11.1	23.6	6.8	26.7	9.1	9.7	5.5	9.9	34.1
身体障害者手帳 (n=682)	6.5	23.5	3.5	30.4	11.3	10.0	7.6	8.4	28.7
療育手帳 (n=156)	14.1	38.5	16.0	21.2	5.8	14.7	1.3	11.5	31.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	23.9	26.3	13.1	15.5	7.5	9.4	2.3	12.7	54.9
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	7.7	16.6	6.6	36.5	8.8	7.2	6.6	11.6	30.9
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	29.3	36.6	4.9	19.5	2.4	14.6	0.0	9.8	53.7
その他 (n=9)	44.4	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2

(単位：%)

	プライベートな空間	入浴、排せつ介助等の身体的介助	医療的ケア（人工呼吸器・吸引・吸入・経管栄養等）	定期的な訪問し、生活に対する助言や他機関との連絡調整をしてくれるサービス（自立生活援助）	同居する家族が亡くなった後の生活	就労の継続	その他	特になし	無回答
全体 (n=1,212)	3.1	10.6	2.1	4.7	40.1	12.5	2.7	11.1	4.7
身体障害者手帳 (n=682)	2.5	14.5	3.7	5.1	39.1	6.2	2.2	13.0	4.1
療育手帳 (n=156)	1.9	9.6	3.2	3.8	69.2	18.6	3.2	2.6	3.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	6.6	3.3	0.5	4.7	39.4	23.5	4.2	4.2	4.2
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	3.3	12.2	1.1	3.9	26.0	12.7	2.8	17.7	3.9
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	4.9	4.9	0.0	4.9	43.9	29.3	7.3	2.4	2.4
その他 (n=9)	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	33.3	0.0

年齢区分ごとに見ると、18歳未満、18歳～40歳未満及び65歳以上では「同居する家族が亡くなった後の生活」がそれぞれ58.8%、49.7%、38.1%と最も多く、40歳～65歳未満では「生活費等の金銭面」が48.1%と最も多くなっています。

次いで多い回答は、18歳未満では「日常的な生活面（食事や掃除等）のフォロー」が35.3%、18歳～40歳未満では「生活費等の金銭面」が37.7%、40歳～65歳未満では「同居する家族が亡くなった後の生活」が33.2%、65歳以上では「緊急時の対応」が30.9%となっています。

(単位：%)

	同居者、支援者、近隣住人との人間関係	日常的な生活面（食事や掃除等）のフォロー	日常的な相談面のフォロー	緊急時の対応	通所施設や病院等への送迎	障がい特性に応じた専門的な支援	建物の設備・構造（バリアフリー等）	健康管理・相談（服薬管理を含む）	生活費等の金銭面
全体(n=1,212)	11.1	23.6	6.8	26.7	9.1	9.7	5.5	9.9	34.1
18歳未満(n=85)	18.8	35.3	10.6	22.4	7.1	16.5	7.1	10.6	32.9
18歳～40歳未満(n=199)	17.1	27.6	14.1	24.6	4.5	11.1	2.0	13.6	37.7
40歳～65歳未満(n=316)	12.7	18.4	7.6	25.0	7.6	9.5	5.1	9.8	48.1
65歳以上(n=527)	5.9	23.3	3.4	30.9	12.0	8.0	6.8	8.9	24.1

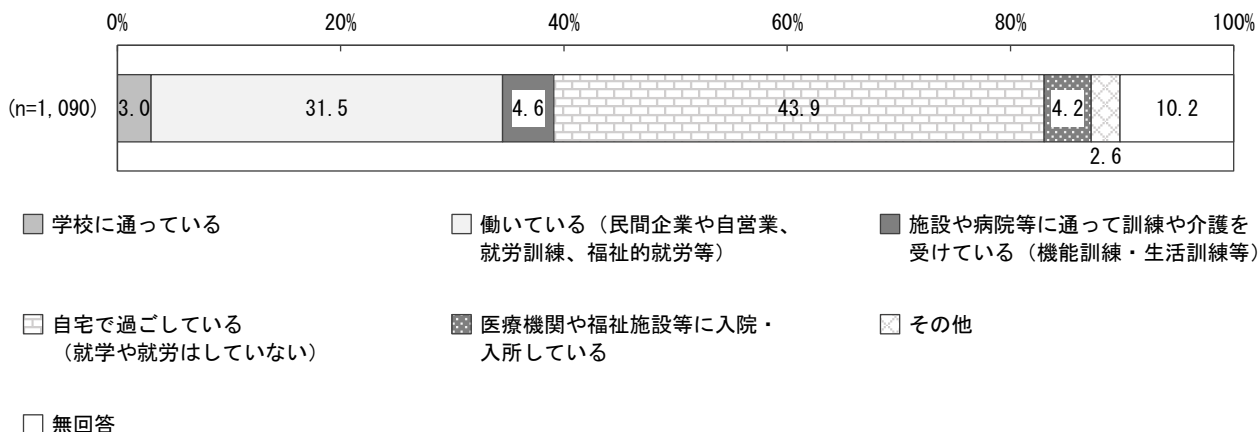
(単位：%)

	プライベートな空間	入浴、排せつ介助等の身体的介助	医療的ケア（人工呼吸器・吸引・吸入・経管栄養等）	定期的な訪問し、生活に対する助言や他機関との連絡調整をしてくれるサービス（自立生活援助）	同居する家族が亡くなった後の生活	就労の継続	その他	特になし	無回答
全体(n=1,212)	3.1	10.6	2.1	4.7	40.1	12.5	2.7	11.1	4.7
18歳未満(n=85)	2.4	9.4	4.7	4.7	58.8	14.1	5.9	11.8	3.5
18歳～40歳未満(n=199)	4.0	6.5	1.5	2.5	49.7	27.6	0.5	8.0	1.5
40歳～65歳未満(n=316)	4.7	4.4	0.6	4.7	33.2	17.7	4.4	12.3	4.1
65歳以上(n=527)	2.3	16.5	2.8	5.5	38.1	2.7	2.1	12.9	4.9

4-1. 日中活動の場について（15歳以上（義務教育修了後）の方）

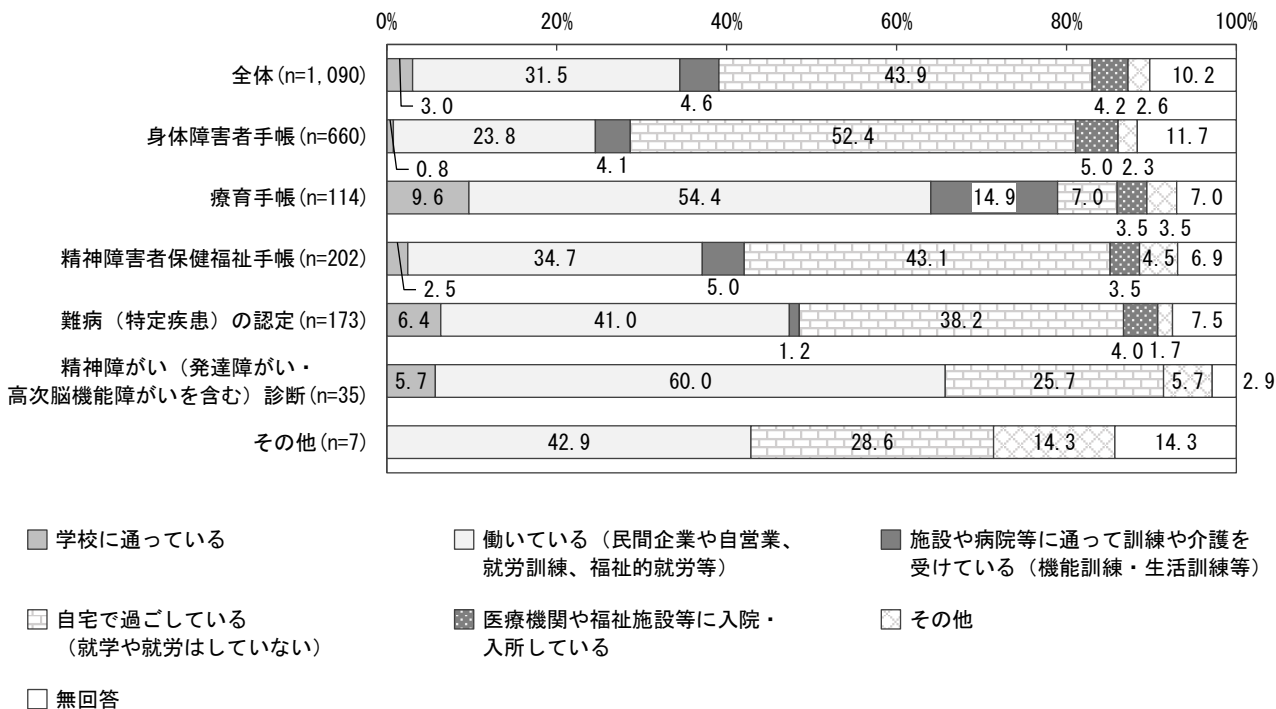
問12 平日の昼間、どのように過ごしていますか。（主なもの1つに○）

平日の昼間の過ごし方については、「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」が43.9%と最も多く、次いで、「働いている（民間企業や自営業、就業訓練、福祉的就労等）」が31.5%となっています。



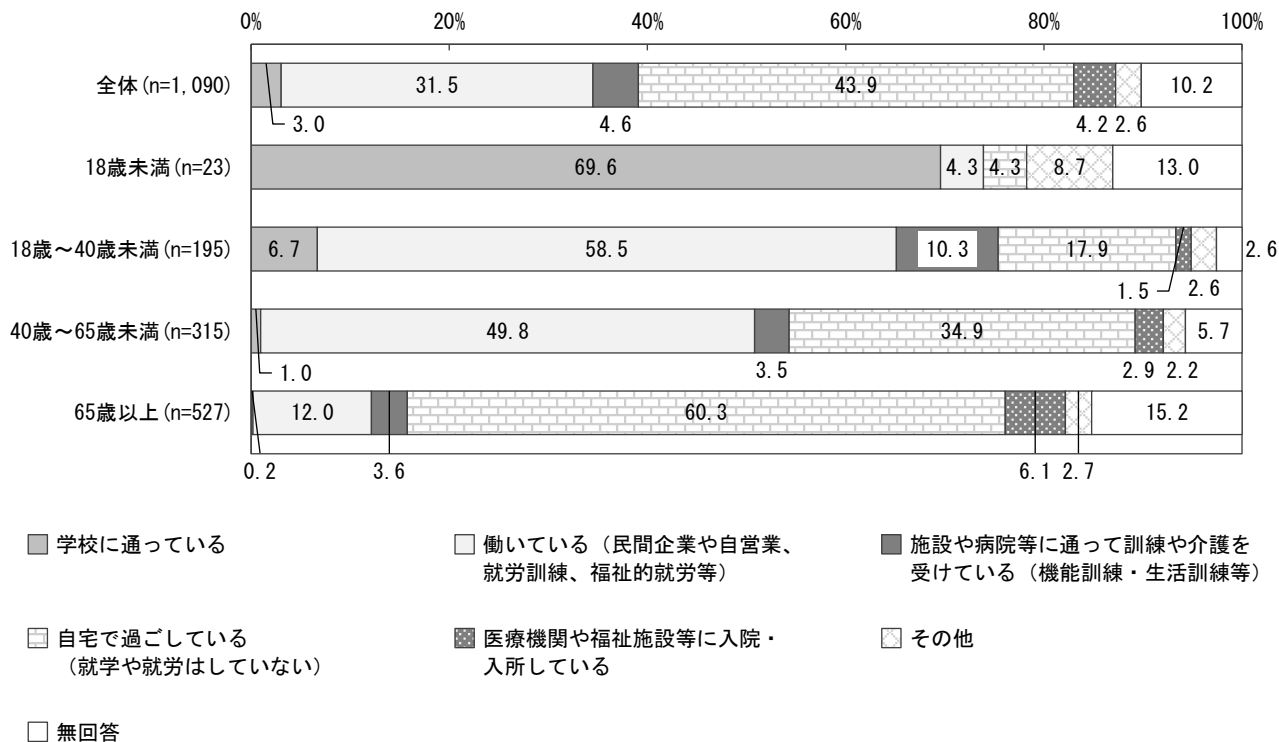
障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」が最も多く、それぞれ52.4%、43.1%となっています。

また、療育手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む診断を受けている方では「働いている（民間企業や自営業、就業訓練、福祉的就労等）」がそれぞれ54.4%、41.0%、60.0%と最も多くなっています。



年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「学校に通っている」が69.6%と最も多く、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「働いている（民間企業や自営業、就業訓練、福祉的就労等）」がそれぞれ58.5%、49.8%と最も多くなっています。

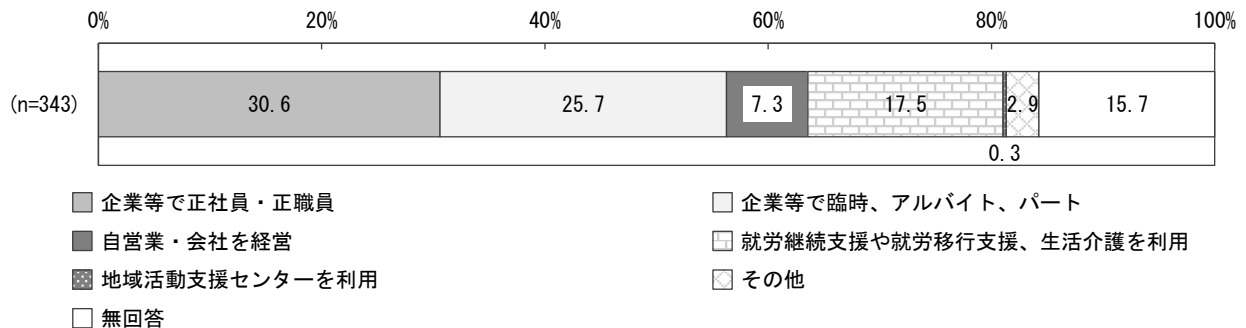
また、65歳以上では「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」が60.3%と最も多くなっています。



問12で「2.働いている」と答えた方におたずねします。

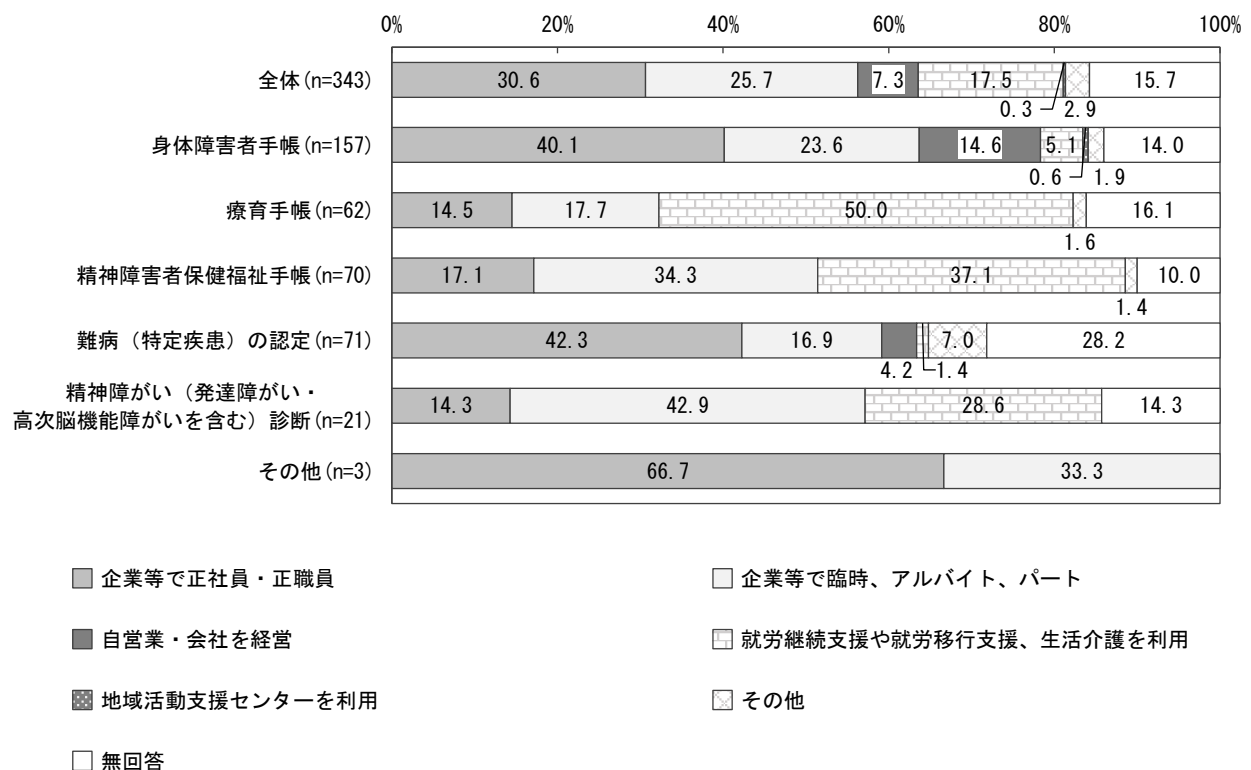
問12-1 どのように働いていますか。(主なもの1つに○)

就労形態については、「企業等で正社員・正職員」が30.6%と最も多く、次いで、「企業等で臨時、アルバイト、パート」が25.7%、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」が17.5%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾病）の認定を受けている方では「企業等で正社員・正職員」がそれぞれ40.1%、42.3%と最も多くなっています。

また、療育手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」がそれぞれ50.0%、37.1%、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「会社等で臨時、アルバイト、パート」が42.9%と最も多くなっています。

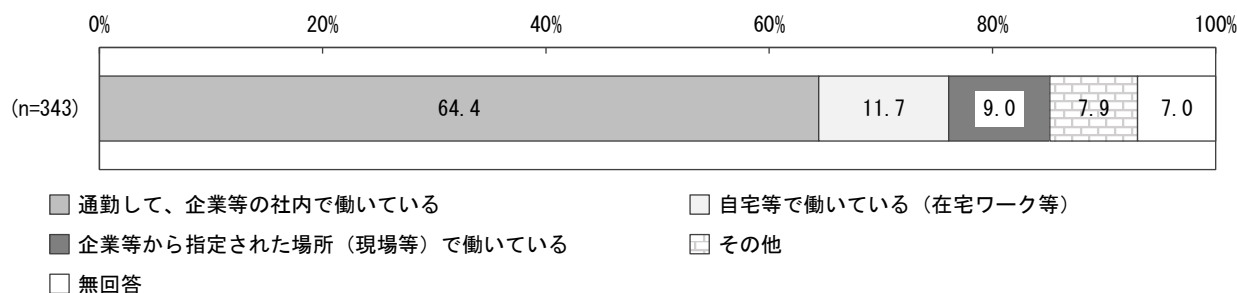


問12で「2.働いている」と答えた方におたずねします。

問12-2 主にどこで働いていますか。(主なもの1つに○)

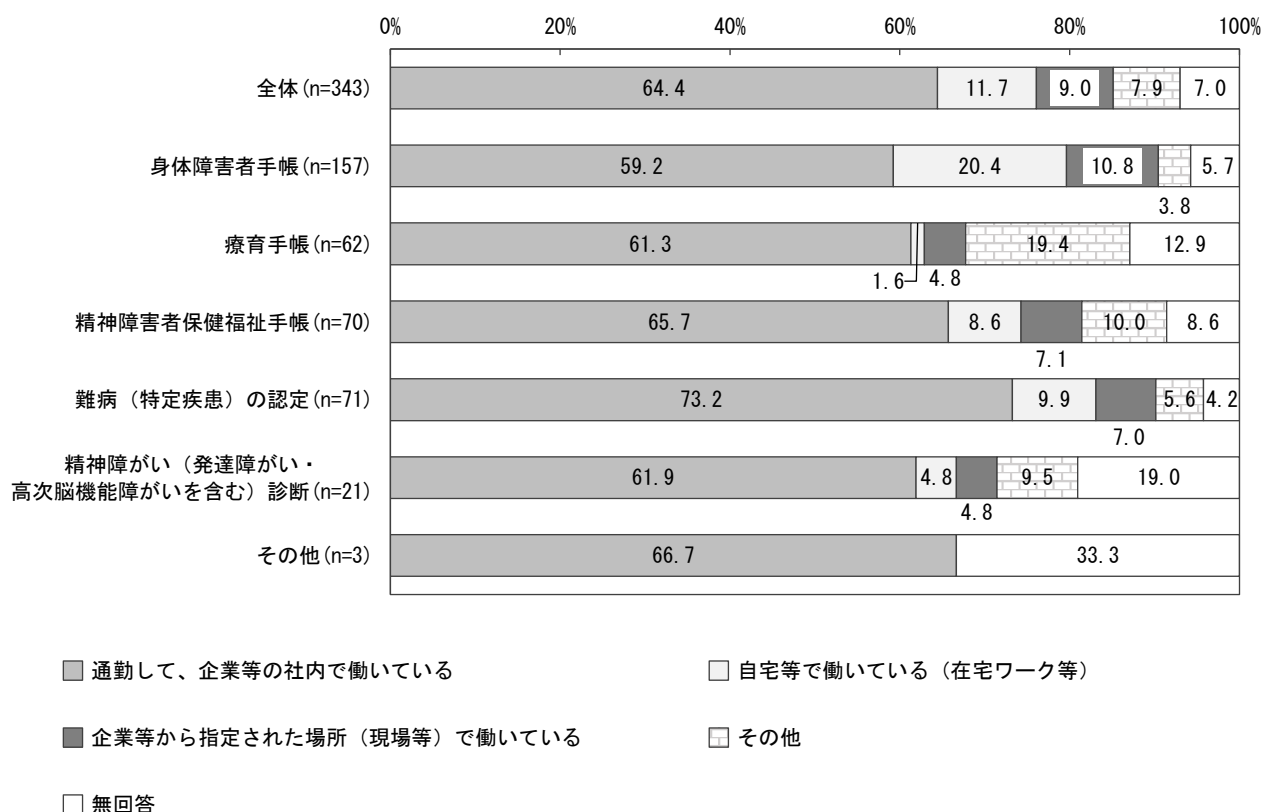
勤務場所については、「通勤して、企業等の社内で働いている」が64.4%と最も多く、次いで、「自宅等で働いている（在宅ワーク等）」が11.7%、「企業等から指定された場所（現場等）で働いている」が9.0%となっています。

なお、「その他」では「福祉的就労施設」及び「NPO法人タオ」などの回答が多く挙げられています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「通勤して、企業等の社内で働いている」が最も多く、いずれも50%以上となっています。

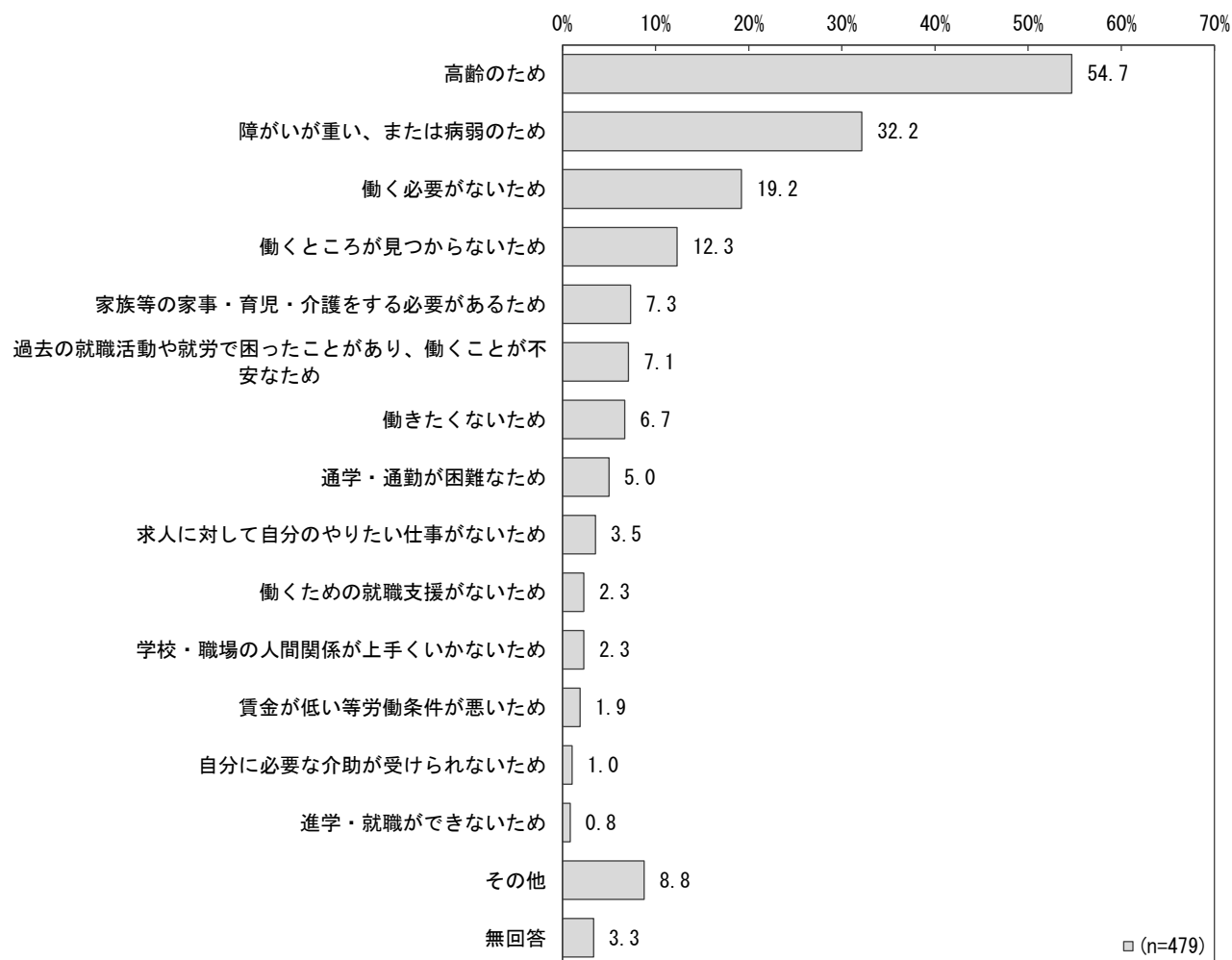
また、身体障害者手帳所持者では「自宅等で働いている（在宅ワーク等）」が20.4%となっています。



問12で「4. 自宅で過ごしている」と答えた方におたずねします。

問12-3 就学や就労をしていない理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

就学や就労をしていない理由については、「高齢のため」が54.7%と最も多く、次いで、「障がい重い、または病弱のため」が32.2%、「働く必要がないため」が19.2%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾病）の認定を受けている方では「高齢のため」がそれぞれ66.8%、54.5%と最も多くなっています。

また、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「障がいが重い、または病弱のため」がそれぞれ25.0%、48.3%、44.4%と最も多くなっています。

(単位：%)

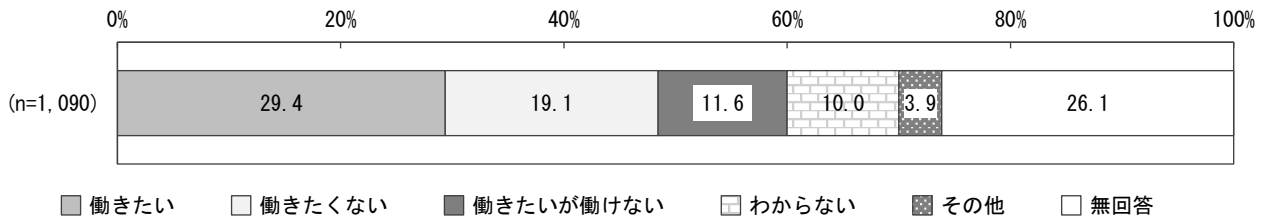
	障がいが重い、 または病弱のため	高齢のため	働くところが見つからないため	働くための就職支援がないため	賃金が低い等労働条件が悪いため	求人に対して自分のやりたい仕事がないため	過去の就職活動や就労で困ったことがあり、働くことが不安なため	通学・通勤が困難なため
全体 (n=479)	32.2	54.7	12.3	2.3	1.9	3.5	7.1	5.0
身体障害者手帳 (n=346)	32.1	66.8	8.4	1.7	1.2	2.0	2.0	3.5
療育手帳 (n=8)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=87)	48.3	8.0	25.3	5.7	5.7	6.9	28.7	16.1
難病（特定疾患）の認定 (n=66)	30.3	54.5	12.1	1.5	0.0	4.5	3.0	1.5
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=9)	44.4	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1
その他 (n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

(単位：%)

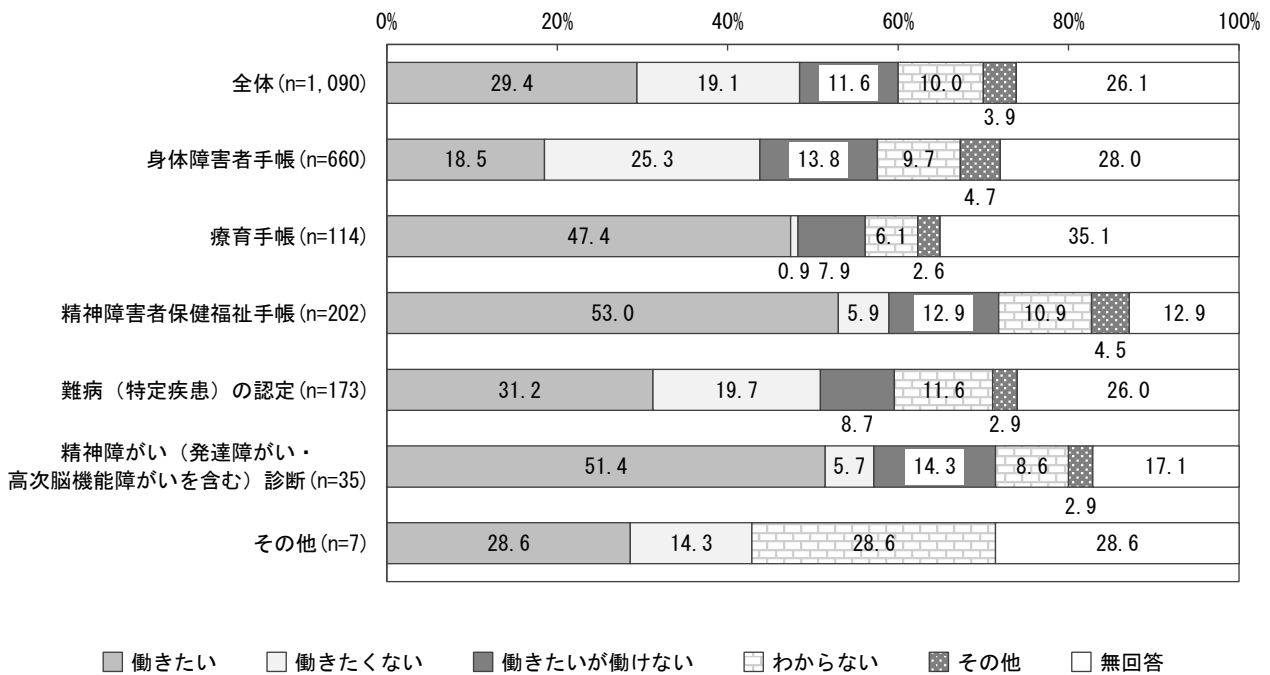
	進学・就職ができないため	家族等の家事・育児・介護をする必要があるため	学校・職場の人間関係が上手くいかないため	働きたくないため	働く必要がないため	自分に必要な介助が受けられないため	その他	無回答
全体 (n=479)	0.8	7.3	2.3	6.7	19.2	1.0	8.8	3.3
身体障害者手帳 (n=346)	0.3	7.2	0.9	7.2	20.8	0.6	6.6	3.2
療育手帳 (n=8)	0.0	12.5	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5
精神障害者保健福祉手帳 (n=87)	3.4	4.6	8.0	3.4	11.5	1.1	17.2	3.4
難病（特定疾患）の認定 (n=66)	0.0	7.6	0.0	4.5	21.2	1.5	9.1	3.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=9)	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1
その他 (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

問13 あなたは今後（将来）働くことを希望しますか。（1つに○）

今後（将来）の就労希望については、「働きたい」が29.4%、「働きたくない」が19.1%、「働きたいが働けない」が11.6%、「わからない」が10.0%、「働きたいが働けない」が3.9%、「無回答」が26.1%となっています。

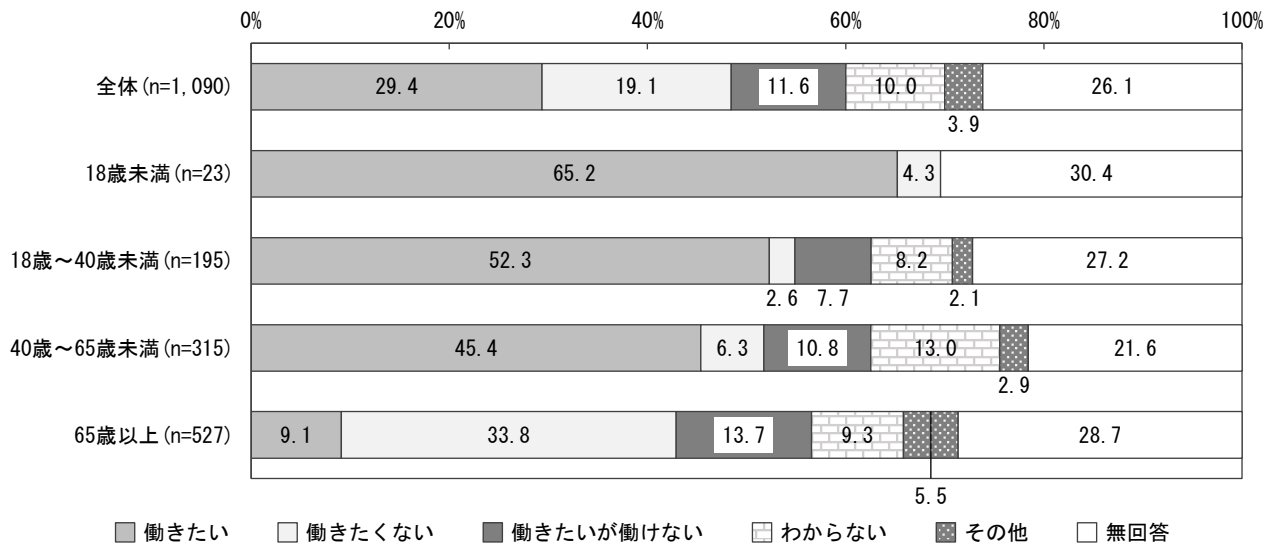


障がい種別ごとに見ると、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「働きたい」がそれぞれ47.4%、53.0%、51.4%と過半数を占めており、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「働きたくない」がそれぞれ25.3%、19.7%と他の障がい種別よりも多くなっています。



年齢区分ごとに見ると、18歳未満、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「働きたい」がそれぞれ65.2%、52.3%、45.4%と最も多くなっています。

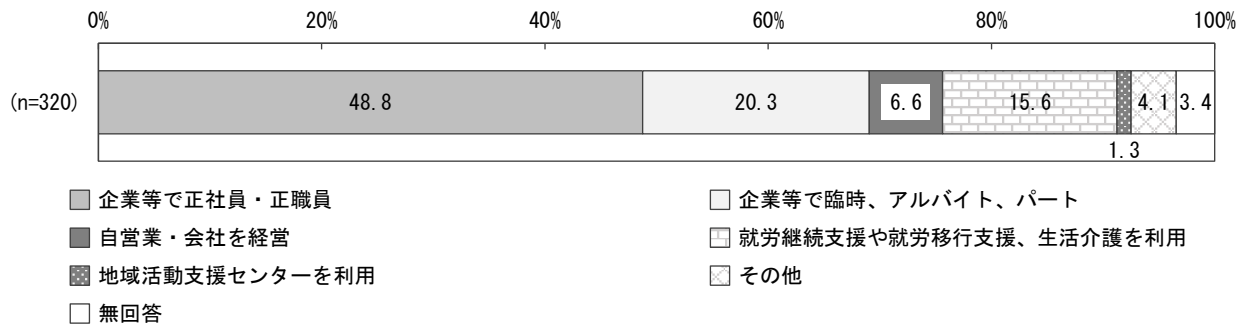
また、65歳以上では「働きたくない」が33.8%、「働きたいが働けない」が13.7%となっています。



問13で「1.働きたい」と答えた方におたずねします。

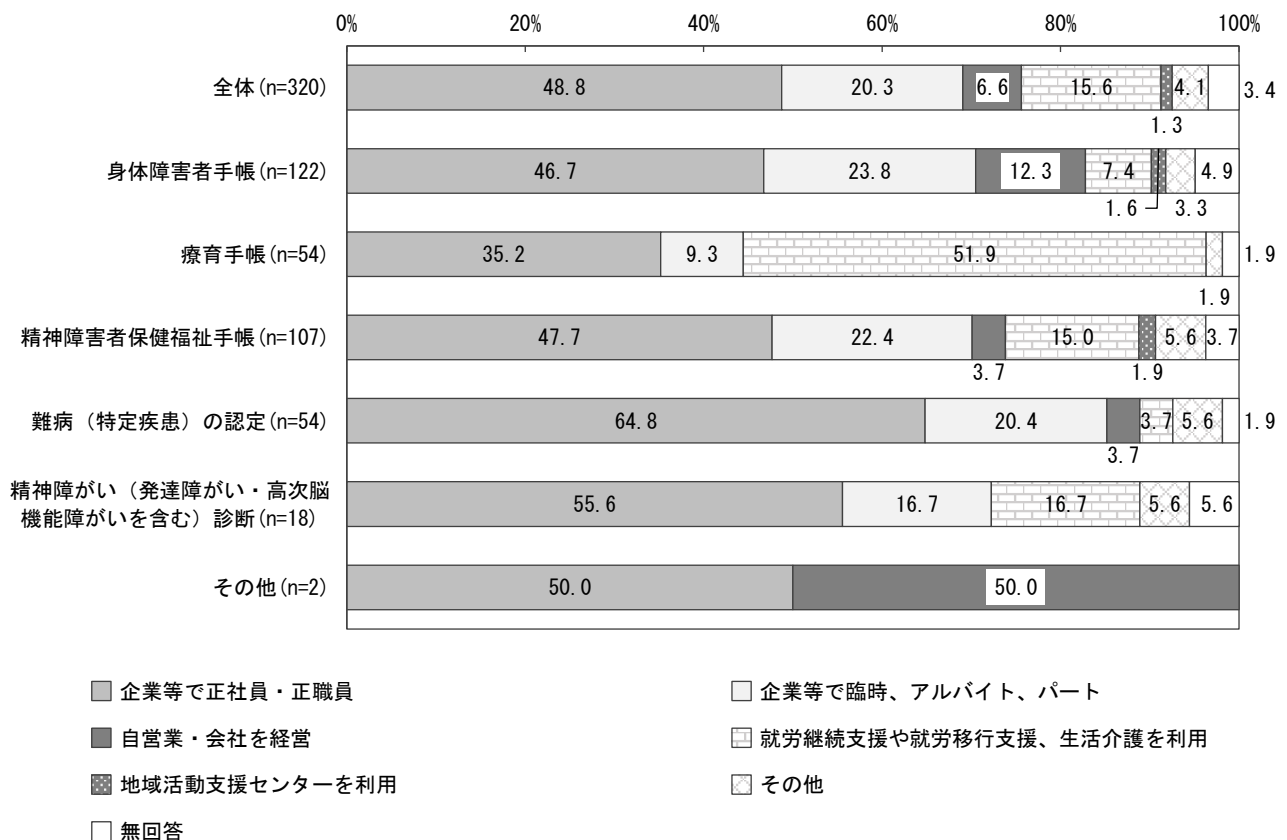
問13-1 どのように働きたいですか。(1つに○)

希望する就労形態については、「企業等で正社員・正職員」が48.8%と最も多く、次いで、「企業等で臨時、アルバイト、パート」が20.3%、「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」が15.6%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「企業等で正社員・正職員」がそれぞれ46.7%、47.7%、64.8%、55.6%と最も多くなっています。

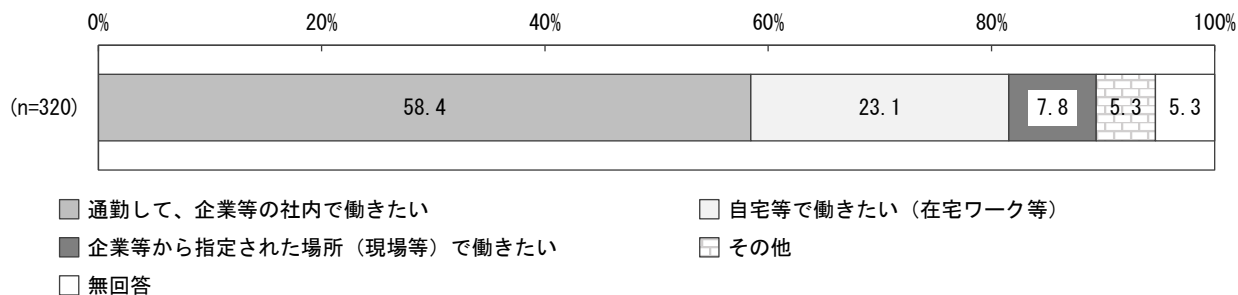
また、療育手帳所持者では「就労継続支援や就労移行支援、生活介護を利用」が51.9%と最も多くなっています。



問13で「1.働きたい」と答えた方におたずねします。

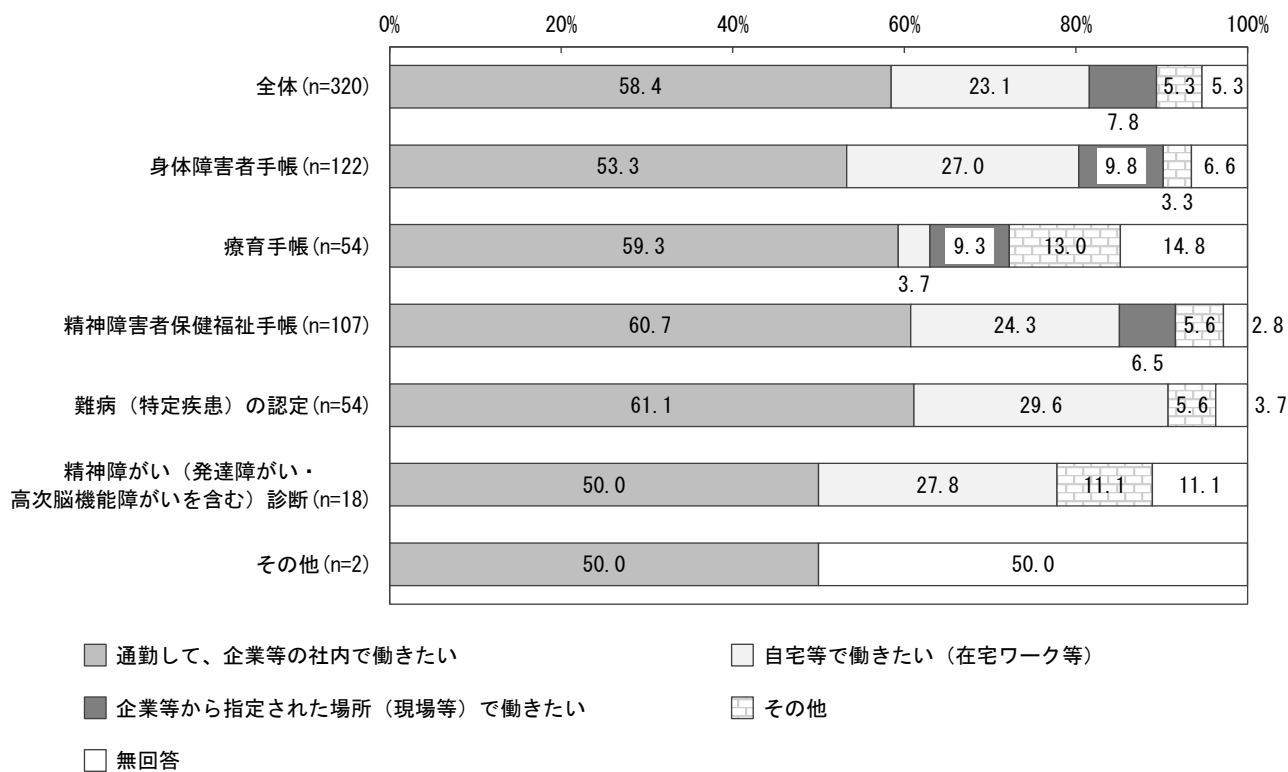
問13-2 どんなところで働きたいですか。(主なもの1つに○)

希望する勤務場所については、「通勤して、企業等の社内で働きたい」が58.4%と最も多く、次いで、「自宅等で働きたい（在宅ワーク等）」が23.1%となっています。



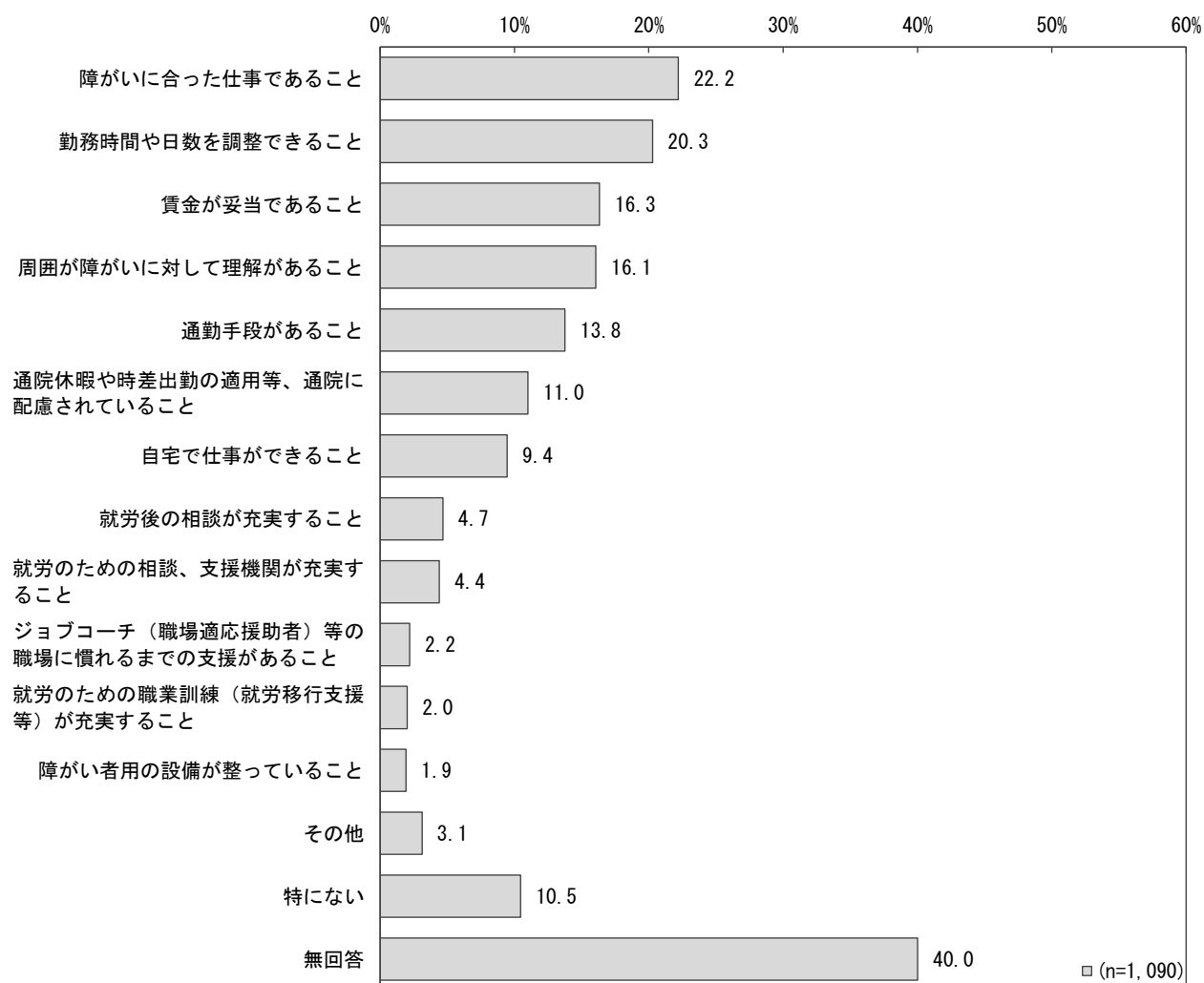
障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「通勤して、企業等の社内で働きたい」が最も多く、いずれも50%以上となっています。

次いで多い回答は、療育手帳所持者を除く障がい種別では「自宅等で働きたい（在宅ワーク等）」となっており、いずれも20%以上となっています。



問14 あなたが働くためには何が必要ですか。(主なもの3つまでに○)

働くために必要なことについては、「障がいにあった仕事であること」が22.2%と最も多く、次いで、「勤務時間や日数を調整できること」が20.3%、「賃金が妥当であること」が16.3%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「障がいに合った仕事であること」がそれぞれ18.2%、43.9%、36.6%、40.0%と最も多くなっています。

また、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「勤務時間や日数を調整できること」が27.2%と最も多くなっています。

(単位：%)

	通勤手段があること	障がいに合った仕事であること	勤務時間や日数を調整できること	自宅で仕事ができること	障がい者用の設備が整っていること	通院休暇や時差出勤の適用等、通院に配慮されていること	賃金が妥当であること	周囲が障がいに対して理解があること
全体 (n=1,090)	13.8	22.2	20.3	9.4	1.9	11.0	16.3	16.1
身体障害者手帳 (n=660)	12.1	18.2	14.7	9.5	2.1	8.6	10.6	10.9
療育手帳 (n=114)	18.4	43.9	11.4	3.5	4.4	7.0	18.4	36.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=202)	16.3	36.6	36.6	13.9	2.5	16.3	29.7	30.2
難病（特定疾患）の認定 (n=173)	14.5	10.4	27.2	11.0	0.6	19.7	22.0	11.6
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=35)	8.6	40.0	20.0	8.6	2.9	8.6	31.4	31.4
その他 (n=7)	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3

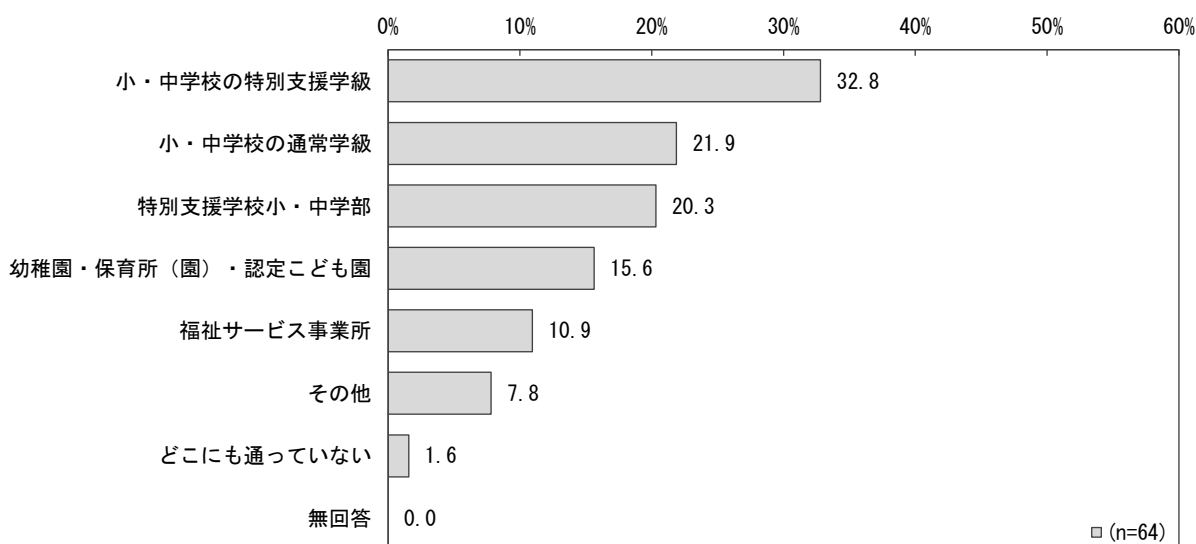
(単位：%)

	就労のための職業訓練（就労移行支援等）が充実すること	ジョブコーチ（職場適応援助者）等の職場に慣れるまでの支援があること	就労のための相談、支援機関が充実すること	就労後の相談が充実すること	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,090)	2.0	2.2	4.4	4.7	3.1	10.5	40.0
身体障害者手帳 (n=660)	0.6	0.5	1.1	1.4	3.3	13.0	47.9
療育手帳 (n=114)	4.4	7.9	11.4	8.8	3.5	2.6	34.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=202)	5.4	5.0	14.4	12.4	4.5	3.5	17.3
難病（特定疾患）の認定 (n=173)	0.6	1.2	1.2	4.6	2.3	9.8	38.7
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=35)	2.9	14.3	2.9	22.9	0.0	2.9	25.7
その他 (n=7)	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	28.6

4-2. 日中活動の場について（15歳未満（義務教育修了前）の方）

問15 平日の昼間、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

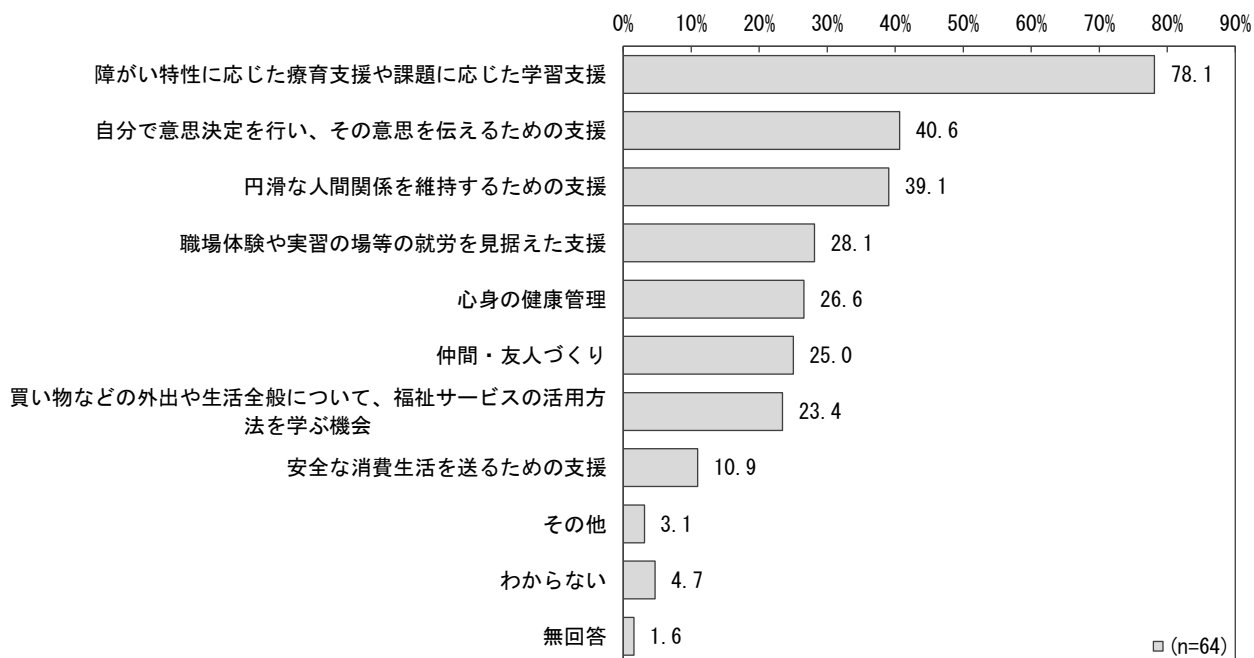
平日の昼間の過ごし方については、「小・中学校の特別支援学級」が32.8%と最も多く、次いで、「小・中学校の通常学級」が21.9%、「特別支援学校小・中学部」が20.3%となっています。



	幼稚園・保育所（園）・認定こども園	小・中学校の通常学級	小・中学校の特別支援学級	特別支援学校小・中学部	福祉サービス事業所	その他	どこにも通っていない	無回答
全体 (n=64)	15.6	21.9	32.8	20.3	10.9	7.8	1.6	0.0
身体障害者手帳 (n=16)	18.8	12.5	0.0	50.0	25.0	25.0	6.3	0.0
療育手帳 (n=41)	14.6	7.3	43.9	24.4	12.2	7.3	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=9)	0.0	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾患）の認定 (n=7)	28.6	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=6)	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
その他 (n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問16 将来の仕事や、学校を卒業した後の生活のために、学齢期（小学校・中学校）に必要なと思う支援は何ですか。（主なもの3つまでに○）

学齢期（小学校・中学校）に必要な支援については、「障がい特性に応じた療育支援や課題に応じた学習支援」が78.1%と最も多く、次いで、「自分で意思決定を行い、その意思を伝えるための支援」が40.6%、「円滑な人間関係を維持するための支援」が39.1%となっています。



障がい種別ごとに見ると、どの障がい種別でも「障がい特性に応じた療育支援や課題に応じた学習支援」が最も多く、いずれも50%以上となっています。

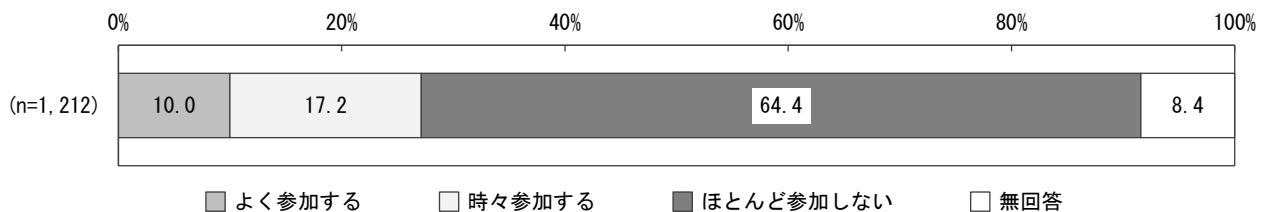
(単位：%)

	障がい特性に応じた療育支援や課題に応じた学習支援	職場体験や実習の場等の就労を見据えた支援	円滑な人間関係を維持するための支援	買い物などの外出や生活全般について、福祉サービスの活用方法を学ぶ機会	心身の健康管理	仲間・友人づくり	安全な消費生活を送るための支援	自分で意思決定を行い、その意思を伝えるための支援	その他	わからない	無回答
全体 (n=64)	78.1	28.1	39.1	23.4	26.6	25.0	10.9	40.6	3.1	4.7	1.6
身体障害者手帳 (n=16)	87.5	25.0	31.3	31.3	25.0	31.3	12.5	43.8	6.3	0.0	0.0
療育手帳 (n=41)	82.9	31.7	46.3	26.8	26.8	22.0	12.2	43.9	0.0	4.9	2.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=9)	77.8	22.2	66.7	22.2	22.2	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0
難病（特定疾患）の認定 (n=7)	57.1	0.0	14.3	0.0	42.9	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=6)	100.0	16.7	33.3	33.3	33.3	0.0	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0
その他 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5. 趣味、地域活動について

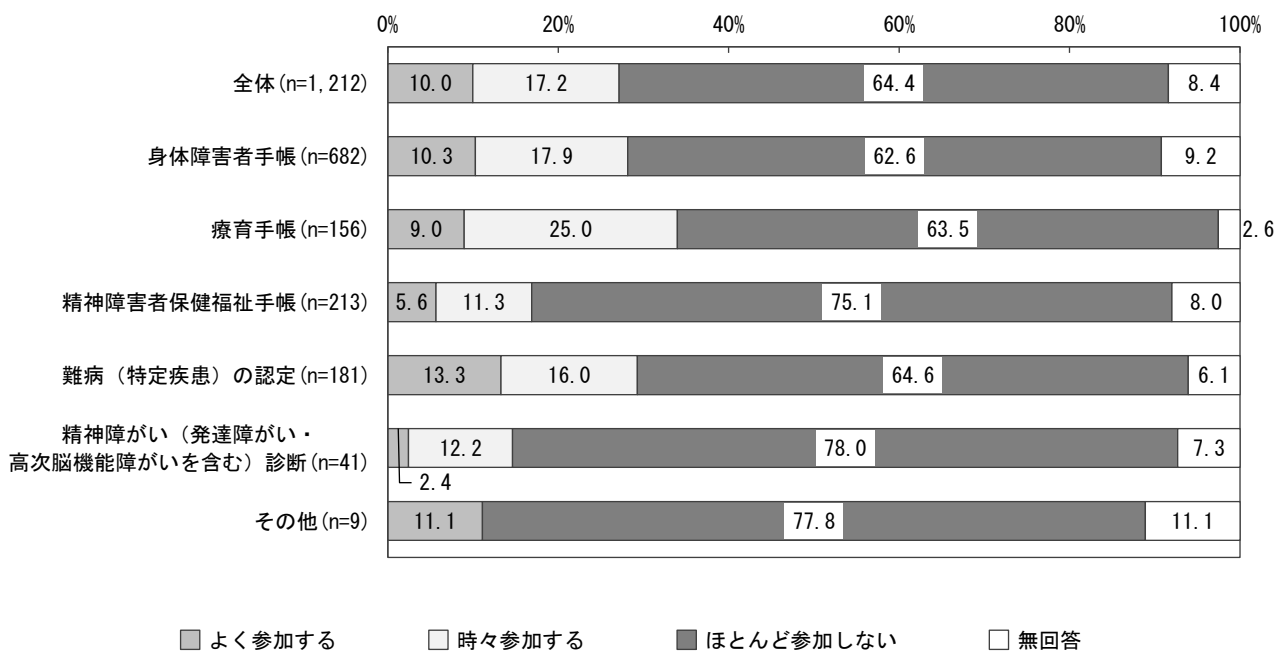
問17 あなたは現在、趣味として、文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）やスポーツ、レクリエーション活動、地域活動等をしていますか。（1つに○）

文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）やレクリエーション活動、地域活動等の実施状況については、「よく参加する」が10.0%、「時々参加する」が17.2%、「ほとんど参加しない」が64.4%となっています。



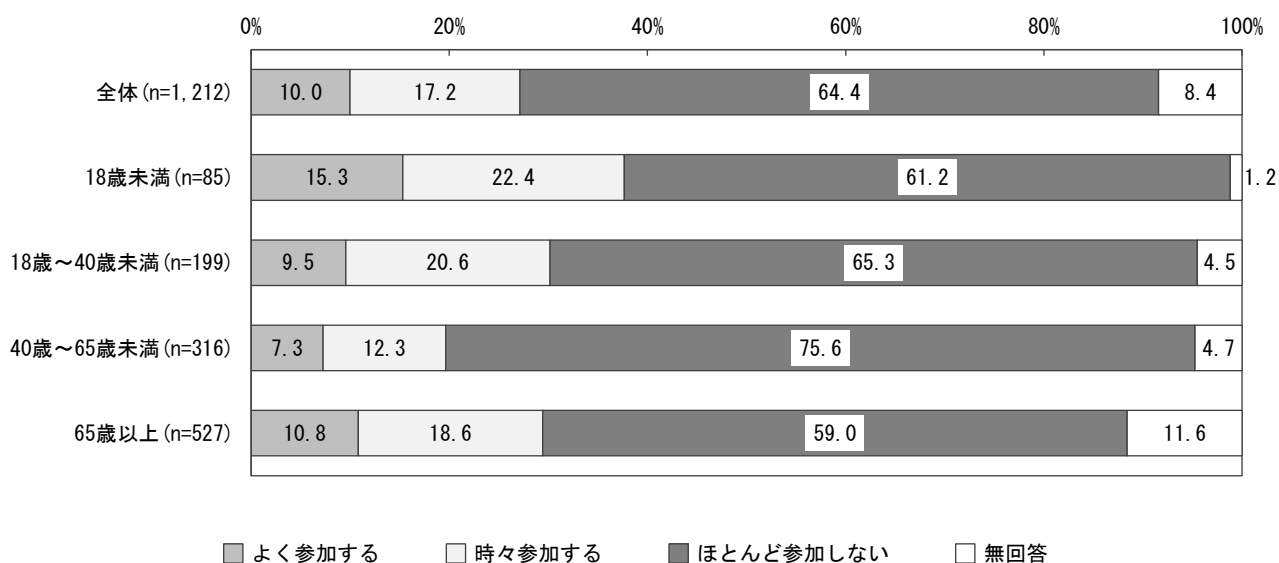
障がい種別ごとに見ると、どの障がい種別でも「ほとんど参加しない」が最も多く、いずれも60%以上となっています。

また、療育手帳所持者では活動に参加する人（「よく参加する」及び「時々参加する」の合計。以下、同じ。）は34.0%となっており、他の障がい種別よりも多くなっています。



年齢区分ごとに見ると、どの世代でも「ほとんど参加しない」が最も多く、40歳～65歳未満では75.6%となっています。

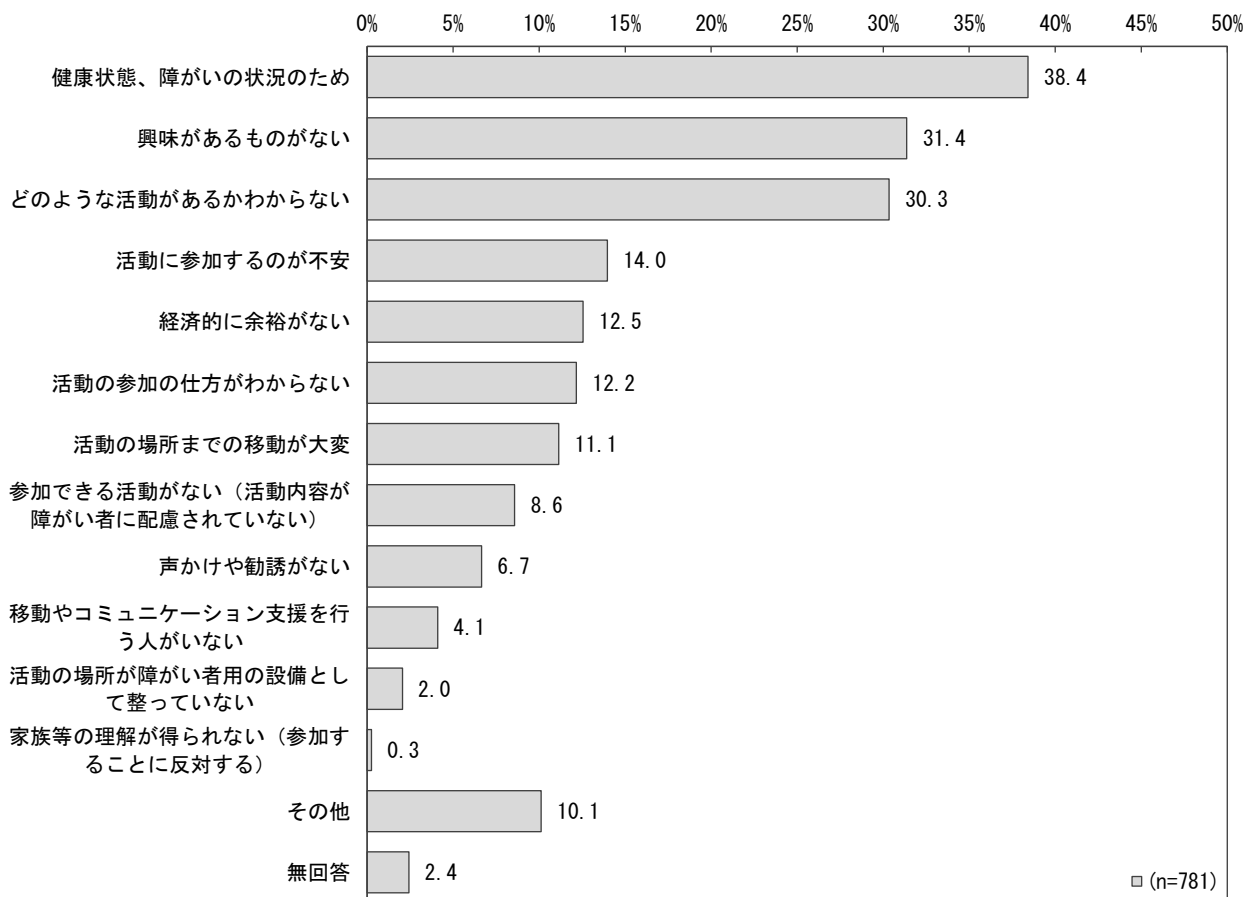
また、18歳未満では活動に参加する人が37.7%となっています。



問17で「3.ほとんど参加しない」と答えた方におたずねします。

問17-1 その理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

実施していない理由については、「健康状態、障がいの状況のため」が38.4%と最も多く、次いで、「興味があるものがない」が31.4%、「どのような活動があるかわからない」が30.3%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「健康状態、障がいの状況のため」がそれぞれ48.5%、37.6%、37.5%と最も多く、療育手帳所持者では「どのような活動があるかわからない」が42.4%と最も多くなっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「興味があるものがない」が39.4%となっています。

(単位：%)

	興味があるものがない	参加できる活動がない（活動内容が障がい者に配慮されていない）	どのような活動があるかわからない	活動の参加の仕方がわからない	声かけや勧誘がない	活動の場所が障がい者用の設備として整っていない	活動の場所までの移動が大変
全体 (n=781)	31.4	8.6	30.3	12.2	6.7	2.0	11.1
身体障害者手帳 (n=427)	25.1	8.2	26.0	9.4	5.6	1.9	12.4
療育手帳 (n=99)	38.4	25.3	42.4	17.2	10.1	5.1	16.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=160)	39.4	5.6	36.3	18.8	8.1	1.3	7.5
難病（特定疾患）の認定 (n=117)	30.8	5.1	29.1	5.1	3.4	0.9	15.4
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=32)	28.1	6.3	37.5	18.8	9.4	0.0	9.4
その他 (n=7)	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3

(単位：%)

	移動やコミュニケーション支援を行う人がいない	活動に参加するのが不安	家族等の理解が得られない（参加することに反対する）	経済的に余裕がない	健康状態、障がいの状況のため	その他	無回答
全体 (n=781)	4.1	14.0	0.3	12.5	38.4	10.1	2.4
身体障害者手帳 (n=427)	4.2	9.1	0.2	8.9	48.5	11.5	2.8
療育手帳 (n=99)	10.1	25.3	1.0	3.0	16.2	9.1	1.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=160)	3.1	24.4	0.0	25.0	33.1	8.1	1.9
難病（特定疾患）の認定 (n=117)	4.3	4.3	0.0	11.1	37.6	9.4	3.4
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=32)	3.1	25.0	0.0	15.6	37.5	9.4	6.3
その他 (n=7)	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0

年齢区分ごとに見ると、18歳未満及び40歳～65歳未満では「どのような活動があるかわからない」が最も多く、それぞれ38.5%、39.7%となっています。

また、18歳～40歳未満では「興味があるものがない」が45.4%、65歳以上では「健康状態、障がい
の状況のため」が53.1%と最も多くなっています。

(単位：%)

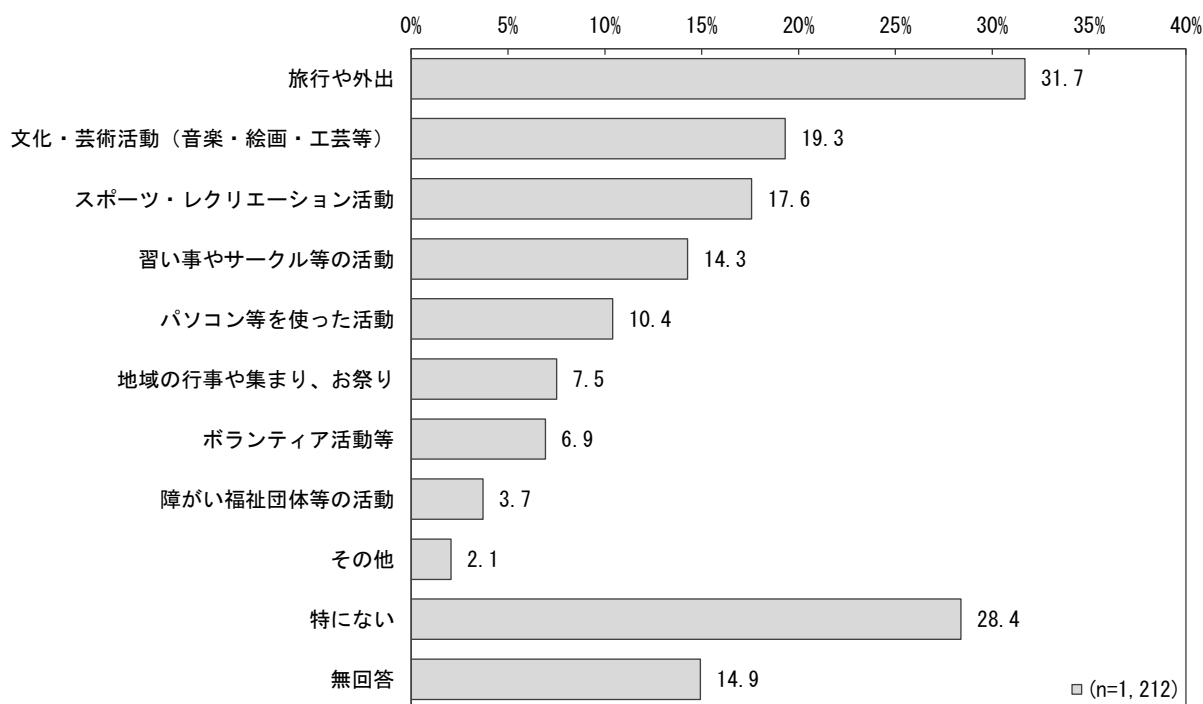
	興味があるものがない	参加できる活動がない (活動内容が障がい者に配慮されていない)	どのような活動があるかわからない	活動の参加の仕方がわからない	声かけや勧誘がない	活動の場所が障がい者用の設備として整っていない	活動の場所までの移動が大変
全体 (n=781)	31.4	8.6	30.3	12.2	6.7	2.0	11.1
18歳未満 (n=52)	25.0	32.7	38.5	17.3	5.8	5.8	19.2
18歳～40歳未満 (n=130)	45.4	12.3	39.2	14.6	11.5	3.1	11.5
40歳～65歳未満 (n=239)	34.3	5.4	39.7	17.2	7.9	0.8	8.4
65歳以上 (n=311)	24.4	5.5	18.0	6.8	4.2	1.9	12.5

(単位：%)

	移動やコミュニケーション支援を行う人がいない	活動に参加するのが不安	家族等の理解が得られない (参加することに反対する)	経済的に余裕がない	健康状態、障がいの状況のため	その他	無回答
全体 (n=781)	4.1	14.0	0.3	12.5	38.4	10.1	2.4
18歳未満 (n=52)	5.8	21.2	0.0	3.8	13.5	11.5	0.0
18歳～40歳未満 (n=130)	5.4	24.6	0.8	10.0	22.3	6.9	0.8
40歳～65歳未満 (n=239)	3.3	12.1	0.0	21.3	33.9	10.5	0.8
65歳以上 (n=311)	3.5	8.0	0.3	7.1	53.1	11.3	4.8

問18 今後、やってみたい活動はありますか。(主なもの3つまでに○)

今後、やってみたい活動については、「旅行や外出」が31.7%と最も多く、次いで、「文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）」が19.3%、「スポーツ・レクリエーション活動」が17.6%となっています。また、「特にない」が28.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「特にない」が32.8%と最も多く、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「旅行や外出」がそれぞれ35.9%、31.9%、40.9%、29.3%と最も多くなっています。

なお、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では、「文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）」が29.3%と「旅行や外出」と同じ割合となっています。

（単位：％）

	文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）	スポーツ・レクリエーション活動	習い事やサークル等の活動	障がい福祉団体等の活動	パソコン等を使った活動	地域の行事や集まり、お祭り	ボランティア活動等	旅行や外出	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,212)	19.3	17.6	14.3	3.7	10.4	7.5	6.9	31.7	2.1	28.4	14.9
身体障害者手帳 (n=682)	16.1	12.2	10.9	3.7	8.1	6.5	6.2	29.8	1.8	32.8	16.4
療育手帳 (n=156)	26.9	35.3	19.9	7.1	9.0	12.2	3.2	35.9	1.9	21.2	10.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	27.2	22.5	18.8	4.7	17.8	7.5	7.5	31.9	1.9	26.3	9.4
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	20.4	19.9	18.2	2.8	6.6	7.7	13.3	40.9	1.1	23.2	12.2
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	29.3	26.8	26.8	9.8	17.1	12.2	12.2	29.3	2.4	17.1	14.6
その他 (n=9)	11.1	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	33.3	11.1

年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「スポーツ・レクリエーション活動」が43.5%と最も多く、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「旅行や外出」がそれぞれ37.7%、36.7%と最も多くなっています。

（単位：％）

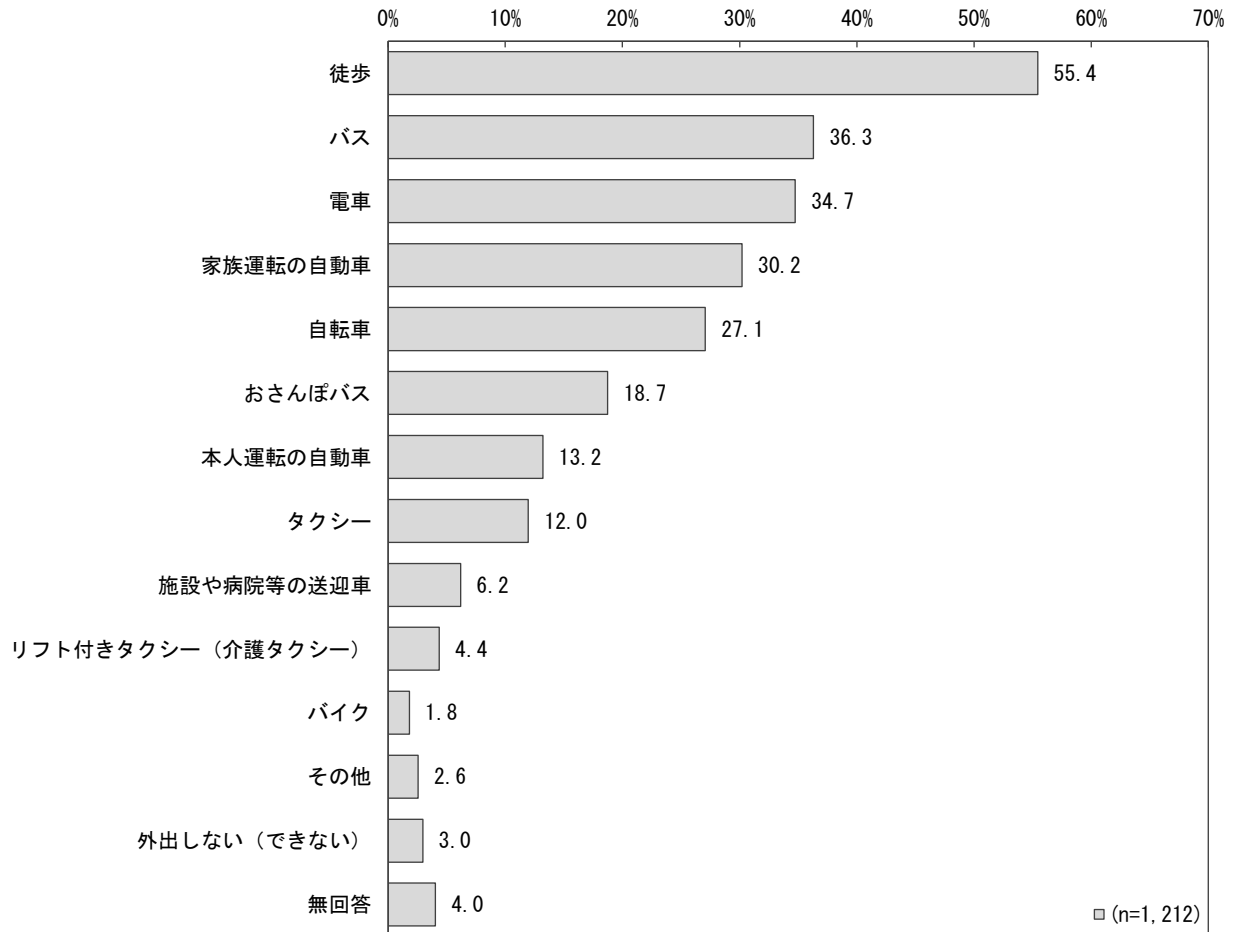
	文化・芸術活動（音楽・絵画・工芸等）	スポーツ・レクリエーション活動	習い事やサークル等の活動	障がい福祉団体等の活動	パソコン等を使った活動	地域の行事や集まり、お祭り	ボランティア活動等	旅行や外出	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,212)	19.3	17.6	14.3	3.7	10.4	7.5	6.9	31.7	2.1	28.4	14.9
18歳未満 (n=85)	35.3	43.5	31.8	7.1	12.9	14.1	8.2	29.4	0.0	11.8	9.4
18歳～40歳未満 (n=199)	25.6	23.6	15.6	3.5	12.1	10.6	4.0	37.7	2.0	24.6	7.0
40歳～65歳未満 (n=316)	20.9	21.2	17.4	6.0	13.9	7.6	10.8	36.7	1.9	27.2	10.1
65歳以上 (n=527)	14.2	8.3	10.1	2.3	6.1	5.1	5.5	27.3	2.1	34.7	20.1

6. 外出・移動手段について

問19 外出するときの主な移動手段は何ですか。(主なもの3つまでに○)

外出するときの主な移動手段については、「徒歩」が55.4%と最も多く、次いで、「バス」が36.3%、「電車」が34.7%となっています。

また、「外出しない(できない)」が3.0%となっています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「徒歩」が最も多く、いずれも40%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者では「バス」が34.6%、療育手帳所持者では「家族運転の自動車」が57.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病（特定疾患）の認定を受けている方及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「電車」がそれぞれ51.6%、39.2%、58.5%となっています。

(単位：%)

	徒歩	自転車	バイク	バス	おさんぽバス	電車	本人運転の自動車
全体 (n=1, 212)	55.4	27.1	1.8	36.3	18.7	34.7	13.2
身体障害者手帳 (n=682)	48.2	19.2	2.1	34.6	18.6	26.7	16.4
療育手帳 (n=156)	64.7	26.9	0.0	39.7	23.1	38.5	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	69.5	37.6	1.4	44.1	20.2	51.6	4.2
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	53.6	30.9	2.2	33.1	15.5	39.2	19.9
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	68.3	43.9	2.4	43.9	24.4	58.5	0.0
その他 (n=9)	44.4	0.0	11.1	22.2	22.2	44.4	22.2

(単位：%)

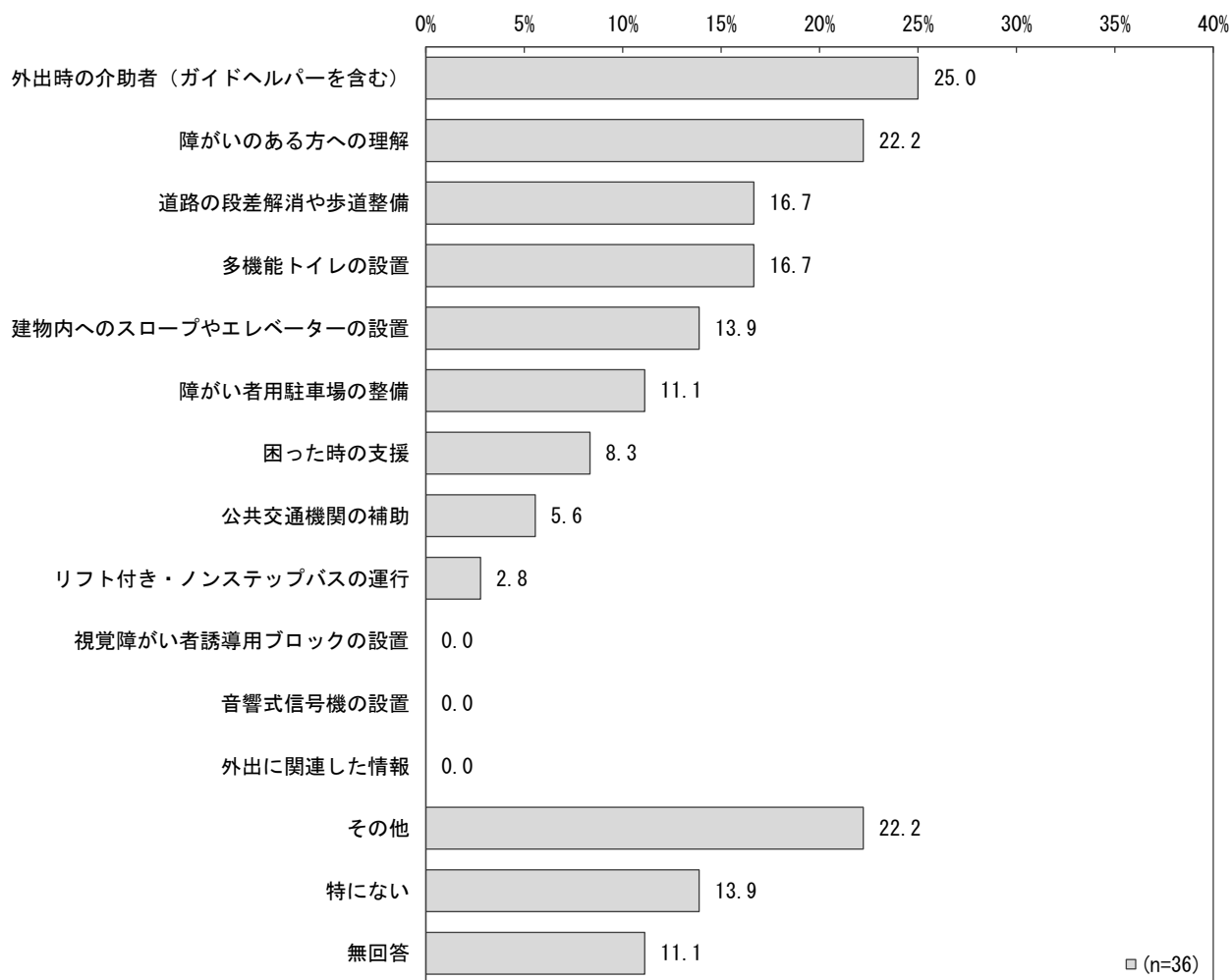
	家族運転の自動車	タクシー	リフト付きタクシー（介護タクシー）	施設や病院等の送迎車	その他	外出しない（できない）	無回答
全体 (n=1, 212)	30.2	12.0	4.4	6.2	2.6	3.0	4.0
身体障害者手帳 (n=682)	30.1	16.3	6.9	7.3	3.7	3.5	4.3
療育手帳 (n=156)	57.1	2.6	1.3	8.3	3.2	3.2	3.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	19.2	7.5	2.3	3.8	0.5	2.8	3.8
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	27.1	12.7	3.3	4.4	1.1	3.9	2.8
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	24.4	7.3	2.4	4.9	2.4	0.0	2.4
その他 (n=9)	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0

問 19 で「13. 外出しない（できない）」と答えた方におたずねします。

問19-1 外出のためには、何が必要ですか。（主なもの3つまでに○）

外出のために必要なものについては、「外出時の介助者（ガイドヘルパーを含む）」が25.0%と最も多く、次いで、「障がいのある方への理解」が22.2%、「道路の段差解消や歩道整備」及び「多機能トイレの設置」がともに16.7%となっています。

また、「その他」では「障がいの為、自力で行動できない」及び「身体的に外出できない」などの回答が挙げられています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者では「外出時の介助者（ガイドヘルパーを含む）」が29.2%と最も多く、療育手帳所持者では「障がいのある方への理解」が80.0%と最も多くなっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「多機能トイレの設置」、「その他」及び「特にない」がともに16.7%と最も多く、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「道路の段差解消や歩道整備」、「多機能トイレの設置」及び「特にない」がともに28.6%と最も多くなっています。

(単位：%)

	道路の段差解消や歩道整備	建物内へのスロープやエレベーターの設置	多機能トイレの設置	視覚障がい者誘導用ブロックの設置	音響式信号機の設置	公共交通機関の補助	障がい者用駐車場の整備	リフト付き・ノンステップバスの運行
全体 (n=36)	16.7	13.9	16.7	0.0	0.0	5.6	11.1	2.8
身体障害者手帳 (n=24)	12.5	16.7	20.8	0.0	0.0	8.3	16.7	4.2
療育手帳 (n=5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=6)	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾患）の認定 (n=7)	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

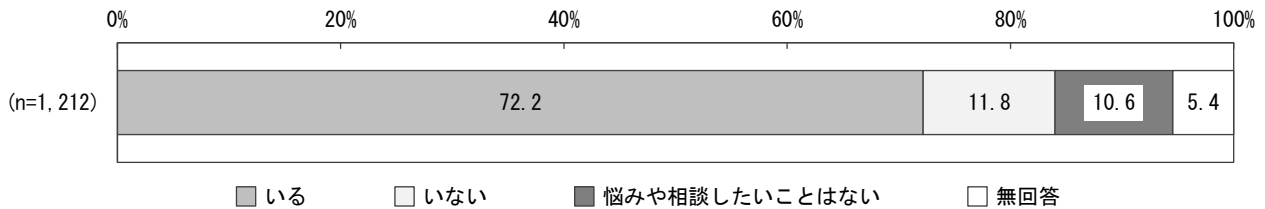
(単位：%)

	外出時の介助者（ガイドヘルパーを含む）	外出に関連した情報	困った時の支援	障がいのある方への理解	その他	特にない	無回答
全体 (n=36)	25.0	0.0	8.3	22.2	22.2	13.9	11.1
身体障害者手帳 (n=24)	29.2	0.0	0.0	12.5	25.0	16.7	8.3
療育手帳 (n=5)	20.0	0.0	60.0	80.0	0.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0
難病（特定疾患）の認定 (n=7)	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

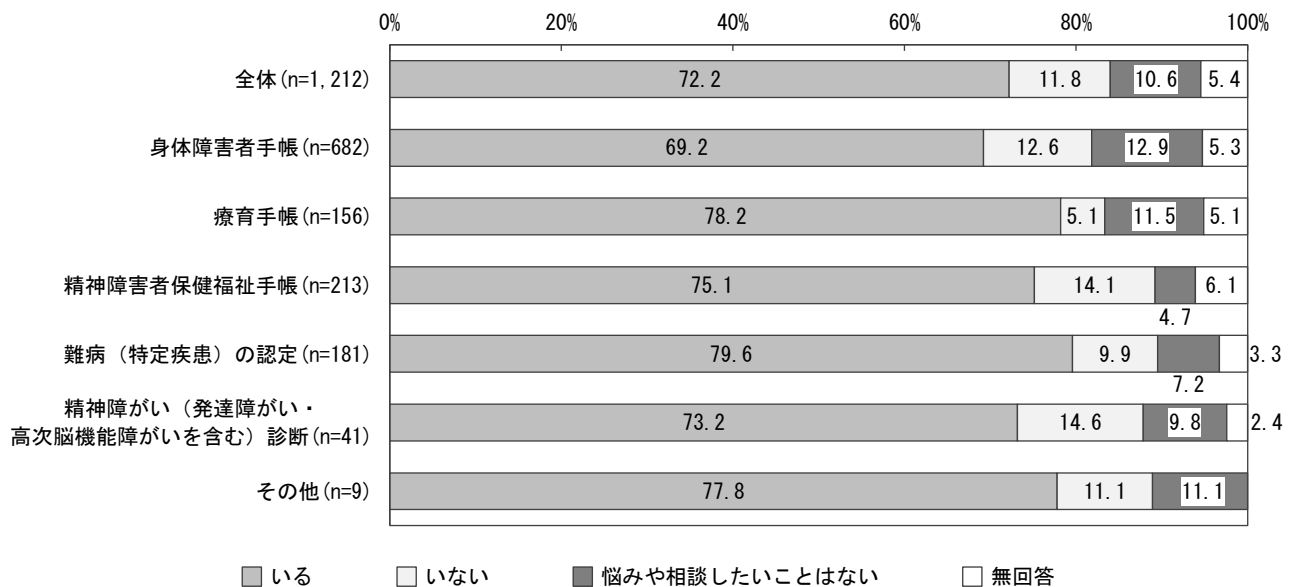
7. 悩み・相談ごと等について

問20 あなたは相談にのってもらっている人がいますか。(1つに〇)

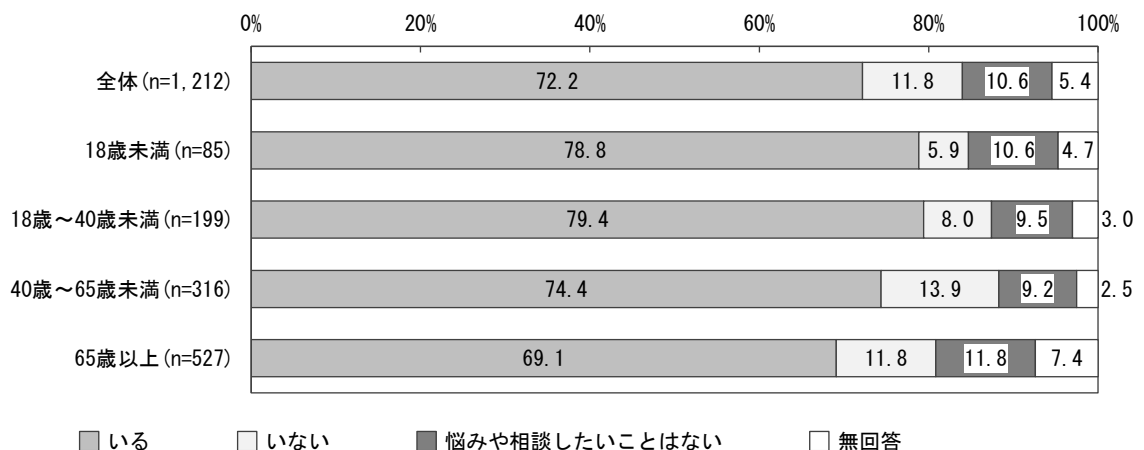
相談相手の有無については、「いる」が72.2%、「いない」が11.8%、「悩みや相談したいことはない」が10.6%となっています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「いる」が最も多く、身体障害者手帳所持者で69.2%となっている以外、いずれの障がい種別でも70%以上となっています。



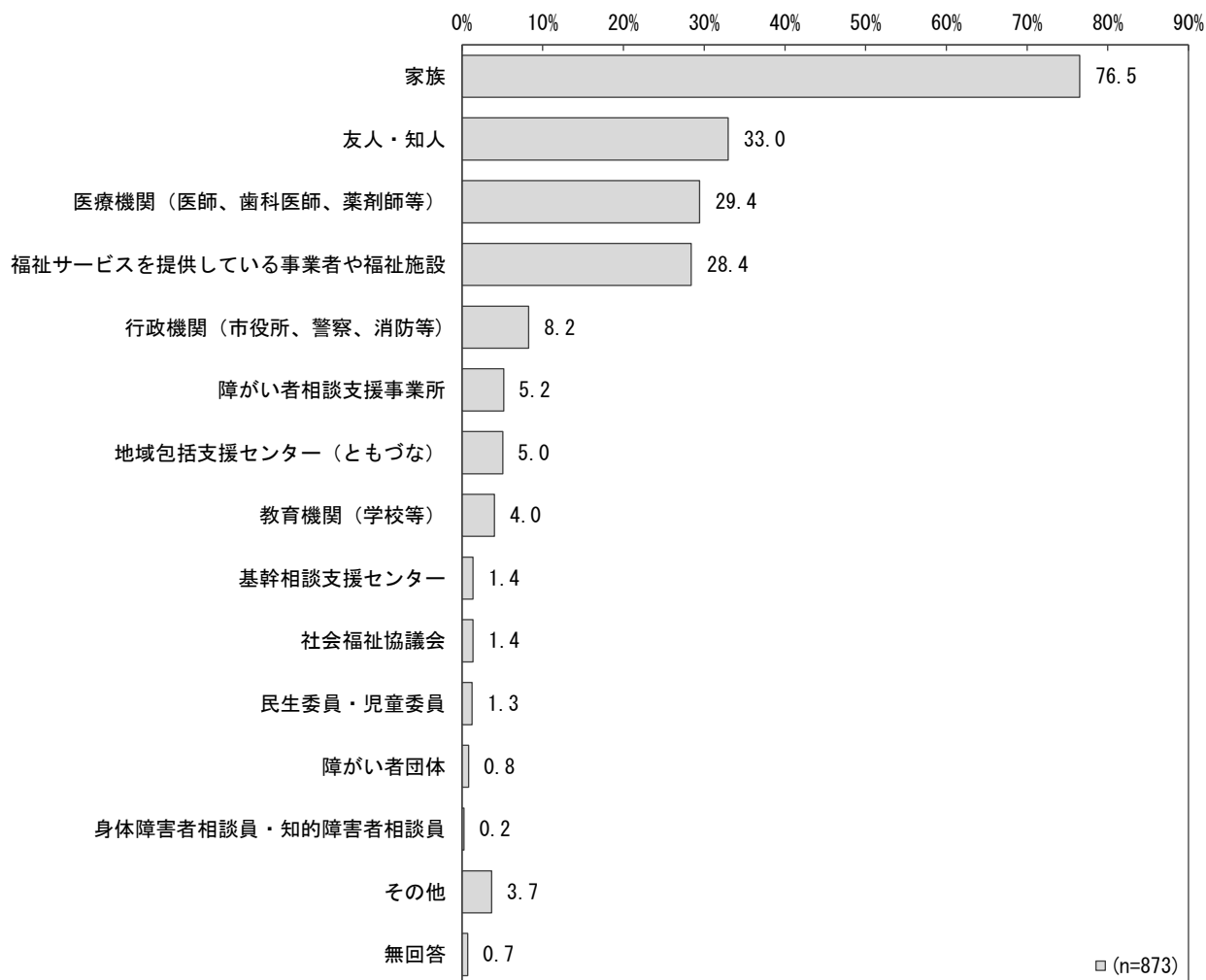
年齢区分ごとに見ると、年齢区分に関わらず「いる」が最も多く、65歳以上で69.1%となっている以外、いずれの年齢区分でも70%以上となっています。



問20で「1.いる」と答えた方におたずねします。

**問20-1 あなたが主に相談にのってもらっている人や機関をお答えください。
(主なもの3つまでに○)**

相談先については、「家族」が76.5%と最も多く、次いで、「友人・知人」が33.0%、「医療機関（医師、歯科医師、薬剤師等）」が29.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「家族」が最も多く、いずれも50%以上となっています。

次いで多い回答は、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「友人・知人」がそれぞれ34.0%、49.3%となっており、療育手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「福祉サービスを提供している事業者や福祉施設」がそれぞれ50.8%、46.7%となっています。

(単位：%)

	行政機関 (市役所、警察、消防等)	福祉サービスを提供している事業者や福祉施設	医療機関 (医師、歯科医師、薬剤師等)	教育機関 (学校等)	基幹相談支援センター	地域包括支援センター (ともづな)	障がい者相談支援事業所	社会福祉協議会
全体 (n=873)	8.2	28.4	29.4	4.0	1.4	5.0	5.2	1.4
身体障害者手帳 (n=471)	9.3	26.1	29.1	1.7	0.4	7.6	0.8	1.7
療育手帳 (n=122)	8.2	50.8	23.0	20.5	4.1	0.0	18.0	0.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=160)	13.1	33.1	39.4	3.8	1.9	1.9	11.3	3.1
難病（特定疾患）の認定 (n=144)	0.7	20.1	27.8	0.0	0.0	3.5	0.7	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=30)	13.3	46.7	43.3	10.0	6.7	3.3	3.3	0.0
その他 (n=7)	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

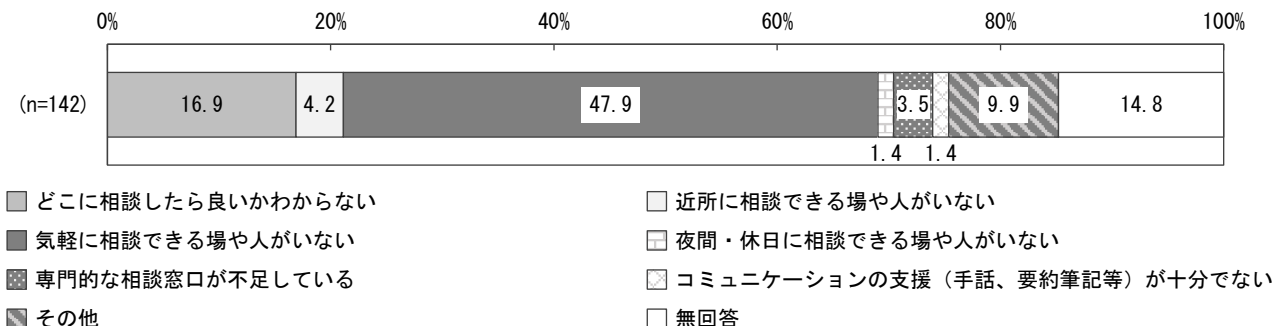
(単位：%)

	障がい者団体	民生委員・児童委員	身体障害者相談員・知的障害者相談員	家族	友人・知人	その他	無回答
全体 (n=873)	0.8	1.3	0.2	76.5	33.0	3.7	0.7
身体障害者手帳 (n=471)	1.1	1.5	0.0	81.3	34.0	2.3	0.4
療育手帳 (n=122)	1.6	0.0	1.6	68.0	13.9	5.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=160)	0.6	1.9	0.0	65.0	25.0	6.9	1.3
難病（特定疾患）の認定 (n=144)	0.7	0.0	0.0	84.7	49.3	3.5	0.7
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=30)	0.0	0.0	0.0	56.7	16.7	3.3	3.3
その他 (n=7)	0.0	0.0	0.0	85.7	42.9	0.0	0.0

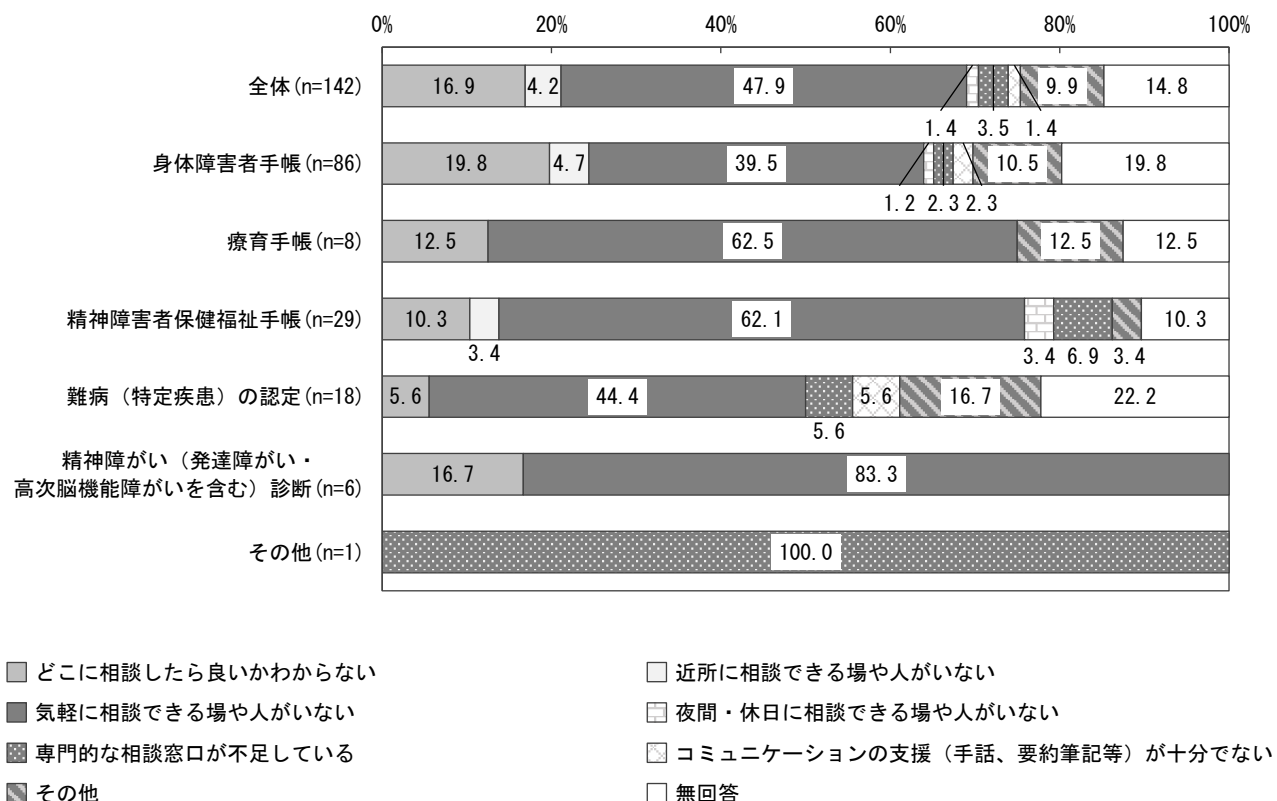
問20で「2. いない」と答えた方におたずねします。

問20-2 その理由は何ですか。(1つに○)

相談相手がない理由については、「気軽に相談できる場や人がいない」が47.9%と最も多く、次いで、「どこに相談したら良いかわからない」が16.9%となっています。



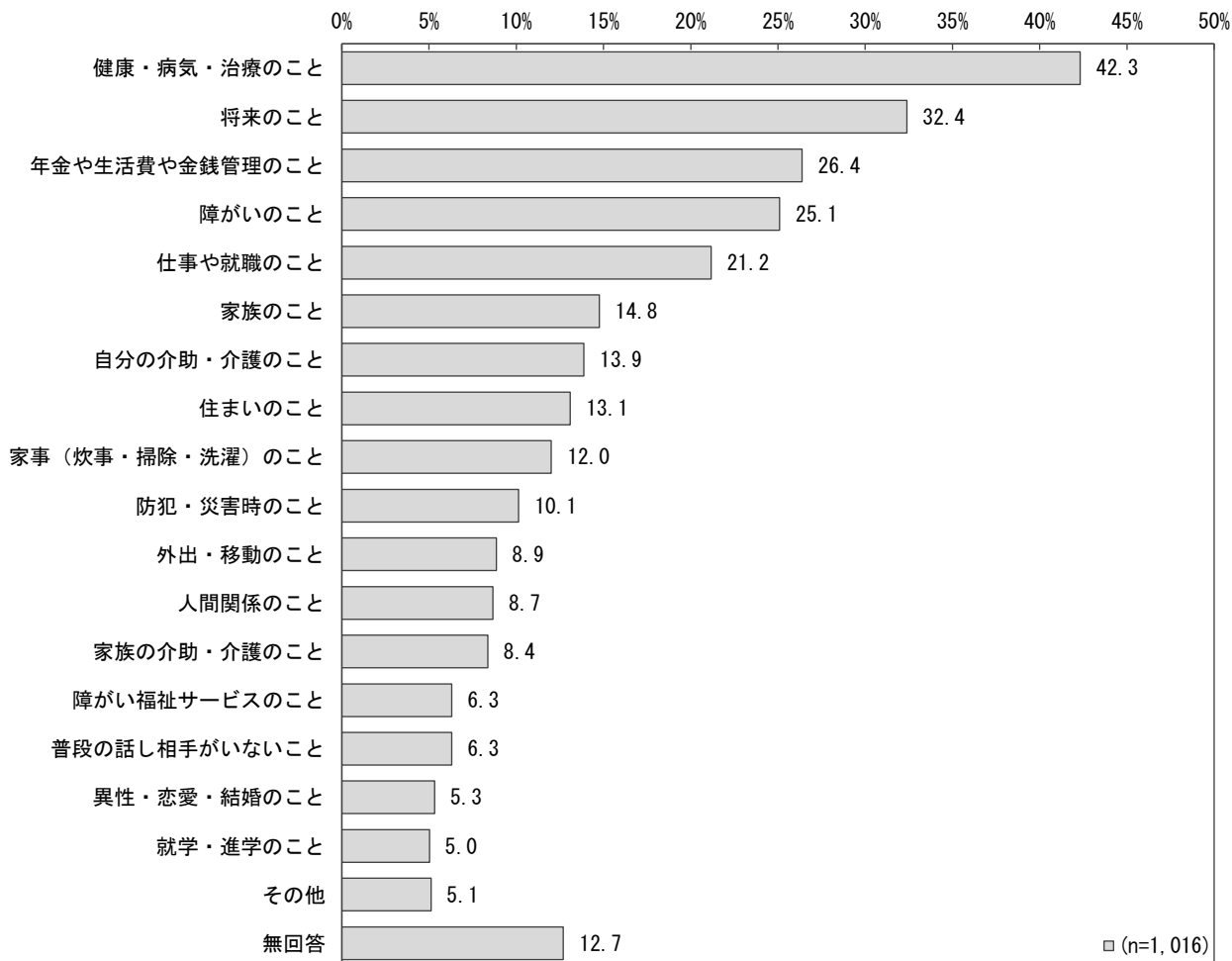
障がい種別ごとに見ると、どの障がい種別でも「気軽に相談できる場や人がいない」が最も多く、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では83.3%となっています。また、身体障害者手帳所持者では「どこに相談したら良いかわからない」が19.8%と他の障がい種別よりも多くなっています。



問20で「1.いる」または「2.いない」と答えた方におたずねします。

問20-3 現在、あなたの悩んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在、悩んでいることについては、「健康・病気・治療のこと」が42.3%と最も多く、次いで、「将来のこと」が32.4%、「年金や生活費や金銭管理のこと」が26.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では「健康・病気・治療のこと」がそれぞれ47.4%、48.8%と最も多く、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「将来のこと」がそれぞれ47.7%、50.0%、58.3%と最も多くなっています。

(単位：%)

	障がいのこと	障がい福祉サービスのこと	健康・病気・治療のこと	年金や生活費や金銭管理のこと	自分の介助・介護のこと	家族の介助・介護のこと	家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	住まいのこと	外出・移動のこと	就学・進学のこと
全体 (n=1,016)	25.1	6.3	42.3	26.4	13.9	8.4	12.0	13.1	8.9	5.0
身体障害者手帳 (n=557)	25.7	6.6	47.4	21.4	18.0	8.6	9.7	11.7	9.3	2.2
療育手帳 (n=130)	23.1	13.1	20.8	18.5	13.8	4.6	11.5	11.5	11.5	19.2
精神障害者保健福祉手帳 (n=190)	37.4	4.7	37.9	43.2	9.5	7.4	19.5	19.5	11.1	7.4
難病（特定疾患）の認定 (n=162)	14.8	1.2	48.8	24.1	13.0	11.1	9.9	14.8	8.0	3.1
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=36)	41.7	13.9	33.3	33.3	8.3	11.1	22.2	19.4	11.1	13.9
その他 (n=8)	12.5	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0

(単位：%)

	仕事や就職のこと	防犯・災害時のこと	普段の話し相手がないこと	家族のこと	異性・恋愛・結婚のこと	人間関係のこと	将来のこと	その他	無回答
全体 (n=1,016)	21.2	10.1	6.3	14.8	5.3	8.7	32.4	5.1	12.7
身体障害者手帳 (n=557)	12.6	11.3	4.1	13.3	2.7	2.9	22.6	5.0	14.9
療育手帳 (n=130)	26.9	11.5	3.8	10.8	6.2	13.1	47.7	4.6	14.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=190)	38.9	9.5	16.3	17.4	12.6	20.5	50.0	6.3	4.7
難病（特定疾患）の認定 (n=162)	19.1	9.9	1.9	19.8	3.7	6.2	31.5	3.1	14.2
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=36)	41.7	19.4	22.2	19.4	8.3	30.6	58.3	11.1	5.6
その他 (n=8)	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	37.5	0.0	25.0

年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「就学・進学のこと」が52.8%と最も多く、18歳～40歳未満及び40歳～65歳未満では「将来のこと」がそれぞれ48.9%、43.2%と最も多くなっています。

また、65歳以上では「健康・病気・治療のこと」が50.6%と最も多くなっています。

(単位：%)

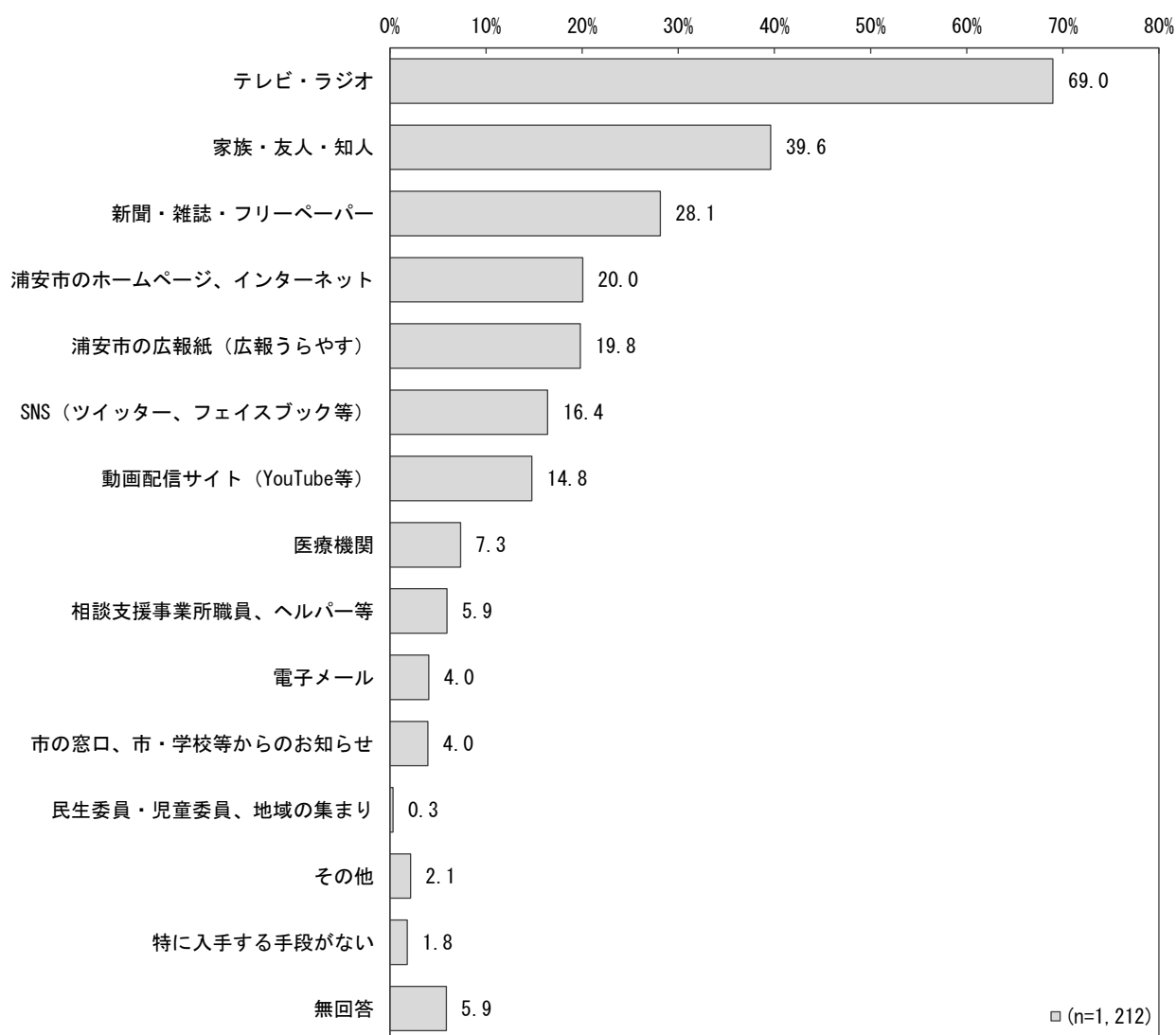
	障がいのこと	障がい福祉サービスのこと	健康・病気・治療のこと	年金や生活費や金銭管理のこと	自分の介助・介護のこと	家族の介助・介護のこと	家事（炊事・掃除・洗濯）のこと	住まいのこと	外出・移動のこと	就学・進学のこと
全体(n=1,016)	25.1	6.3	42.3	26.4	13.9	8.4	12.0	13.1	8.9	5.0
18歳未満(n=72)	25.0	12.5	16.7	6.9	12.5	2.8	5.6	6.9	9.7	52.8
18歳～40歳未満(n=174)	23.6	5.7	31.0	36.8	9.8	5.7	14.9	14.9	10.3	3.4
40歳～65歳未満(n=278)	30.9	7.9	42.1	32.7	10.4	9.7	11.5	16.5	7.6	1.4
65歳以上(n=425)	20.0	4.2	50.6	18.8	18.1	9.9	10.1	10.4	8.0	0.0

(単位：%)

	仕事や就職のこと	防犯・災害時のこと	普段の話し相手がいないこと	家族のこと	異性・恋愛・結婚のこと	人間関係のこと	将来のこと	その他	無回答
全体(n=1,016)	21.2	10.1	6.3	14.8	5.3	8.7	32.4	5.1	12.7
18歳未満(n=72)	22.2	9.7	2.8	9.7	5.6	19.4	47.2	6.9	6.9
18歳～40歳未満(n=174)	40.2	9.8	8.6	14.4	13.2	16.1	48.9	5.7	11.5
40歳～65歳未満(n=278)	31.3	10.8	7.9	18.0	6.5	9.0	43.2	5.0	9.4
65歳以上(n=425)	3.8	9.9	4.0	12.7	0.5	1.2	14.8	4.5	17.4

問21 普段、情報はどのように収集していますか。(主なもの3つまでに○)

情報の収集先については、「テレビ・ラジオ」が69.0%と最も多く、次いで、「家族・友人・知人」が39.6%、「新聞・雑誌・フリーペーパー」が28.1%となっています。



障がい種別ごとに見ると、療育手帳を除いた障がい種別では「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで、「家族・友人・知人」となっています。

また、療育手帳では「家族・友人・知人」が55.8%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」が48.7%となっています。

(単位：%)

	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・フリーペーパー	浦安市のホームページ、インターネット	動画配信サイト (YouTube等)	電子メール	SNS(ツイッター、フェイスブック等)	浦安市の広報紙(広報うらや)	家族・友人・知人
全体(n=1,212)	69.0	28.1	20.0	14.8	4.0	16.4	19.8	39.6
身体障害者手帳(n=682)	75.5	35.0	18.0	10.0	4.5	11.0	23.2	39.4
療育手帳(n=156)	48.7	9.6	17.3	21.8	1.3	12.2	12.8	55.8
精神障害者保健福祉手帳(n=213)	54.5	16.4	22.1	26.3	3.3	29.6	13.1	32.4
難病(特定疾患)の認定(n=181)	72.4	23.8	26.5	12.2	5.5	22.1	20.4	43.6
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断(n=41)	53.7	14.6	22.0	26.8	2.4	41.5	2.4	39.0
その他(n=9)	33.3	22.2	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	33.3

(単位：%)

	市の窓口、市・学校等からのお知らせ	相談支援事業所職員、ヘルパー等	民生委員・児童委員、地域の集まり	医療機関	その他	特に入手する手段がない	無回答
全体(n=1,212)	4.0	5.9	0.3	7.3	2.1	1.8	5.9
身体障害者手帳(n=682)	2.5	4.4	0.3	8.5	1.3	1.8	5.9
療育手帳(n=156)	17.9	20.5	0.0	4.5	2.6	3.2	5.8
精神障害者保健福祉手帳(n=213)	2.8	7.0	0.9	6.6	4.7	3.3	5.6
難病(特定疾患)の認定(n=181)	2.8	2.2	0.0	11.0	2.8	2.2	5.0
精神障がい(発達障がい・高次脳機能障がいを含む)診断(n=41)	0.0	9.8	0.0	2.4	2.4	2.4	7.3
その他(n=9)	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	11.1

年齢区分ごとに見ると、18歳未満では「家族・友人・知人」が60.0%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」が42.4%となっています。

また、18歳～40歳未満、40歳～65歳未満及び65歳以上では「テレビ・ラジオ」がそれぞれ59.8%、65.5%、79.7%と最も多く、65歳以上では次いで、「新聞・雑誌・フリーペーパー」が42.7%となっています。

(単位：%)

	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・フリーペーパー	浦安市のホームページ、インターネット	動画配信サイト (YouTube等)	電子メール	SNS(ツイッター、フェイスブック等)	浦安市の広報紙(広報うらやす)	家族・友人・知人
全体(n=1,212)	69.0	28.1	20.0	14.8	4.0	16.4	19.8	39.6
18歳未満(n=85)	42.4	4.7	21.2	34.1	0.0	17.6	5.9	60.0
18歳～40歳未満(n=199)	59.8	12.6	22.1	30.2	2.5	34.2	9.5	42.2
40歳～65歳未満(n=316)	65.5	21.5	27.5	16.8	4.4	24.7	18.4	36.4
65歳以上(n=527)	79.7	42.7	14.2	4.2	5.1	4.4	27.1	38.3

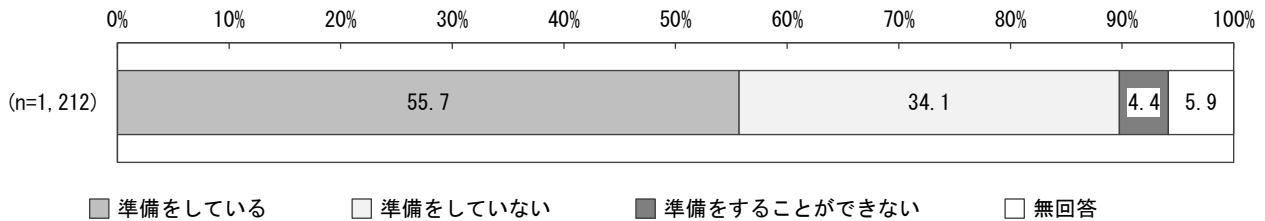
(単位：%)

	市の窓口、市・学校等からのお知らせ	相談支援事業所職員、ヘルパー等	民生委員・児童委員、地域の集まり	医療機関	その他	特に入手する手段がない	無回答
全体(n=1,212)	4.0	5.9	0.3	7.3	2.1	1.8	5.9
18歳未満(n=85)	28.2	18.8	0.0	7.1	0.0	0.0	5.9
18歳～40歳未満(n=199)	4.5	7.5	0.0	7.5	3.0	3.5	3.0
40歳～65歳未満(n=316)	1.9	6.6	0.3	7.9	3.8	2.2	3.2
65歳以上(n=527)	1.3	3.2	0.6	7.6	0.9	1.1	8.0

8. 災害時の備えについて

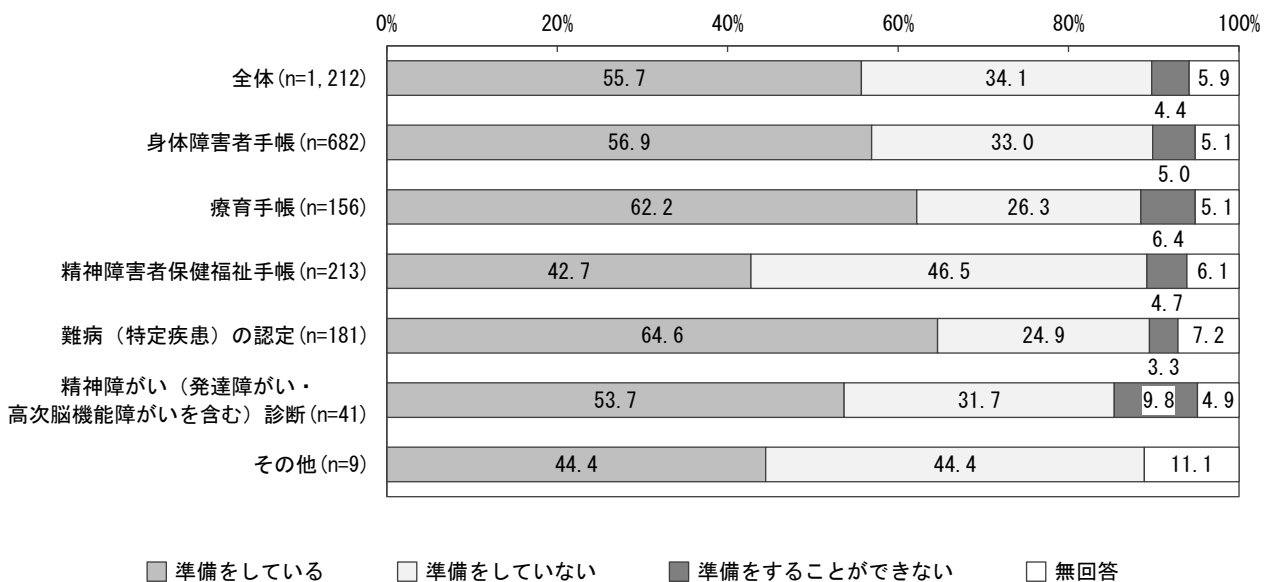
問22 災害（地震や水害等）に備えて準備をしていますか。（1つに〇）

災害（地震や水害等）に備えた準備については、「準備をしている」が55.7%、「準備をしていない」が34.1%、「準備をすることができない」が4.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者を除いた障がい種別では「準備をしている」が最も多く、過半数を占めています。

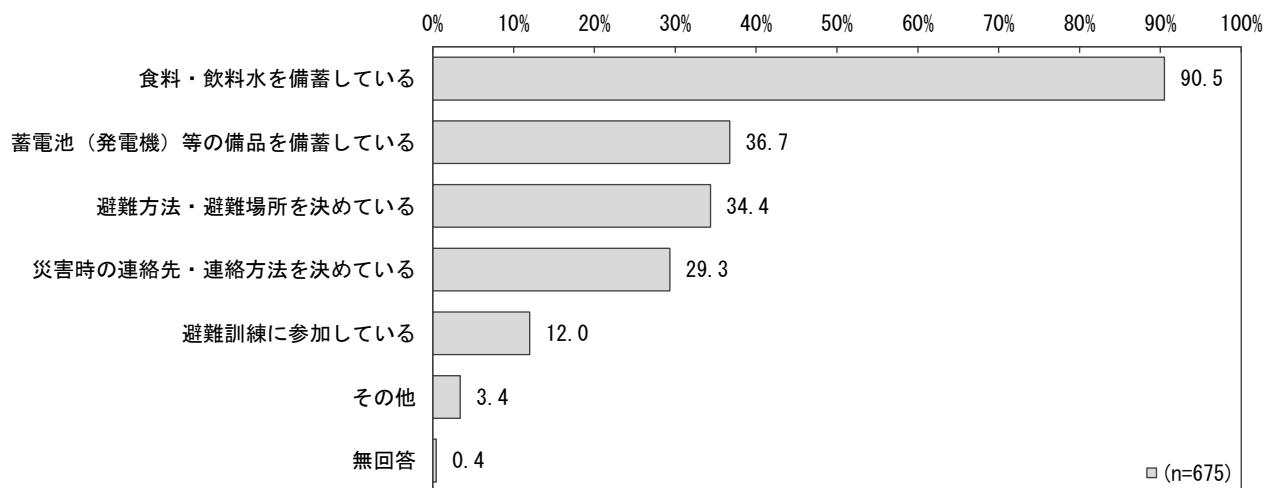
また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「準備をしている」が42.7%、「準備をしていない」が46.5%となっています。



問22で「1.準備をしている」と答えた方におたずねします。

問22-1 具体的に準備していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

具体的に準備していることについては、「食料・飲料水を備蓄している」が90.5%と最も多く、次いで、「蓄電池（発電機）等の備品を備蓄している」が36.7%、「避難方法・避難場所を決めている」が34.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「食料・飲料水を備蓄している」が最も多く、いずれも80%以上となっています。次いで、「蓄電池（発電機）等の備品を備蓄している」となっており、いずれも30%以上となっています。

(単位：%)

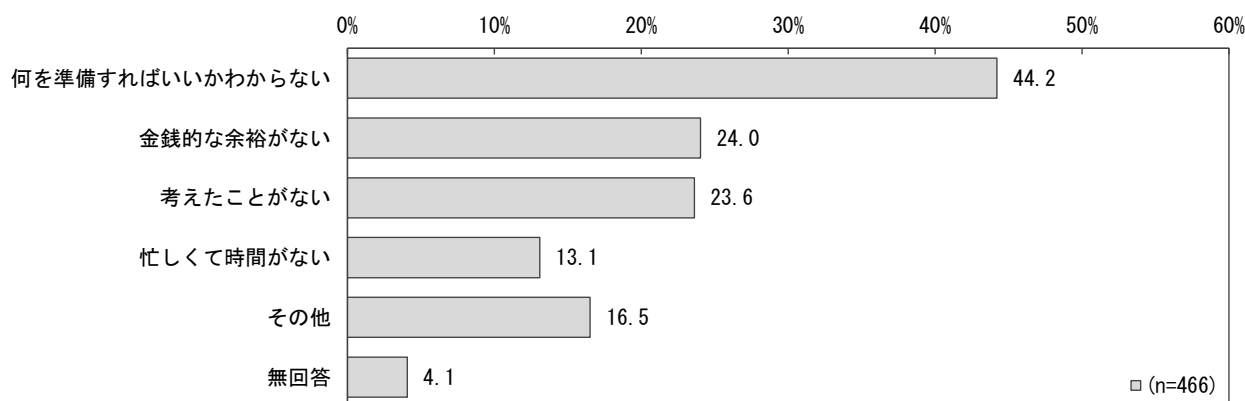
	食料・飲料水を備蓄している	蓄電池（発電機）等の備品を備蓄している	避難方法・避難場所を決めている	災害時の連絡先・連絡方法を決めている	避難訓練に参加している	その他	無回答
全体 (n=675)	90.5	36.7	34.4	29.3	12.0	3.4	0.4
18歳未満 (n=63)	90.5	36.5	34.9	12.7	25.4	0.0	0.0
18歳～40歳未満 (n=107)	88.8	35.5	32.7	33.6	11.2	3.7	0.0
40歳～65歳未満 (n=174)	94.8	37.9	32.2	25.9	7.5	2.3	0.0
65歳以上 (n=291)	89.3	37.8	36.1	34.4	11.3	3.8	1.0

問22で「2. 準備をしていない」または「3. 準備をすることができない」と答えた方におたずねします。

問22-2 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

準備をすることができない理由については、「何を準備すればいいかわからない」が44.2%と最も多く、次いで、「金銭的な余裕がない」が24.0%、「考えたことがない」が23.6%となっています。

また、「その他」では「家族に任せている」、「準備が億劫だから」及び「身体が不自由なためできない」などの回答が多く挙げられています。



障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「何を準備すればいいかわからない」が最も多くなっています。

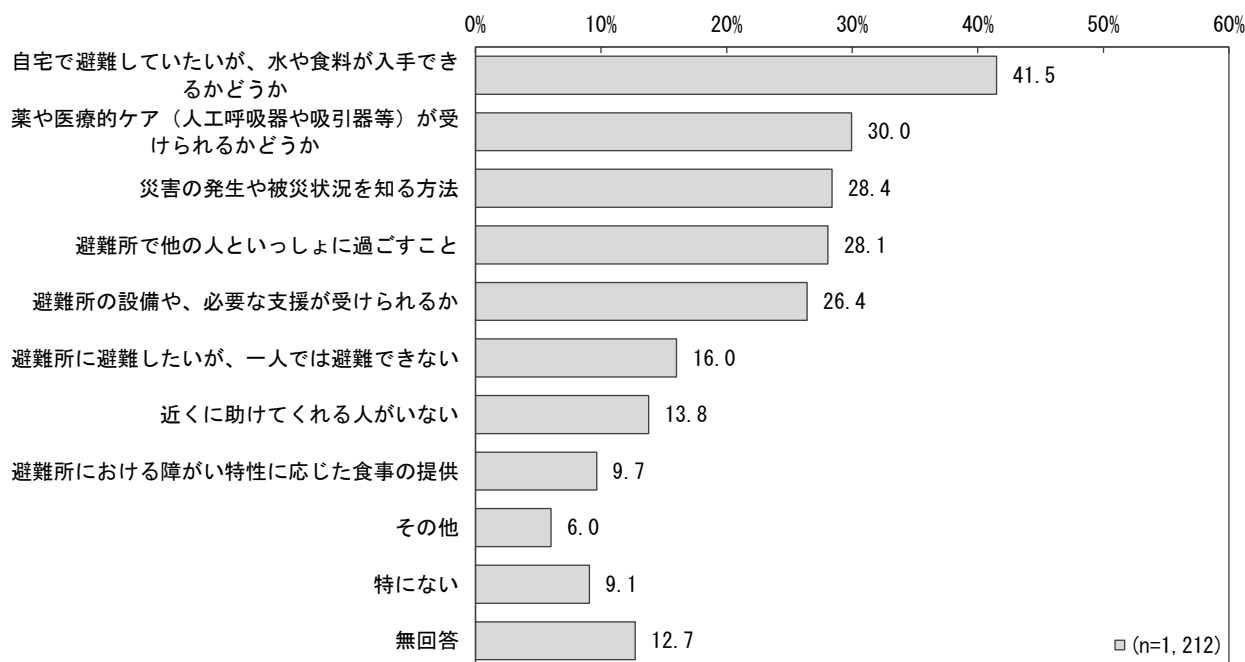
次いで多い回答は身体障害者手帳所持者及び療育手帳では「考えたことがない」、精神障害者保健福祉手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「金銭的な余裕がない」となっています。

(単位：%)

	何を準備すればいいかわからない	忙しくて時間がない	金銭的な余裕がない	考えたことがない	その他	無回答
全体 (n=466)	44.2	13.1	24.0	23.6	16.5	4.1
身体障害者手帳 (n=259)	39.0	10.4	20.1	25.1	20.5	5.0
療育手帳 (n=51)	62.7	17.6	11.8	27.5	9.8	3.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=109)	56.9	13.8	38.5	20.2	9.2	0.9
難病（特定疾患）の認定 (n=51)	29.4	15.7	19.6	17.6	27.5	2.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=17)	64.7	23.5	35.3	17.6	11.8	0.0
その他 (n=4)	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0

問23 災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

災害発生時に困ることや不安なことについては、「自宅で避難してたいが、水や食料が入手できるかどうか」が41.5%と最も多く、次いで、「薬や医療的ケア（人工呼吸器や吸引器等）が受けられるかどうか」が30.0%、「災害の発生や被災状況を知る方法」が28.4%となっています。



障がい種別ごとに見ると、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「自宅で避難してたいが、水や食料が入手できるかどうか」がそれぞれ41.9%、46.0%と最も多くなっています。

また、療育手帳所持者及び精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「避難所で他の人と一緒に過ごすこと」がそれぞれ48.7%、48.8%と最も多くなっています。

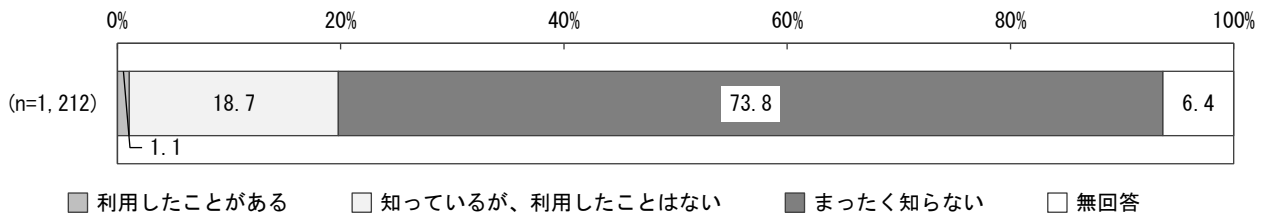
(単位：%)

	災害の発生や被災状況を知る方法	近くに助けてくれる人がいない	薬や医療的ケア（人工呼吸器や吸引器等）が受けられるかどうか	自宅で避難してたいが、水や食料が入手できるかどうか	避難所に避難したいが、一人では避難できない	避難所の設備や、必要な支援が受けられるか	避難所で他の人と一緒に過ごすこと	避難所における障がい特性に応じた食事の提供	その他	特になし	無回答
全体 (n=1,212)	28.4	13.8	30.0	41.5	16.0	26.4	28.1	9.7	6.0	9.1	12.7
身体障害者手帳 (n=682)	29.2	11.9	32.0	41.9	17.0	27.0	18.8	10.9	5.4	11.1	12.2
療育手帳 (n=156)	32.1	17.3	12.8	30.1	30.1	30.8	48.7	15.4	8.3	5.8	16.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=213)	28.6	19.7	28.6	46.0	12.2	26.8	40.8	6.6	9.9	6.1	13.1
難病（特定疾患）の認定 (n=181)	22.7	14.9	43.6	41.4	11.0	27.1	32.0	10.5	4.4	5.5	10.5
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=41)	31.7	14.6	26.8	41.5	24.4	36.6	48.8	9.8	2.4	2.4	14.6
その他 (n=9)	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	33.3	11.1

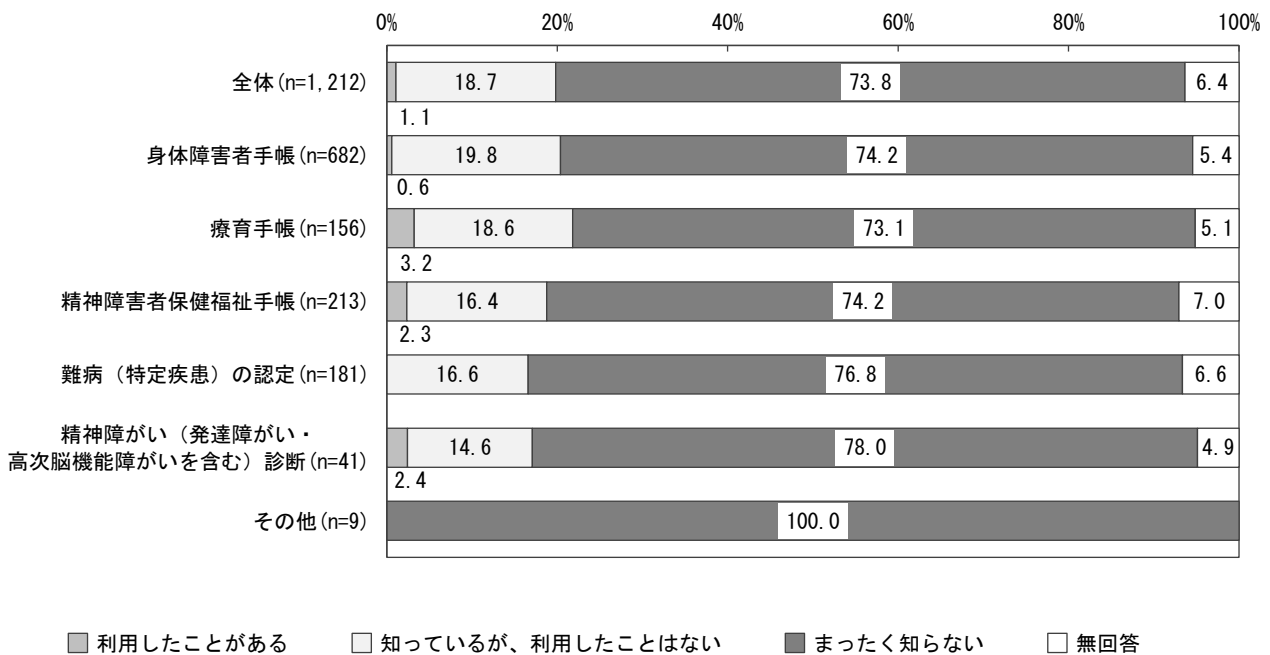
9. 障がい者差別に関する法律及び条例について

問24 浦安市では、障がい者虐待や障がいを理由とする差別に関する相談や通報を受けるため「障がい者権利擁護センター」を設置していますが、あなたは、「障がい者権利擁護センター」について知っていたり、利用したことがありますか。(1つに○)

市の障がい者権利擁護センターの利用経験については、「利用したことがある」が1.1%、「知っているが、利用したことはない」が18.7%、「まったく知らない」が73.8%となっています。

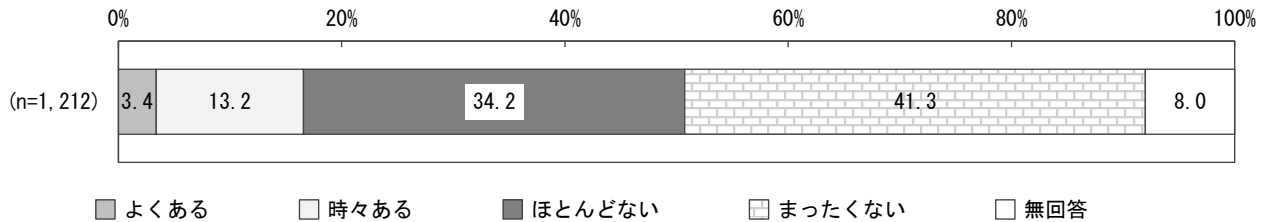


障がい種別ごとに見ると、障がい種別に関わらず「まったく知らない」が最も多く、いずれも70%以上となっています。

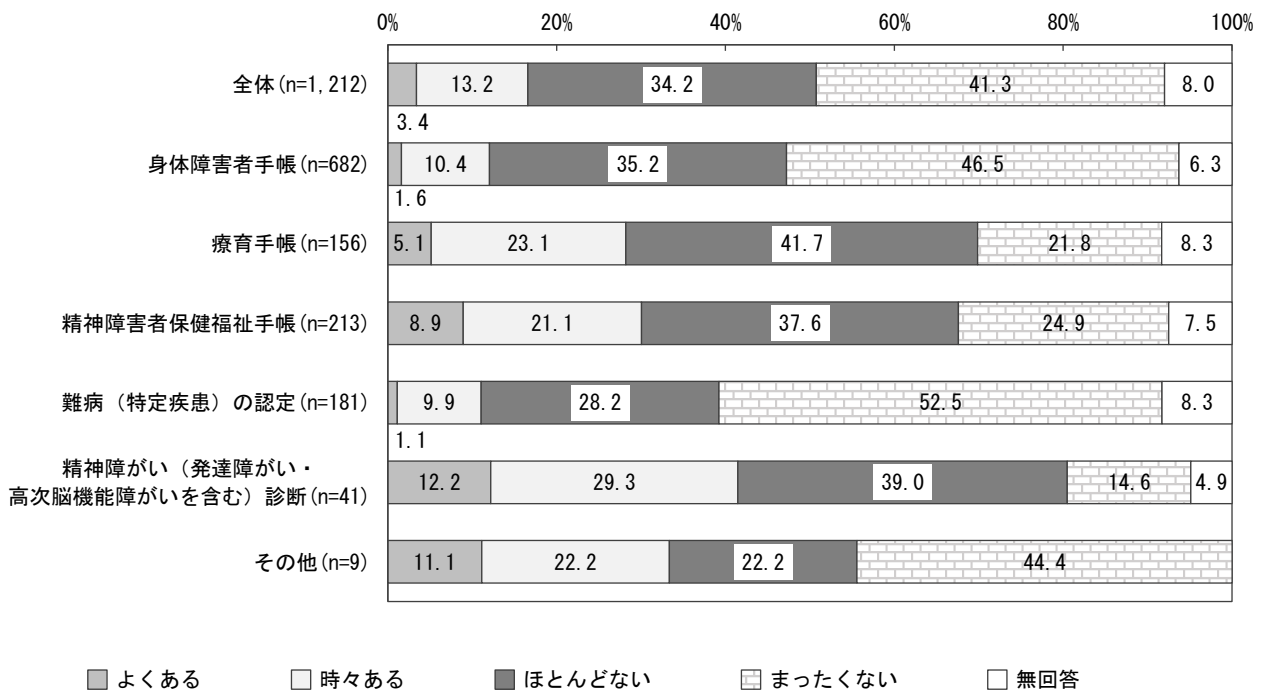


問25 あなたは過去3年間に障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(1つに○)

過去3年間の差別等の経験については、「よくある」が3.4%、「時々ある」が13.2%、「ほとんどない」が34.2%、「まったくない」が41.3%となっています。

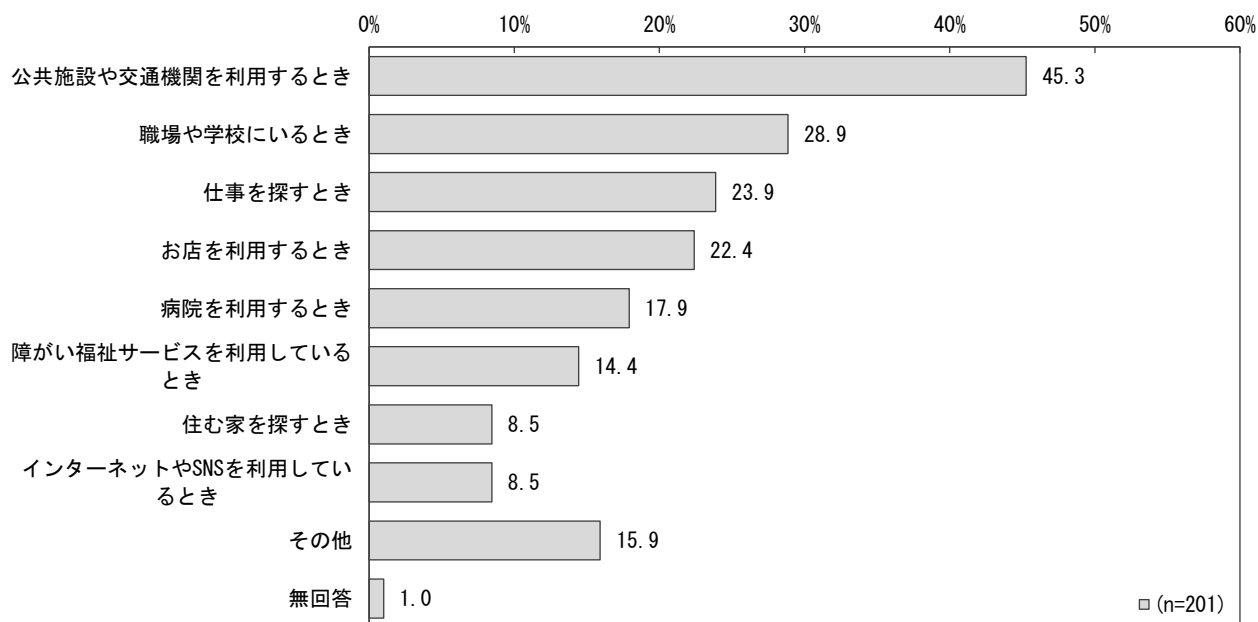


障がい種別ごとに見ると、精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断を受けている方では「ある」（「よくある」及び「時々ある」の合計。）が41.5%と他の障がい種別よりも多く、一方で、身体障害者手帳所持者及び難病（特定疾患）の認定を受けている方では、差別を受けた経験が「ない」（「ほとんどない」及び「まったくない」の合計。）がそれぞれ81.7%、80.7%と他の障がい種別よりも多くなっています。



問25-1 あなたは、どのようなときに、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

障がいを理由に差別されていると感じるときは、「公共施設や交通機関を利用するとき」が45.3%と最も多く、次いで、「職場や学校にいるとき」が28.9%、「仕事を探すとき」が23.9%となっています。また、「その他」では「日常生活で他者とかがかわるとき」及び「家族や友人といるとき」などの回答が挙げられています。



障がい種別ごとに見ると、難病（特定疾患）の認定を除いた障がい種別では「公共施設や交通機関を利用するとき」が最も多く、いずれも40%以上となっています。

また、難病（特定疾患）の認定を受けている方では「仕事を探すとき」が30.0%と最も多くなっています。

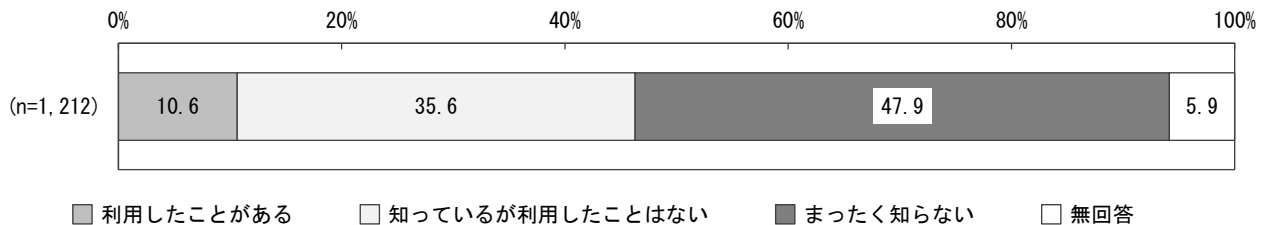
(単位：%)

	公共施設や交通機関を利用するとき	職場や学校にいるとき	お店を利用するとき	病院を利用するとき	仕事を探すとき	住む家を探すとき	障がい福祉サービスを利用しているとき	インターネットやSNSを利用しているとき	その他	無回答
全体 (n=201)	45.3	28.9	22.4	17.9	23.9	8.5	14.4	8.5	15.9	1.0
身体障害者手帳 (n=82)	56.1	22.0	28.0	17.1	17.1	7.3	12.2	7.3	12.2	1.2
療育手帳 (n=44)	52.3	34.1	34.1	18.2	9.1	4.5	15.9	0.0	9.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=64)	43.8	25.0	17.2	23.4	29.7	14.1	20.3	9.4	17.2	1.6
難病（特定疾患）の認定 (n=20)	25.0	25.0	20.0	20.0	30.0	5.0	10.0	10.0	25.0	0.0
精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断 (n=17)	58.8	35.3	41.2	35.3	29.4	17.6	11.8	17.6	11.8	0.0
その他 (n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

10. 福祉施策について

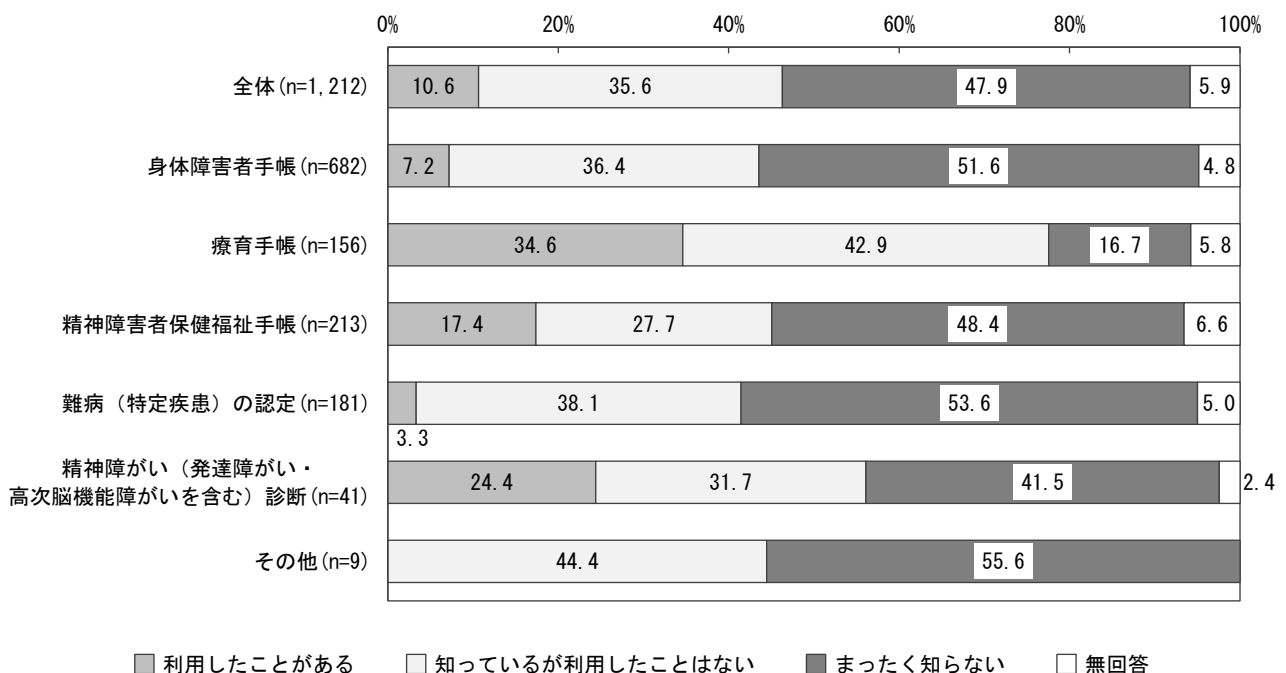
問26 東野地区複合福祉施設（東野パティオ）を知っていますか。（1つに〇）

東野地区複合福祉施設（東野パティオ）の認知については、「利用したことがある」が10.6%、「知っているが利用したことはない」が35.6%、「まったく知らない」が47.9%となっています。



障がい種別ごとに見ると、療育手帳所持者では「利用したことがある」が34.6%、「知っているが利用したことはない」が42.9%と他の障がい種別よりも多くなっています。

他の障がい種別では「まったく知らない」が40%以上となっています。



問26で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

問26-1 利用にあたり、満足な点・不満足な点を教えてください。

東野地区複合福祉施設（東野パティオ）の利用にあたり、満足な点・不満足な点については、86名の方から回答がありました。内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は94件となり、回答者数より多くなっています。

項目	件数
1. 施設に対する感謝・満足な点	39
2. 施設周辺の環境・アクセスについて	9
3. 支援体制について	9
4. 施設に対して不満足な点	8
5. 施設の利用状況について	8
6. 施設内の環境について	6
7. 行事・イベントについて	5
8. 手続きについて	4
9. 特にない・わからない	5
10. その他	1
合 計	94

頂いたご意見を項目ごとに整理して、以下に示します。

1. 施設に対する感謝・満足な点（39件）

- ・東野パティオに就業体験に行きました。また色々な事業所のショップで買い物ができるイベントにも参加しました。駐車場がありますが、交通の便が良く、バス利用もできるので将来はふるさと学舎のパンを作る夢を持っています。とても満足です。
- ・本人は話が出来ないので分からない。親としては車で行けて、施設も車いすで不便がない。
- ・広々として、清潔感がある。特に不満点はない。
- ・満足した点は名前を覚えてくれたり、優しくしたりしてくれた。
- ・一時車いすを利用し、ありがたかった。
- ・親切で話も丁寧に根気強く聞いて下さり、とても助かりました。

2. 施設周辺の環境・アクセスについて（9件）

- ・バス停から遠いので入口まで行きにくいです。
- ・郵便ポストがあるといい。
- ・基本的に徒歩で移動しているが、自宅から遠い、交通の便が悪い。交通の便が悪いので時間がかかっても徒歩移動を選択している。
- ・敷地内のどこを歩けば安全に歩けるのか、自転車や車はどこを走ったらいいのか、よくわからない。色分けやガードレールなどわかりやすくしてほしい。

3. 支援体制について（9件）

- ・スタッフの人員が多く利用者が少ないのもっと大勢の人の参加があるといいのに・・・。宣伝不足では。
- ・個人情報勝手にシュレッダーをされたり、スタッフがそもそも障害者差別の言葉を発する
- ・重度の身体障がい者が短期入所できると思っていたが、看護師が不在など、医療的ケアが十分でなく利用できない。

4. 施設に対して不満足な点（8件）

- ・不満な点：送迎バスの時間が不定であること。
- ・不満な点：終了時間が早い。
- ・不満な点：ネットワークの貸し出しがあるのか不明。飲食ができない。プロジェクタースクリーンがない。

5. 施設の利用状況について（8件）

- ・コロナ前に利用しただけなので、最近是利用していない。
- ・日中の居場所がなく1度行って見たが、マスクをしていない人がいて怖くなりそれきり行っていません。
- ・2階の「ふる里学舎浦安デイセンター」に生活介護で通所している。

6. 施設内の環境について（6件）

- ・短期入所使ったけど、車の音で眠れなかった。
- ・災害時などに避難所が開設されるようだが、備蓄や食事・人員について計画があるのか知りたい。発電は出来るようですが・・・。
- ・トイレの入り口の男女のしるしの色（ピンク、水色）が薄くてわからない(見えない)。

7. 行事・イベントについて（5件）

- ・視覚障害者のパソコン教室に参加させてもらったが、もう少し個人の必要に応じた指導をお願いしたい。
- ・スポーツ（ボッチャ）・カラオケができるようにしてほしい。
- ・福祉団体の行事を社協の会議室で利用していた同様の事が出来ないと聞いています（クリスマス会でのダンスやコンサート等の外へ音もれするもの）。そうすると有料の他の施設を使用するにあたり、とても行事を行う事は難しい。

8. 手続きについて（4件）

- ・書類手続きをもっとシンプルに。パティオ内で書類対応が即できるようにしてほしい。あちらに行ってその場で対応できる人員の配置をお願いします。施設が新しく美しいのは良い。
- ・利用の時、キャンセル時に、わざわざ行って書類を書かなくてはいけないのが大変だった。オンラインなどでもできるようにしてほしい。

9. 特にない・わからない（5件）

- ・昔のため、今はない
- ・わからない

10. その他（1件）

- ・弟が別の施設に通っている

11. 希望・要望

問 27 ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことがありましたら、ご自由にお書きください。

ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことについては、348 名の方から回答がありました。内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、お一人の回答者が複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は 370 件となり、回答者数より多くなっています。

項目	件数
1. 困り事・不安	65
2. 制度・サービス等について	56
3. 福祉施設について	42
4. 環境について	38
5. ご要望	31
6. 手続きについて	26
7. 感謝・奨励	22
8. 公共交通機関について	19
9. 学校教育について	19
10. アンケートについて	15
11. 医療機関について	13
12. その他	24
合 計	370

頂いたご意見を項目ごとに整理して、以下に示します。

1. 困り事・不安 (65 件)

- ・今は一人でできるが、年経って一人で出来るか心配である。
- ・浦安市に特別支援学校がなく、毎朝早く他市の学校に通っています。高校卒業後の施設や大学も少ない？ない？と思うと将来が不安です。親も年齢を重ね、収入が少なくなった時、どうしたらよいか身体が大きくなった時の介護をどうするか（住まい含め）不安があります。
- ・高齢夫婦なので、夜中に緊急の事が起きた時心配です。
- ・身体のGH、入所施設を考えて欲しい。親が高齢になり十分な介護が出来なくなり、福祉サービスも希望通りに利用は出来ない。親亡き後が不安しかない。市内にあると入所に抵抗がなくなるが、遠方だとなかなか決心がつかない。
- ・アルバイトを探しているが、年齢の上限や仕事内容が体力を要するものに限られていることが多く、仕事が見つからない。70歳までは何とか働きたいと思っているのだが・・・。

2. 制度・サービス等について (56 件)

- ・障害者手帳のカード化を希望します。紙製で色々サービスを受ける際に提示しますが、すぐにボロボロになります。(モバイルでもうれしいです)
- ・医療的ケア児を受け入れてくれる支援事業所がとても少ない事、市内に特別支援学校がないために、一貫した長い目で見たケアが(情報の得方も含め)不足していること、高齢者に対する福祉は手厚く見えますが、障がい児者に対してはまだまだ改善して頂きたいことがあります。また、東京芸術大学とアートプロジェクトを今後なさるなら、市内につながりを持ってない子どもたちも参加させてほしいです。
- ・福祉サービスについて、情報が知りたい。新しくスタートしたサービスなど、最新情報が一覧でわかるといいと思いました。
- ・公共バスは年額であるのに、おさんぼバスは障害者への対応がない。おさんぼバスは市営であり、当然無料にするべきである。ましてや東野パティオは遠方であり、市が利用を促進するのであれば、おさんぼバスは当然無料にすべきである。また 70 歳以上の¥7,000 バス利用者は、障害者は対応が無いが年金で制度があるのだから当然障害者にも給付すべきである。交通費¥3,000 (スイカ) の手続きは簡略すべきである。
- ・様々な福祉サービスが設定されておりますが、少数派であろう本人の特性と症状では、日中一時支援や生活介護を利用するのは不可能です。そのため福祉的就労で何とか環境の配慮の中で通所する際、ヘルパー(移動支援など)や親の付添の元継続を目指してきましたが、家族との兼ね合いから居宅サービスで家に入ってもらえる事が不都合となり、本人の帰宅時に必ず親が在宅しておかなければなりません。日中一時ですと車での送迎や親の帰宅まで過ごせる場所となりますが、本人は少人数でもにぎやかな空間は不安定となり日中一時の利用が不可能です。個別の空間で過ごせるシステム・福祉的サービスができることを願っています。

3. 福祉施設について (42 件)

- ・東野パティオの様な施設があるのに、知らない人が多い。もっと広報などで具体的に内部を知らせてほしい。利用する人が多くいると思います。
- ・困った時の相談先や、福祉施設でどんな利用ができるのか分からない。学ぶ方法を検討して欲しい。
- ・もっと学校と連携を取って、利用場所との移動がスムーズになる方法を考えてほしいです。移動支援をお願いしたくても希望の時間帯に人がいなかったり、車を道に止められないので学童へのお迎えが無理と断られたりするので、なんとかしてほしいです。市役所の人員を増やして福祉活動にも力を入れてほしい。
- ・もう少し、高学歴の障害者に高度で専門的な〈IT、マーケティング等〉そういう人たちに特化したビジネス的〈ホワイトカラー〉の訓練施設の充実を図ってほしい。市川市に成人の発達や精神を回すこと極力に避け、市内にこういった施設を作り、選択ができるようにしてほしい
- ・もっと障害のある人たちが気軽に話したりする施設などがあったり、悩み事や相談に乗ってくれる人たちがいたら利用したい。

4. 環境について (38 件)

- ・車いすで外出すると歩道がデコボコだったり段差が多く介助者はとても大変です。そういう状況を理解して頂きたいです。
- ・家具など大型ゴミの処分がもっと簡単にできるといいと思います。今後ともよろしくお願い致します。
- ・節電の意味も分かるのですが、道が暗いと感じる場所がたくさんある。もう少し外灯を増やしてほしい。
- ・公園が市内にたくさんあるが、整備できていないケース多し←数が多いだけ・街を歩いても休憩するベンチがほとんどない。

5. ご要望 (31 件)

- ・現在生活保護を受けていますが、社会復帰をしたいです。
- ・成人男性の参加できる楽しいイベントがあればありがたい。
- ・将来安価な施設に入所したい。
- ・気軽に参加できる講座のようなものがあればうれしい。

6. 手続きについて (26 件)

- ・手続きのデジタル化。申請用紙提出ではなく、スマホ or PC カメラ or スキャンなどを用いて申請できるようにしてほしい。障がい者相談センターの出張所の設置又はオンライン化。
- ・申請から認定までの期間が長い (60 日以上)。
- ・調査票などを記入するにあたり、もっと見やすくわかりやすい書類を作してほしい。字が小さく見えないのでついつい後回しになってしまうから。
- ・市営住宅や県営住宅の申し込みの記入の仕方がわからずいつも提出を断念している。わかりやすい記入の仕方を教えてほしい。

7. 感謝・奨励 (22 件)

- ・いつもお世話になっております。浦安市には十分な支援を受けています。
- ・浦安市のサービスは大変良いと思います。そのために、私も浦安市に住み続けています。浦安市に限らず、病気や障害がある人は、人知れず悩んでいる方が多いと思います。浦安市も国や千葉県と協力し病気や障害がある人々に普通に接する社会を作ってほしいと考えています。

8. 公共交通機関について (19 件)

- ・直通で浦安駅行のバスがあるといい、今は、途中乗り変えするしかない。本数が少なくちょうど乗りたい時間がない。
- ・タクシーの割引券をもっと「かんたん」にして欲しい。(その場で割り引いてほしい)
- ・おさんぽバス利用時、優先席に健常者が座っていて、譲ってくれないことが多い。運転手さんから声がけしていただけたらと思います。

9. 学校教育について (19 件)

- ・特別支援学校の高等部が市内にできたらうれしいです。
- ・小学校を不登校になった時に行く場所を作ってほしい。
- ・特別支援学級に通っていますが、通常級の子どもの関りが少ない為か、通常級の子ども達から差別的な目で見られることがあり悲しい。世の中に色々な人がいて、色々な立場の人達で成り立っていることの教育をもっと積極的に取り入れてほしいと思います。

10. アンケートについて (15 件)

- ・今回のアンケート、令和6年～8年とのことですが、その後も続くようなものであってもらいたいと思います。
- ・このアンケートを含め、すべて紙ベースで書類作業するのが大変です。「紙またはオンライン」のように選べると、様々な障害の方でも対応しやすく思っています。
- ・アンケートをしてくださりありがとうございます。ただ、アンケートが多い、長い。かなり負担でした。できれば、何回かに分けていただきたかった。

11. 医療機関について (13 件)

- ・障害者の体を総合的にみてる病院があるといい。例えば皮膚科、耳鼻科、外科等親身になって相談に乗ってくれる病院がない。知的障害者とか、あまりよく思ってくれてない気がする。何かあったらここへ行けば大丈夫。みたいな病院があればうれしい。
- ・365日24時間、必ず受け入れてくれる病院を作って欲しい。過去に救急車を利用した際にことごとく断られ遠方に運ばれ、その後の通院が大変になっている。宜しくご検討の程お願い致します。
- ・災害時の透析をできる体制を整備し、公表してほしいです。よろしくお願ひします。

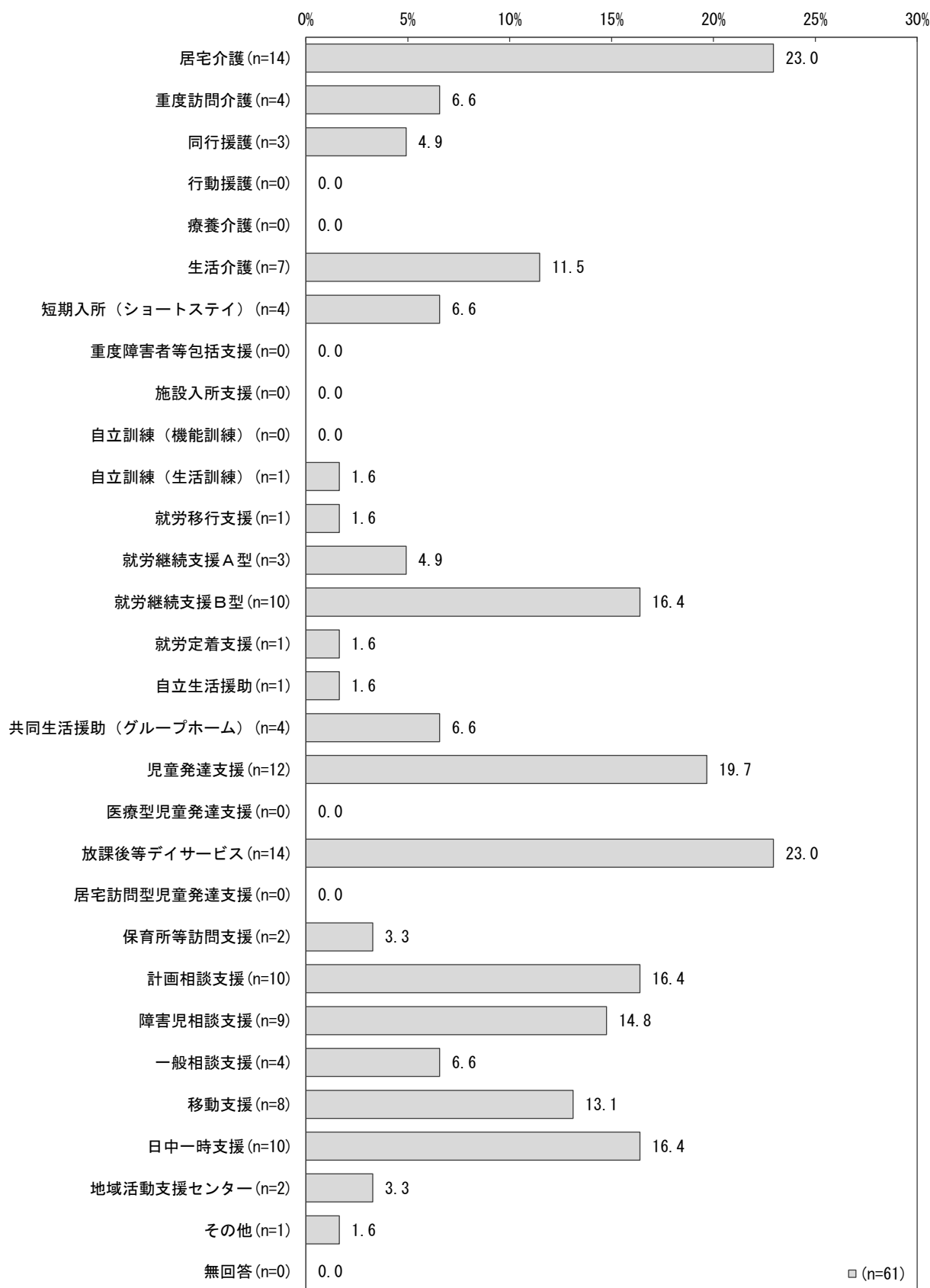
12. その他 (24 件)

- ・よくわからない。
- ・特にありません。

第4章 障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査

障がい福祉サービス等一覧

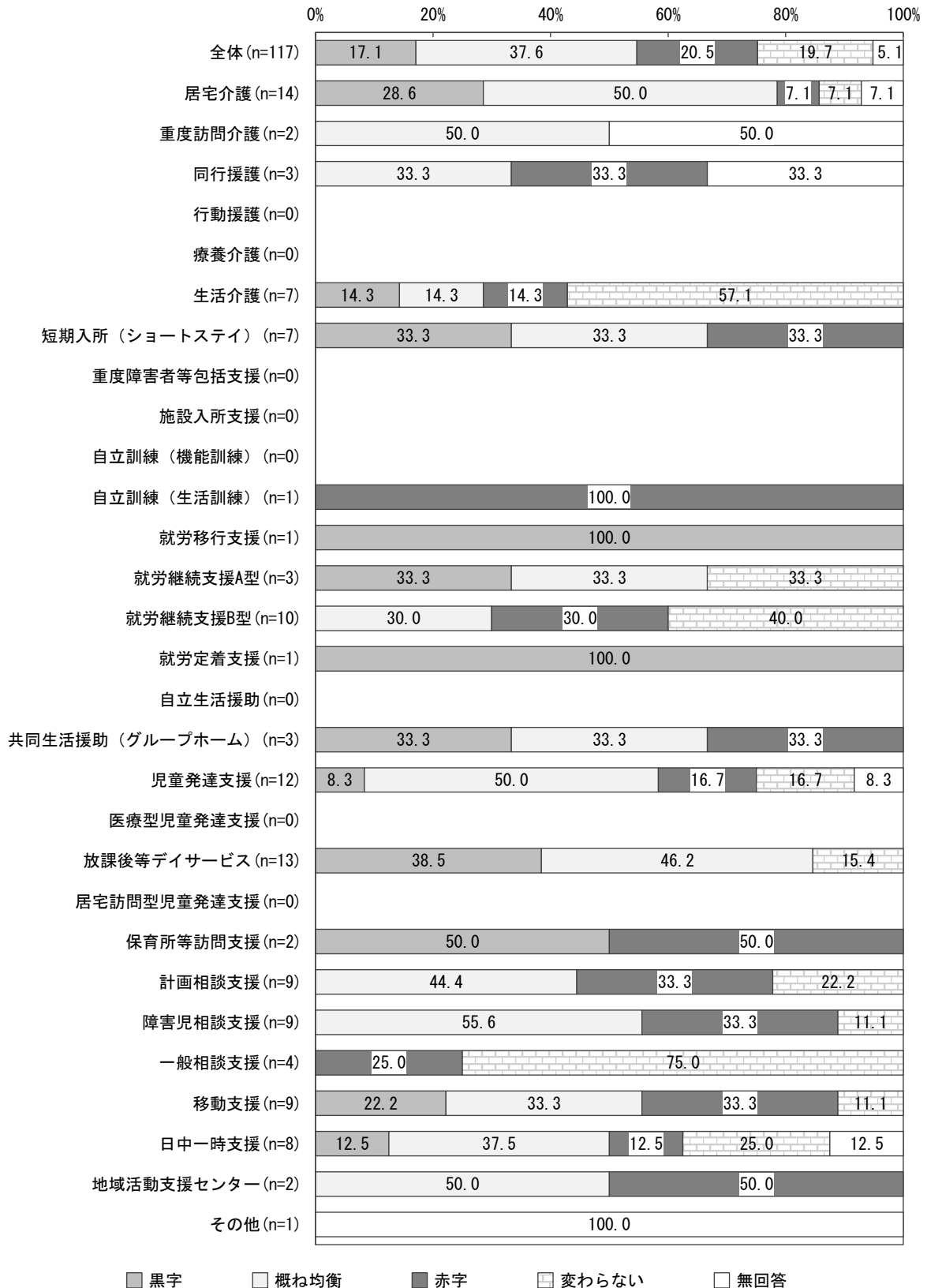
浦安市内の障がい福祉サービス事業者で実施している障がい福祉サービスは、「居宅介護」及び「放課後等デイサービス」がともに 23.0%と最も多く、次いで、「児童発達支援」が 19.7%となっています。



1. 事業所の経営状況について

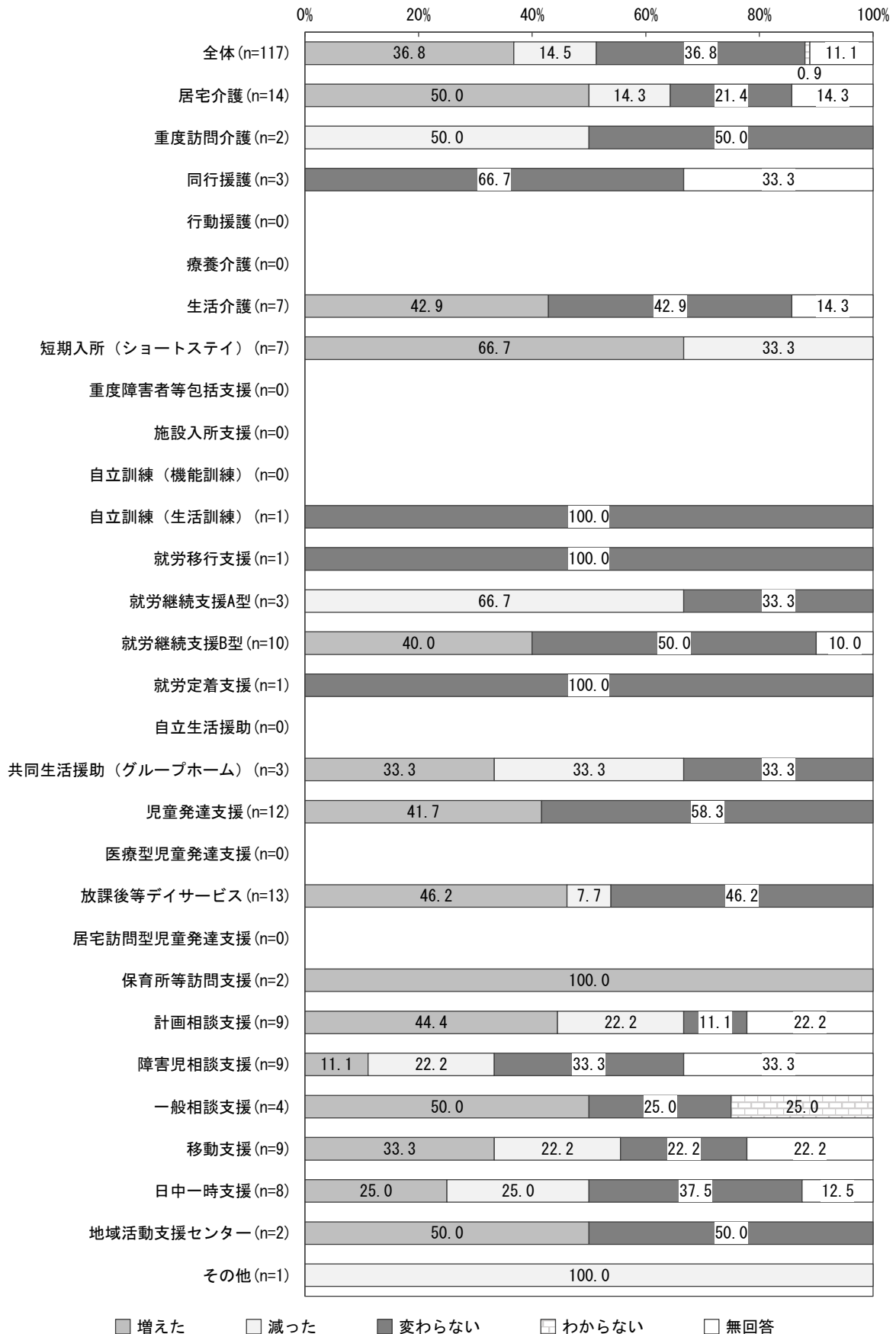
問1 B. 収支状況

浦安市内の障がい福祉サービス事業者の収支状況は、全体では「黒字」が17.1%、「概ね均衡」が37.6%、「赤字」が20.5%、「変わらない」が19.7%となっています。



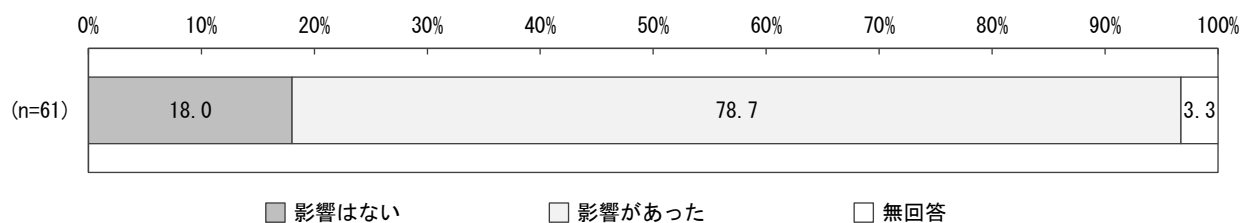
問1 C. 利用者の増減

浦安市内の障がい福祉サービス事業者の利用者の増減状況は、全体では「増えた」が36.8%、「減った」が14.5%、「変わらない」が36.8%となっています。



**問1① 新型コロナウイルス感染症により、事業活動に影響がありましたか。
あれば、その内容を教えてください。(1つに○)**

浦安市内の障がい福祉サービス事業者では、新型コロナウイルス感染症により事業活動に「影響はない」が18.0%、「影響があった」が78.7%となっています。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響 (27 事業所・27 件)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響としては、「クラスターの発生」及び「キャンセルの増加」など、事業所経営に直接関わる影響が多く挙げられました。

既存ご利用者様の見合わせがあった。
クラスターが発生。
利用者数の減少。
感染やワクチンによる体調不良での休み。
対面相談が減り、電話が増えた。
キャンセルが多く出た。
消毒作業が増加した。
欠席が多く出た。
食品売上減少。
欠席が増えた。
家庭訪問を拒む、200mを希望される世帯があった。
職員が働けなくなった。
出勤率の低下につながった。
客足が減った。店を閉めた。
販路が減った。
キャンセル多数、必要経費増。
感染流行時は利用率が下がり、キャンセル率が極端に上がりました。その他様々な面で副次的な影響を受けました。
クラスターが発生。閉所 (1 週間)。
コロナ感染や濃厚接触者により人員不足。
支援が減った、従業員が休み人手不足。
行事、親の交流機会など。
予約していた利用者が欠席することが増えた。
利用者その家族が濃厚接触者に特定され、一定期間利用がキャンセルになる等。
職員が2名コロナに感染した。
人材不足。
利用者の感染によりキャンセルが増えた。
レストラン売上減少により工賃にあてる金額が不足。

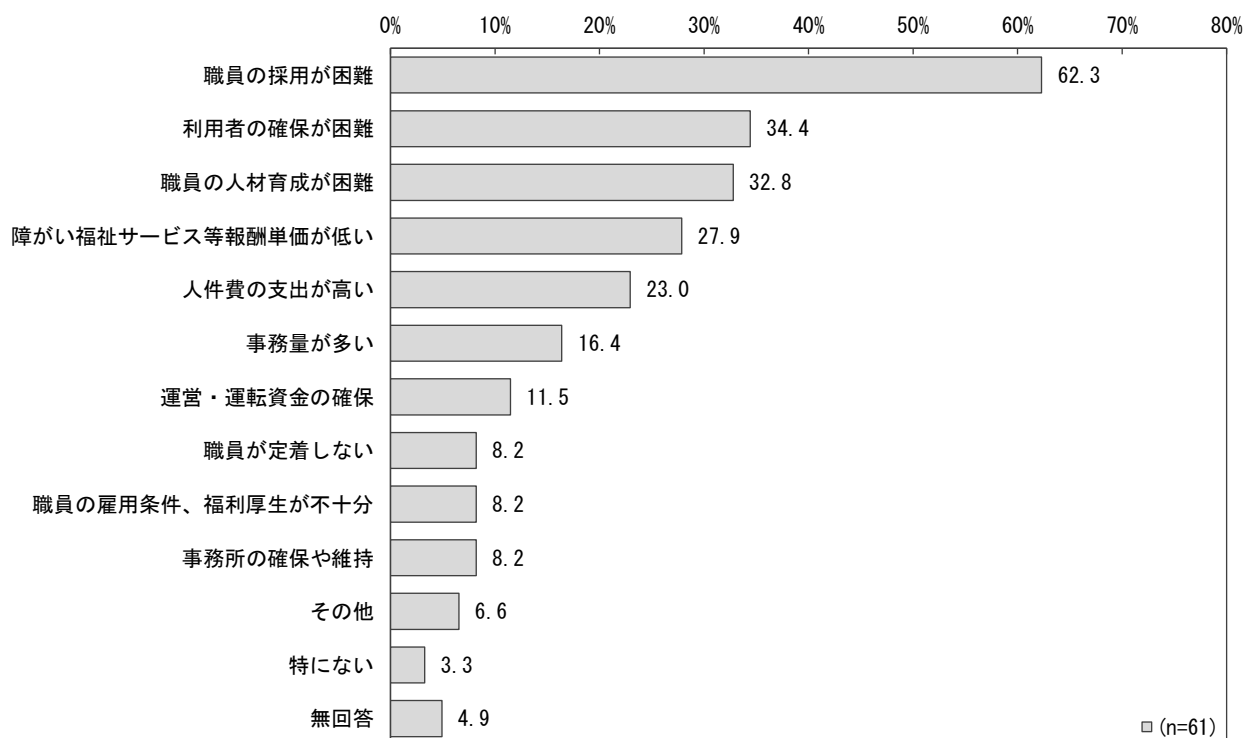
新型コロナウイルス感染症拡大の対応策（17 事業所・17 件）

新型コロナウイルス感染症拡大の対応策については、「外出やイベントの自粛」及び「マスクや消毒液の導入」などが多く挙げられました。

感染拡大の予防の為利用時間の変更を行った。
モニタリングに要する時間の短縮。
職員の代替確保、感染予防品購入、消毒薬購入。
プログラム内容によっては中止せざるを得ないものがあった。
感染対応に必要な備品に経費がかかる。
入院中、入所の利用者さんの支援がリモートに切り替わった。コロナ陽性となった方への支援の再組立て事業所がケア NG の際のバックアップ支援。
プログラム内容の制限等。
外との接触を控え、外出や行事の自粛。
濃厚接触者の判断。利用者のコロナ罹患による個別対応、体制の変更、新規受け入れストップ。
イベントの制限や縮小、感染対策のための業務量増加。感染や濃厚接触者になることにより、職員体制の維持。
調理、お菓子作りを休み中。
支援内容の変化（マスクを着用して行っている）。
感染症に対する対応や人員欠など。
日中利用事業所の開所・閉所。
閉所、食事の停止（おやつなど）。
感染防止に必要な物品費用の支出。活動する部屋を増やしたり、消毒するための職員配置が必要。
利用者陽性により活動を控えたり、外出をとりやめた。

問 1 ② 事業所運営を進めていく上での課題（3 つまでに○）

事業所運営を進めていく上での課題については、「職員の採用が困難」が62.3%と最も多く、次いで、「利用者の確保が困難」が34.4%、「職員の人材育成が困難」が32.8%となっています。



2. 事業所の職員について

問2① 採用者・離職者数 事業所の職員について、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの過去1年間の採用者数と離職者数（事務員等の職員は除く）

職員の平均採用者数は、正規で2.5人、非正規で2.4人となっています。

また、職員の平均離職者数は正規、非正規ともに1.8人となっており、勤務年数ごとに見ると、正規では1年未満が1.4人、3年未満が1.7人、非正規では1年未満が1.1人、3年未満が1.2人となっています。

〔採用者数〕

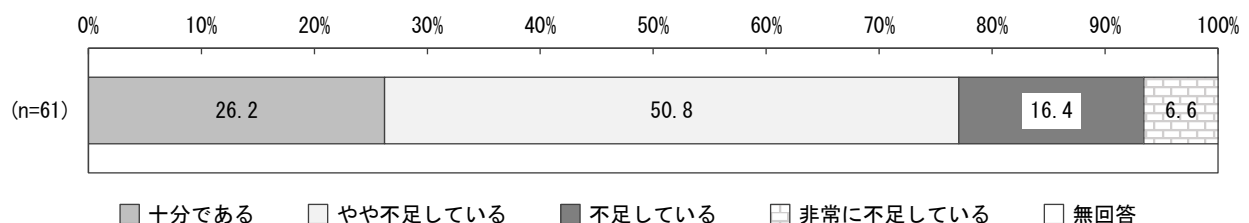
	n	平均値（人）	最小値（人）	最大値（人）
正規	32	2.5	0	8
非正規	34	2.4	0	7

〔離職者数〕

	n	平均値（人）	最小値（人）	最大値（人）
正規	24	1.8	0	7
1年未満	9	1.4	0	4
3年未満	13	1.7	0	5
非正規	24	1.8	0	6
1年未満	15	1.1	0	2
3年未満	13	1.2	0	2

問2② 職員の充足状況について（1つに○）

職員の充足状況については、「十分である」が26.2%、「やや不足している」が50.8%、「不足している」が16.4%となっています。



問2③ ②で2～4を選択した場合、不足している理由（1つに〇）

職員が不足している理由については、「募集しても応募がない」が51.1%と最も多く、次いで、「応募者がいても、採用基準に達していない」が20.0%となっています。

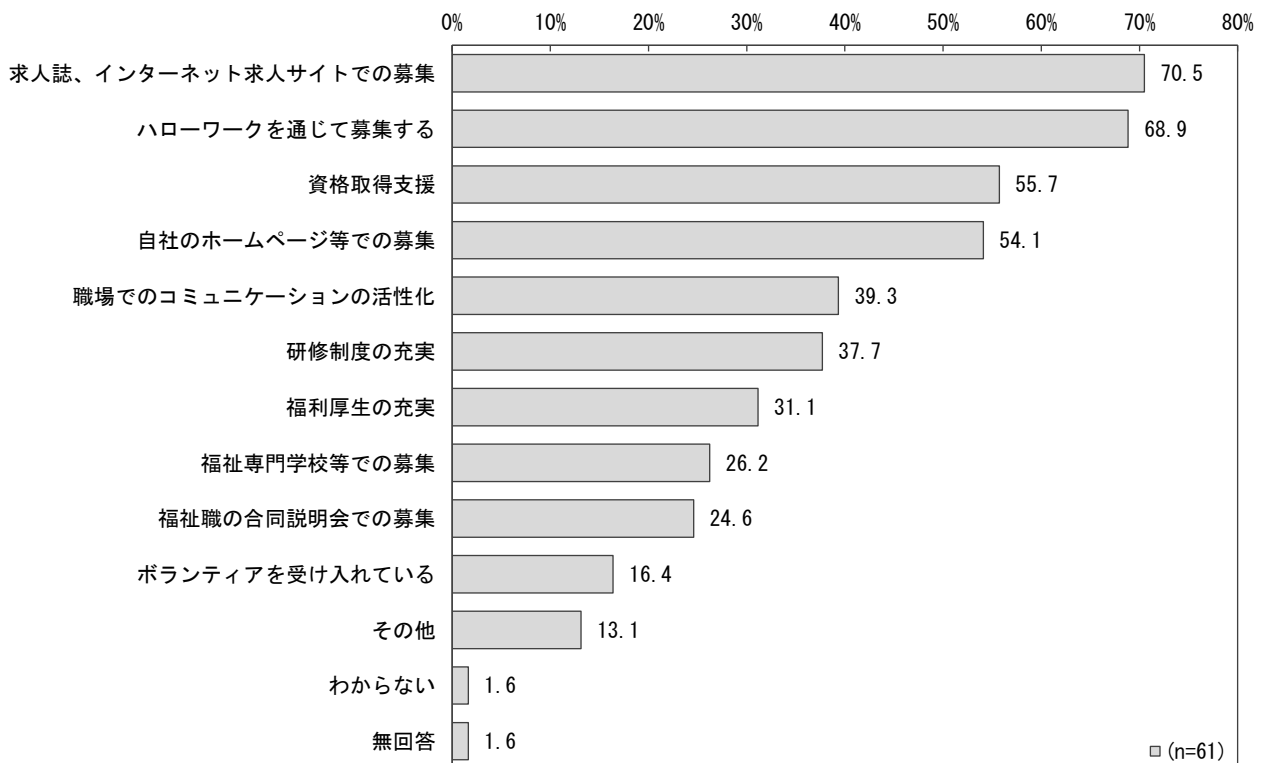
また、「その他」では「募集の中止を検討しているため」及び「経営状況により」などの理由が挙げられています。



■ 離職率が高い（定着率が低い） □ 応募者がいても、採用基準に達していない ■ 募集しても応募がない □ その他 □ 無回答

問2④ 人材確保・人材定着のために取り組んでいること（あてはまるものすべてに〇）

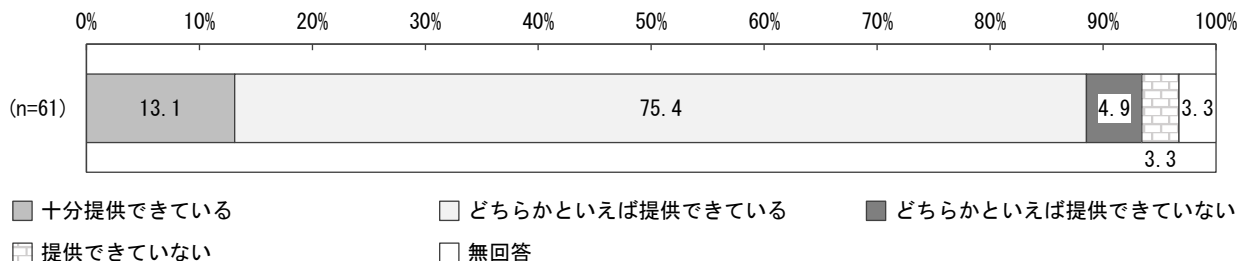
人材確保・人材定着のために取り組んでいることについては、「求人誌、インターネット求人サイトでの募集」が70.5%と最も多く、次いで、「ハローワークを通じて募集する」が68.9%、「資格取得支援」が55.7%となっています。



3. 現在、提供している障がい福祉サービス等について

問3① 利用者の希望するサービス提供（1つに〇）

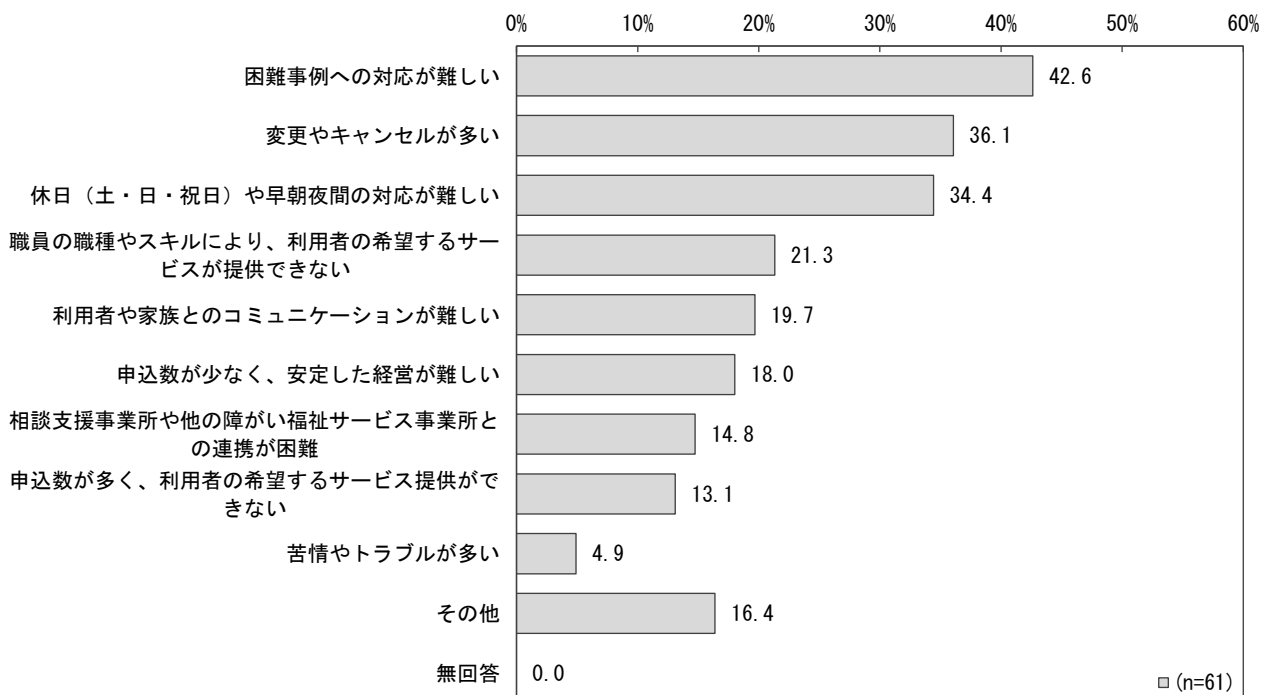
利用者の希望するサービス提供については、「十分提供できている」が13.1%、「どちらかといえば提供できている」が75.4%、「どちらかといえば提供できていない」が4.9%、「提供できていない」が3.3%となっています。



問3② 利用者にサービス提供する上での課題について（あてはまるものすべてに〇）

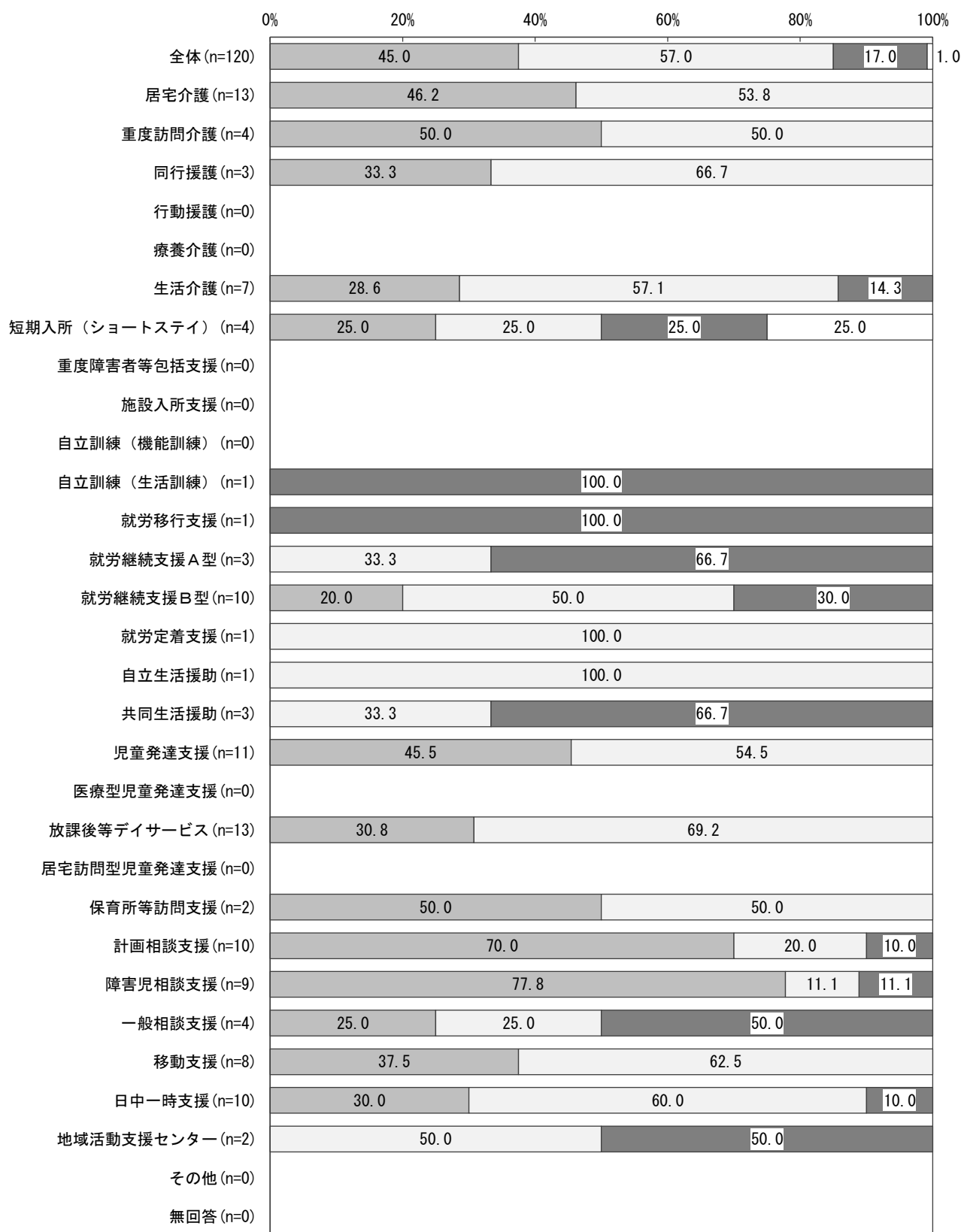
利用者にサービス提供する上での課題については、「困難事例への対応が難しい」が42.6%となっており、次いで、「変更やキャンセルが多い」が36.1%、「休日（土・日・祝日）や早朝夜間の対応が難しい」が34.4%となっています。

また、「その他」では「社会資源、特にヘルパー不足により十分な支援が行き届かない」及び「新規利用希望の問い合わせが少ない。新規で立ち上げた際、周知する機会が少ない」などの回答が挙げられています。



問3③ 新規の受入状況（1つに〇）

浦安市内の障がい福祉サービス事業者での新規の受入状況は、全体では「余裕がなく、定期利用者以外の受入れが困難」が45.0%、「余裕はややある」が57.0%、「余裕は十分ある」が17.0%となっています。

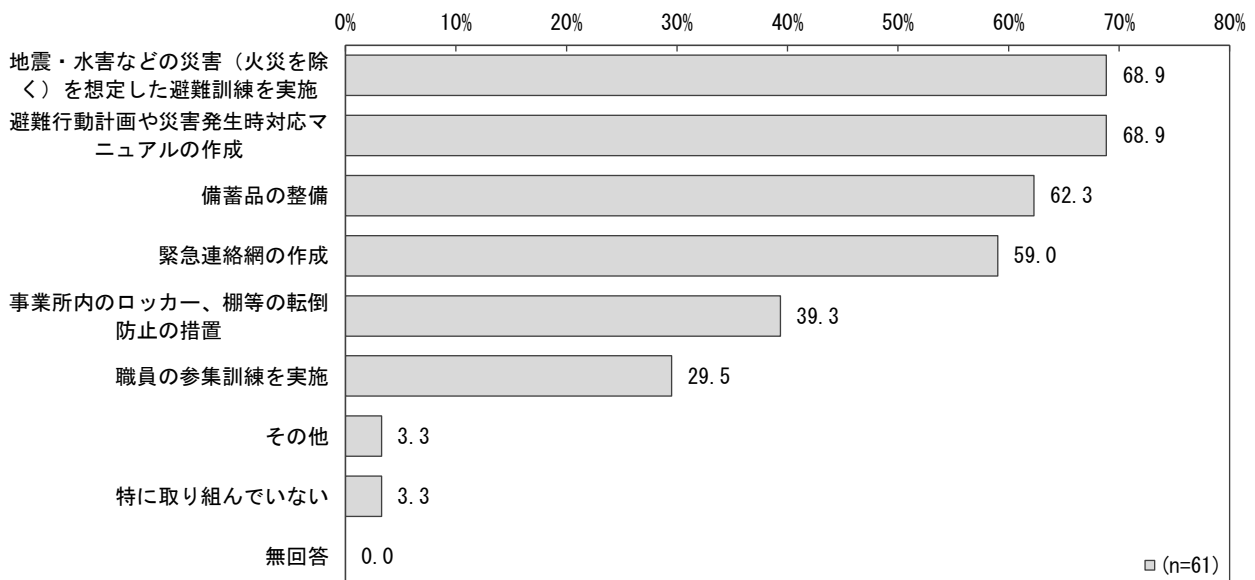


■ 余裕がなく、定期利用者以外の受入れが困難 □ 余裕はややある ■ 余裕は十分ある □ 無回答

4. 災害時の備えについて

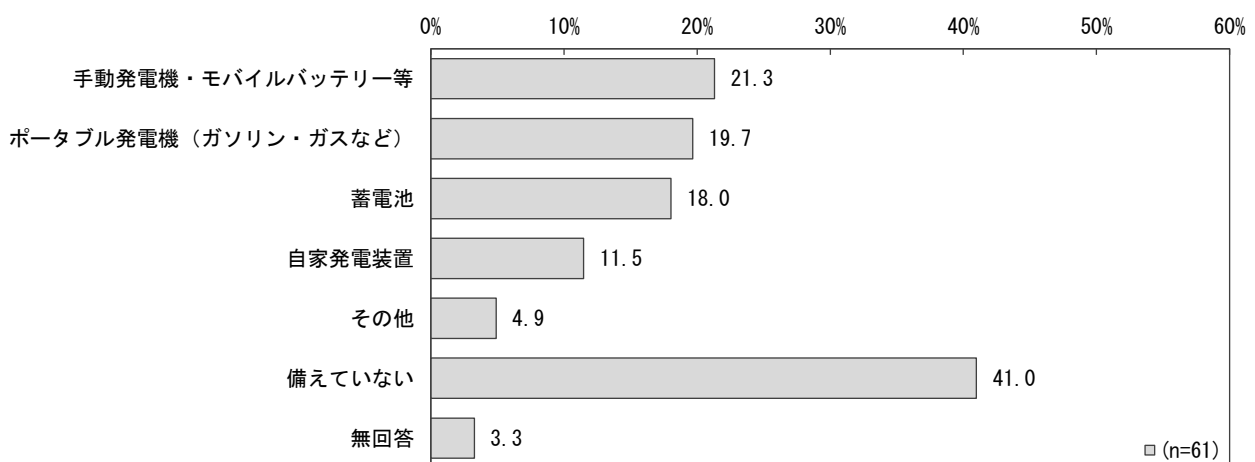
問4① 災害時の準備体制について、実施しているものについて（あてはまるものすべてに○）

災害時の準備体制について、実施しているものは、「地震・水害などの災害（火災を除く）を想定した避難訓練を実施」及び「避難行動計画や災害発生時対応マニュアルの作成」がともに68.9%と最も多く、次いで、「備蓄品の整備」が62.3%となっています。



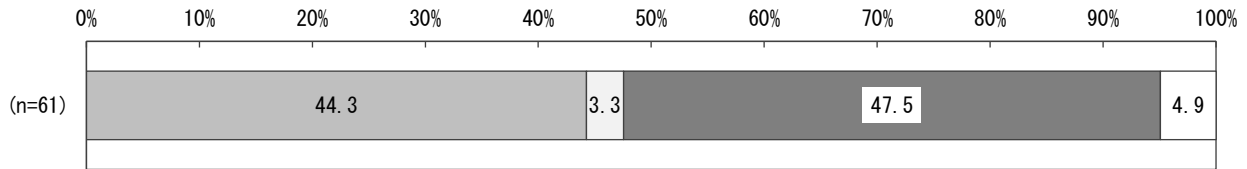
問4② 停電時に備え、発電機等の備蓄について（あてはまるものすべてに○）

停電時に備え、発電機等の備蓄については、「備えていない」が41.0%と最も多く、次いで、「手動発電機・モバイルバッテリー等」が21.3%、「ポータブル発電機（ガソリン・ガスなど）」が19.7%となっています。



問4③ 本市と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結していますか。(1つに○)

「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」の締結については、「協定を締結している」が44.3%、「以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している」が3.3%、「協定を締結したことはない」が47.5%となっています。

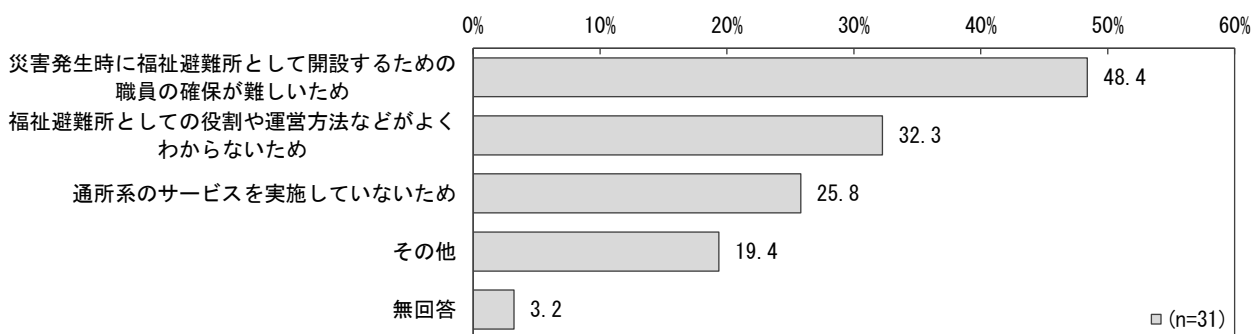


■ 協定を締結している □ 以前は協定を締結していたが、現在は協定を解約している ■ 協定を締結したことはない □ 無回答

問4④ (③で2または3と回答した方) その理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

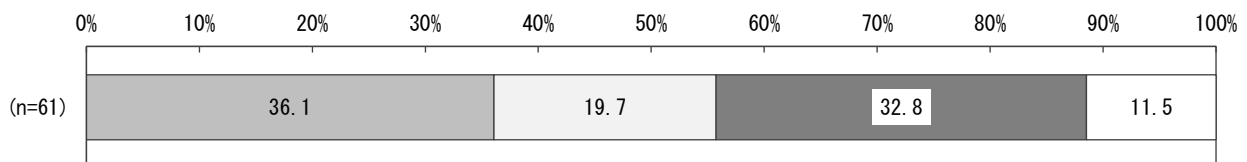
協定を解約、もしくは締結していない理由については、「災害発生時に福祉避難所として開設するための職員の確保が難しいため」が48.4%と最も多く、次いで、「福祉避難所としての役割や運営方法などがよくわからないため」が32.3%、「通所系のサービスを実施していないため」が25.8%となっています。

また、「その他」では「他の施設で協定を締結している」及び「協定を把握していなかった」という回答が挙げられています。



問4⑤ 今後の締結の意向について、お答えください。(1つに○)

今後の締結の意向については、「引き続き協定の締結を継続する」が36.1%、「事業所の体制が整い次第、協定を締結したい」が19.7%、「協定の締結は考えていない」が32.8%となっています。

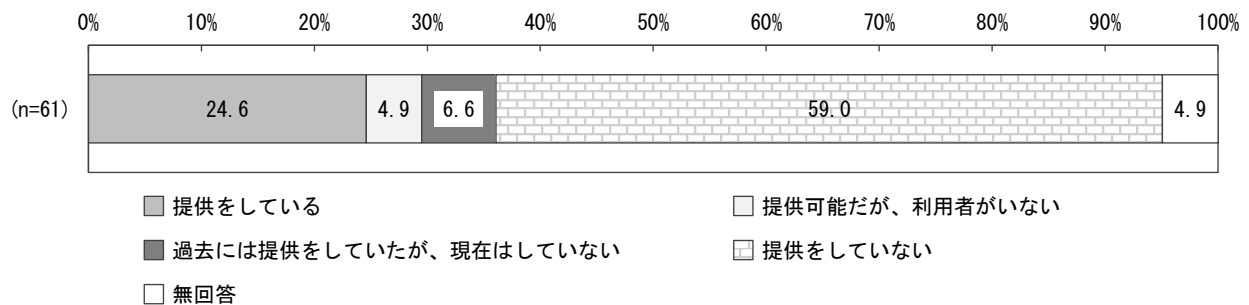


■ 引き続き協定の締結を継続する □ 事業所の体制が整い次第、協定を締結したい ■ 協定の締結は考えていない □ 無回答

5. 医療的ケア等が必要な方への支援状況について

問5① サービスの提供についてご回答ください。(1つに○)

サービスの提供については、「提供をしている」が24.6%、「提供可能だが、利用者がいない」が4.9%、「過去には提供をしていたが、現在はしていない」が6.6%、「提供をしていない」が59.0%となっています。



問5② (①で1と回答した方) 実際に提供している利用者数をお答えください。

サービスの利用者の平均人数は以下の通りとなっています。

	18歳以上平均値 (人)		18歳未満平均値 (人)	
	n	平均値	n	平均値
重症心身障がい者	7	3.6	6	2.7
医療的ケアが必要な方	6	2.3	6	3.8
行動障がいのある方	8	12.0	4	10.8
行動援護	2	3.0	2	0.0
同行援護	5	0.8	2	0.0

問5③ (①で1と回答した方) 提供している職員の人数をお答えください。

サービスを提供している職員の平均人数は以下の通りとなっています。

	n	平均値 (人)
看護師	8	1.3
介護職員	4	1.5
行動援護従事者	4	0.5
同行援護従事者	6	1.2
その他職員	10	4.8

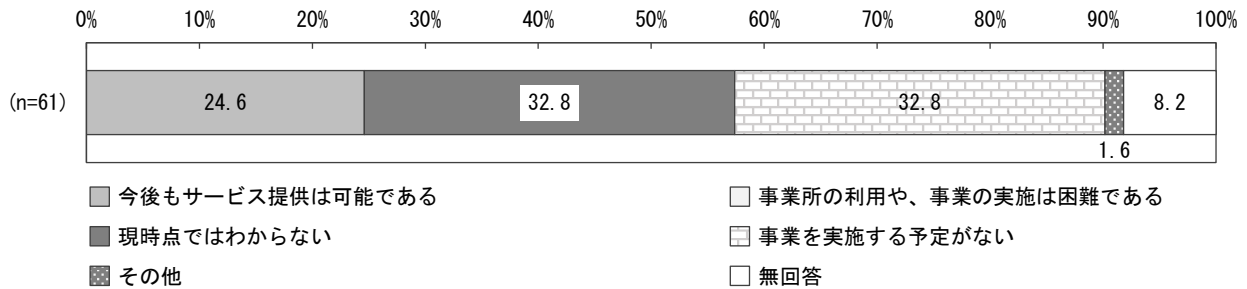
問5④ (①で3と回答した方) その理由についてお答えください。

過去にサービスを提供していたが、現在は行っていない理由についての意見は以下の通りです。

- ・会社の方針により事業を閉鎖したため（詳細は不明）。
- ・就労施設の人員配置では支援が困難であった。
- ・職員を確保しておくに足る利用者数に達しなかったため。職員数も少なく対応が困難なため。

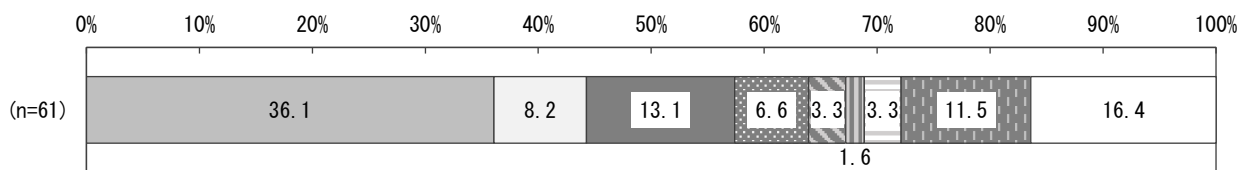
問5⑤ 今後の、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行援護・行動援護のサービス提供の意向についてお答えください。(1つに○)

同行援護・行動援護のサービス提供の意向については、「今後もサービス提供は可能である」が24.6%、「現時点ではわからない」が32.8%、「事業を実施する予定がない」が32.8%となっています。



問5⑥ 今後、重症心身障がい者・医療的ケアが必要な方・行動障がいのある方へ、同行援護・行動援護のサービス提供のために必要だと思われる施策は何ですか。一番必要と思うものをお答えください。(1つに○)

同行援護・行動援護のサービス提供に必要な施策については、「専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助」が36.1%と最も多く、次いで、「専門的な支援に関する職員向け研修の実施」が13.1%、「わからない」が11.5%となっています。

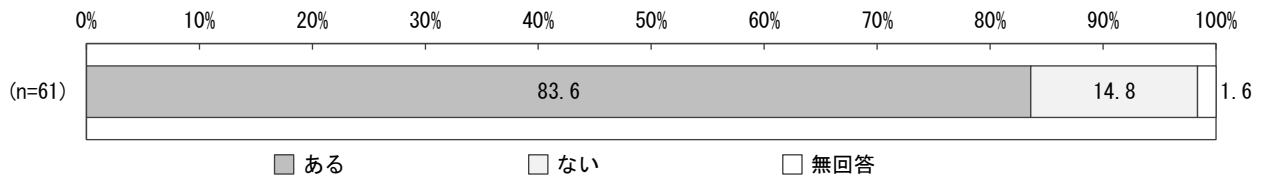


- 専門的な支援ができる職員を確保するための支援・補助
- 職員が従事するために必要な研修を受講するための補助
- 専門的な支援に関する職員向け研修の実施
- 機材・設備等の補助
- 支援（受入）した場合の給付費の加算や補助
- 他の障がい福祉サービス事務所や相談支援事業所との連携
- 病院や訪問看護ステーションとの連携
- 医療的ケア児等コーディネーター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所等が中心となった地域づくり
- その他
- 特にない
- わからない
- 無回答

6. 支援が困難だと感じるケースについて

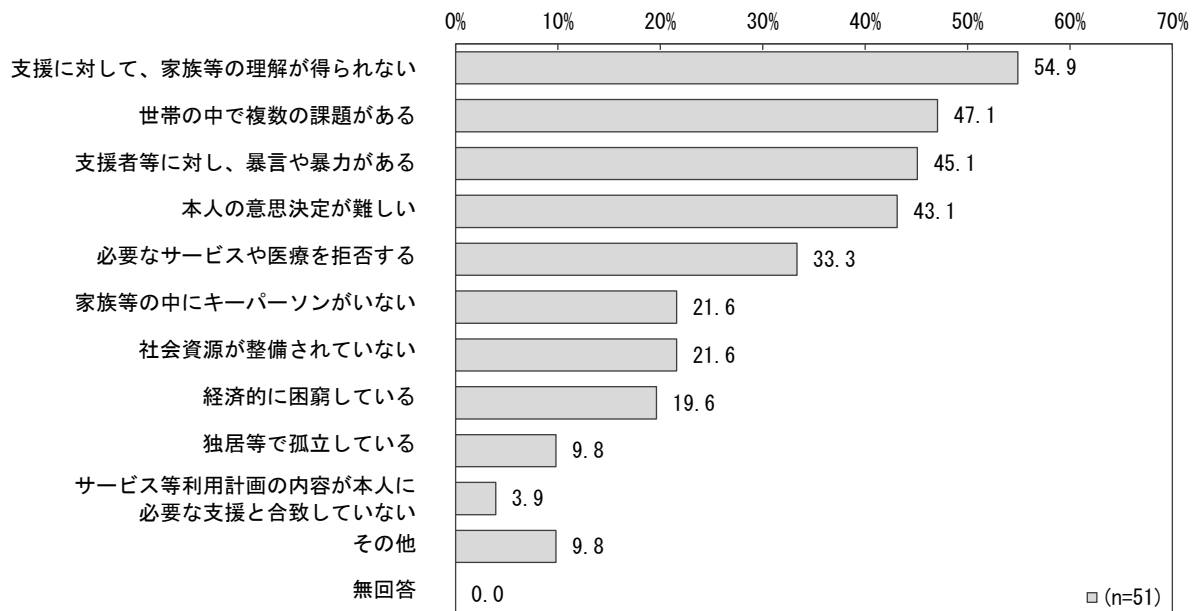
問6① 支援が困難だと感じた、または感じているケースはありますか。(1つに○)

支援が困難だと感じているケースについては、「ある」が83.6%、「ない」が14.8%となっています。



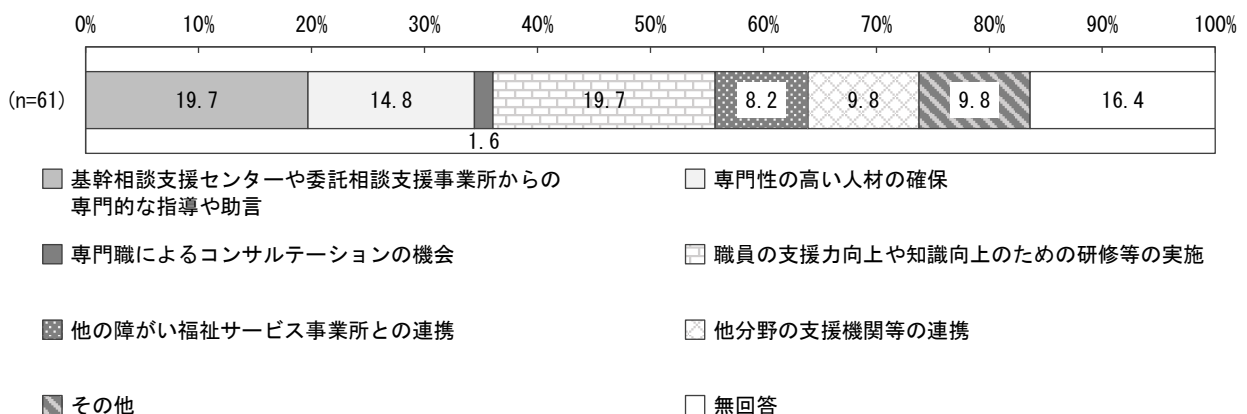
問6② (①で1と回答した方) 困難だと感じたまたは感じる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

支援が困難だと感じる理由については、「支援に対して、家族等の理解が得られない」が54.9%と最も多く、次いで、「世帯の中で複数の課題がある」が47.1%、「支援者等に対し、暴言や暴力がある」が45.1%となっています。



問6③ 支援が困難なケースに対応するために必要だと思うことは何ですか。一番必要だと思うものをお答えください。(1つに○)

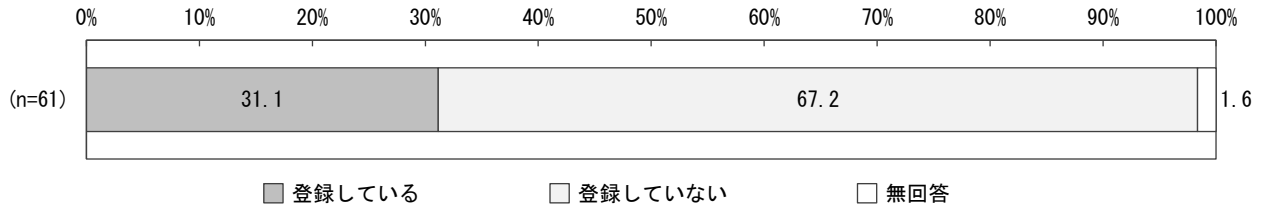
支援が困難なケースに対応するために必要なことについては、「基幹相談支援センターや委託相談支援事業所からの専門的な指導や助言」及び「職員の支援力向上や知識向上のための研修等の実施」がともに19.7%と最も多く、次いで、「専門性の高い人材の確保」が14.8%となっています。



7. 地域生活支援拠点について

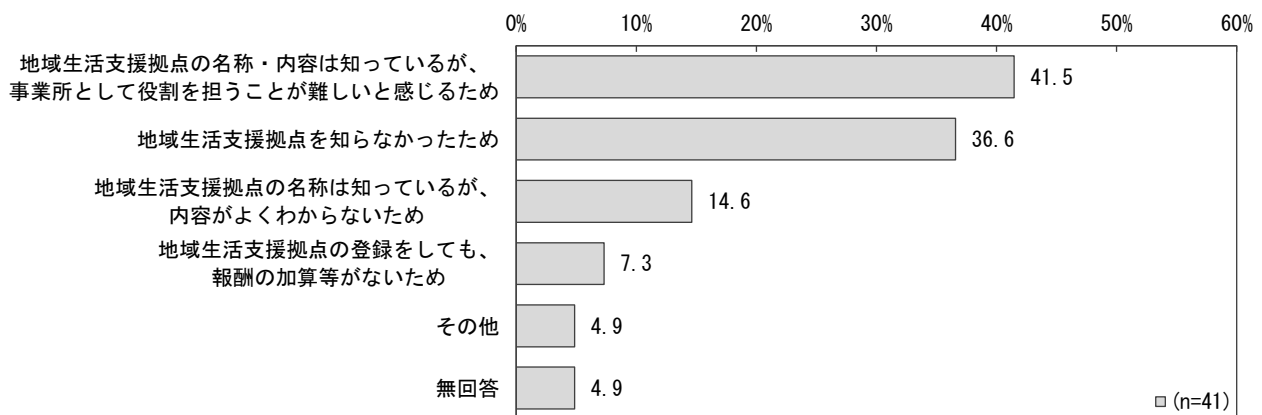
問7① 地域生活支援拠点の登録の有無について。(1つに〇)

地域生活支援拠点の登録の状況については、「登録している」が31.1%、「登録していない」が67.2%となっています。



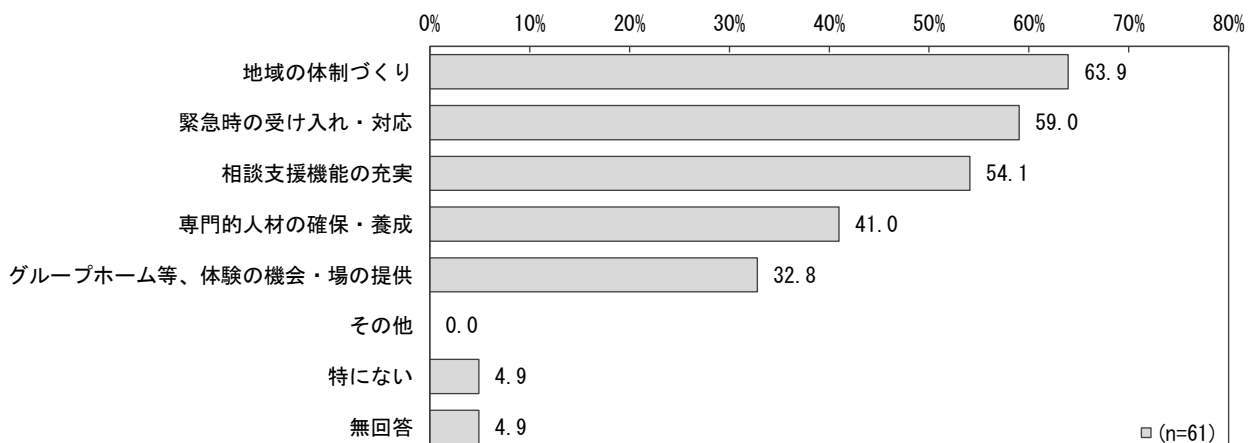
問7② (①で2と回答した方) その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに〇)

地域生活支援拠点を登録していない理由については、「地域生活支援拠点の名称・内容は知っているが、事業所として役割を担うことが難しいと感じるため」が41.5%と最も多く、次いで、「地域生活支援拠点を知らなかったため」が36.6%、「地域生活支援拠点の名称は知っているが、内容がよくわからないため」が14.6%となっています。



問7③ 地域生活支援拠点に期待する機能について、教えてください。(あてはまるものすべてに〇)

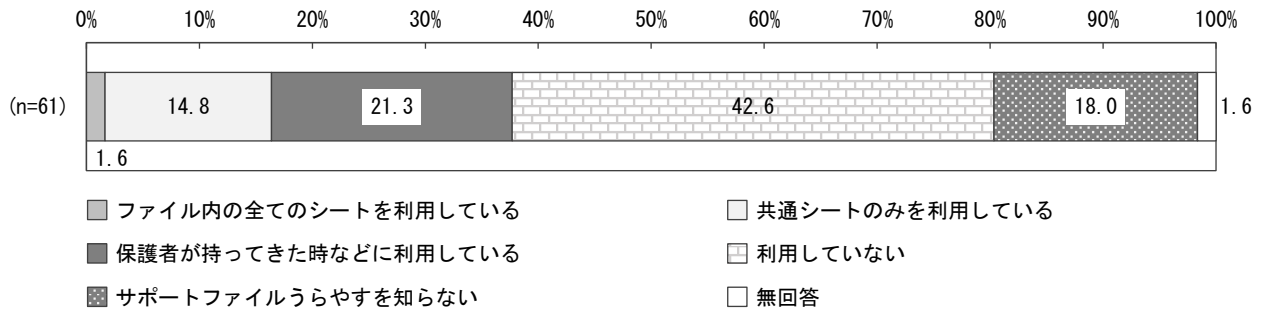
地域生活支援拠点に期待する機能については、「地域の体制づくり」が63.9%と最も多く、次いで、「緊急時の受け入れ・対応」が59.0%、「相談支援機能の充実」が54.1%となっています。



8. サポートファイルうらやすについて

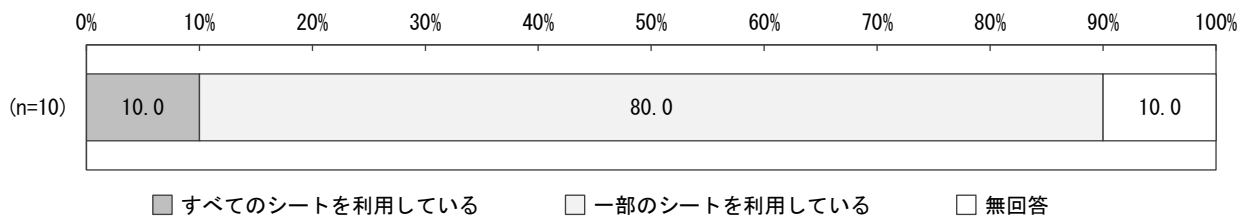
問8① サポートファイルうらやすの利用状況について。(1つに〇)

サポートファイルうらやすの利用状況については、「利用していない」が42.6%と最も多く、次いで、「保護者が持ってきた時などに利用している」が21.3%、「サポートファイルうらやすを知らない」が18.0%となっています。



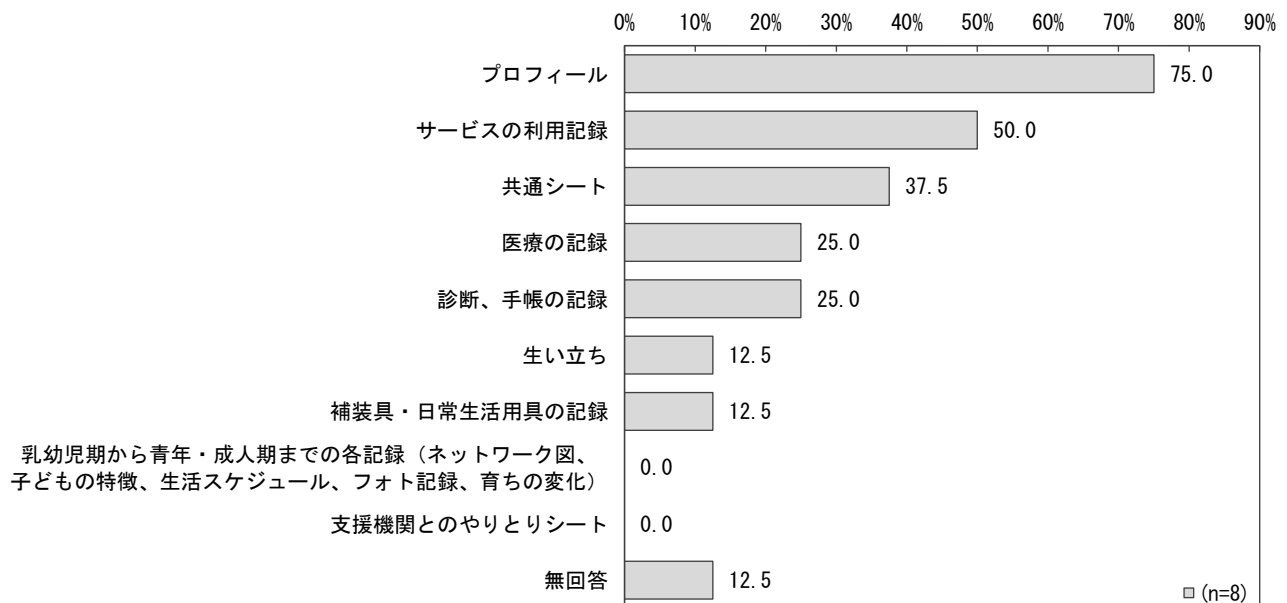
問8② (①で1か2と回答した方) どのシートを利用していますか。(1つに〇)

シートの内容については、「すべてのシートを利用している」が10.0%、「一部のシートを利用している」が80.0%となっています。



シートの利用内容

シートの利用内容については、「プロフィール」が75.0%と最も多く、次いで、「サービスの利用記録」が50.0%、「共通シート」が37.5%となっています。



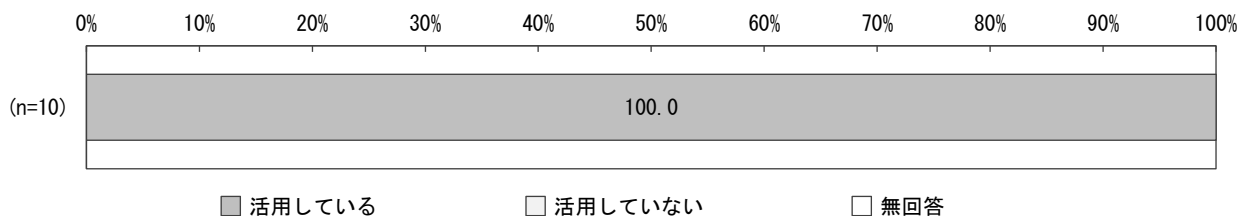
問8③ (①で1か2と回答した方) 今の内容の他に、あると良いと思う項目・情報があれば、教えてください。(記述)

今の内容の他に、あると良いと思う項目・情報についての意見は以下の通りです。

- ・今以上に必要な項目というよりも、市民に皆さんに定着していない状況がもったいないと思います。
- ・①利用のお勧めをしています。もっていない方ばかりです。
- ・②保護者がつかいやすいところから・・・と書き方のご案内をしています。書き方の例があると、口頭での説明以外にもわかりやすく、「書きたい」と思える動機付けになるとと思います。
- ・現所属の学校だけでなく「卒業校と、卒業期」・現在利用しているサービスだけでなく「過去に利用していた主なサービス」・健康状態の欄で「平熱、身長、体重」・平常時と休日等の生活スケジュール・支援区分と年金の等級（上記を共通シートの欄に追加し、使用しています。）

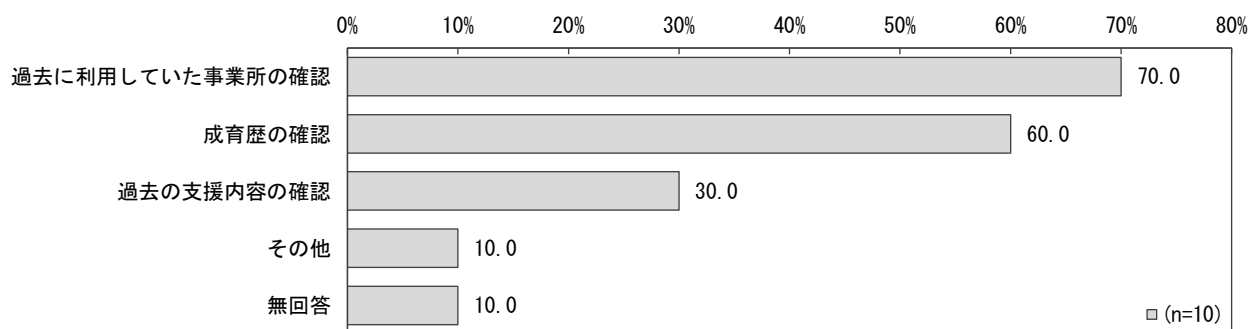
問8④ (①で1か2と回答した方) 事務所での支援に活用していますか。

事業所の支援での活動について、すべての方が「活用している」と回答しました。



問8⑤ (④で1と回答した方) どのように活用していますか。

シートの活用内容については、「過去に利用していた事業所の確認」が70.0%と最も多く、次いで、「成育歴の確認」が60.0%、「過去の支援内容の確認」が30.0%となっています。



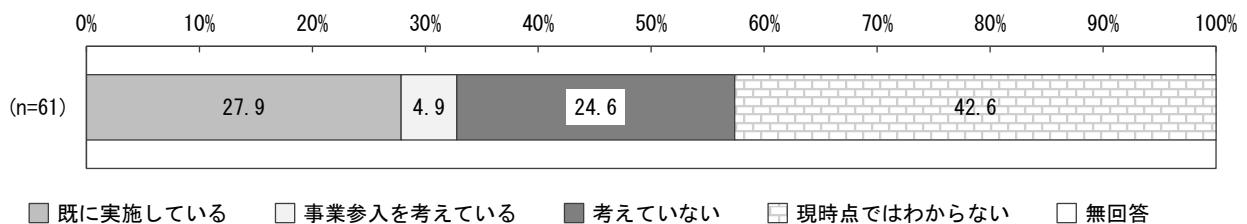
問8⑥ (④で2と回答した方) 今後活用したいと思いますか。

該当する回答者がいませんでした。

9. 今後の事業展開について

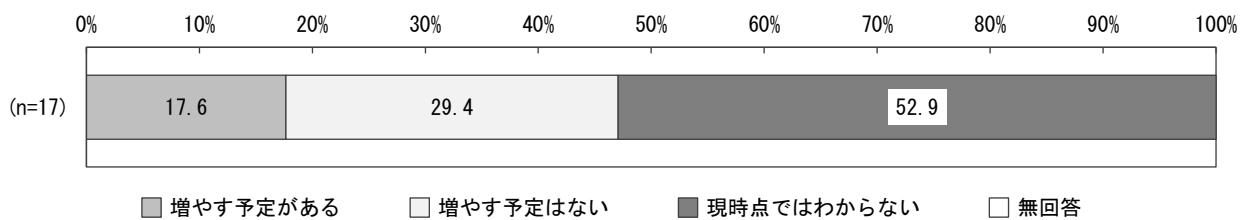
問9① 今後（3年間）、計画相談支援・障がい児相談支援の新規参入を考えていますか。（1つに〇）

今後（3年間）、計画相談支援・障がい児相談支援の新規参入については、「既の実施している」が27.9%、「事業参入を考えている」が4.9%、「考えていない」が24.6%、「現時点ではわからない」が42.6%となっています。



問9② (①で1と回答した方) 今後、相談支援専門員を増やす予定はありますか。（1つに〇）

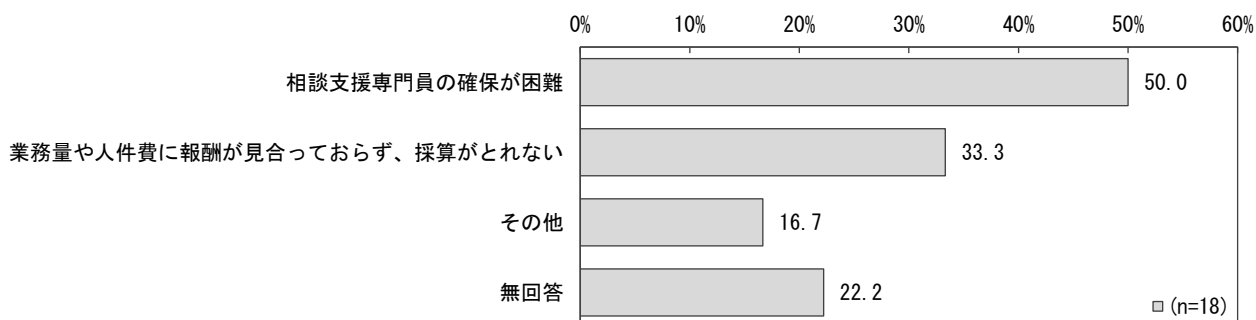
今後、相談支援専門員を増やす予定については、「増やす予定がある」が17.6%、「増やす予定はない」が29.4%、「現時点ではわからない」が52.9%となっています。



問9③ (①で2か3と回答した方) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

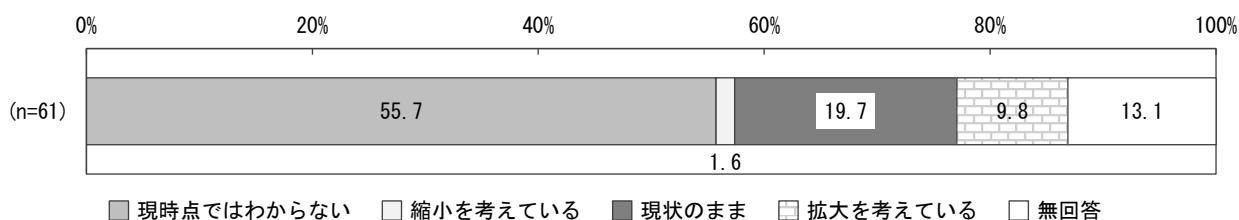
今後(3年間)で計画相談支援・障がい児相談支援の新規参入を「考えていない」もしくは「現時点ではわからない」理由については、「相談支援専門員の確保が困難」が50.0%と最も多く、次いで、「業務量や人件費に報酬が見合っておらず、採算がとれない」が33.3%となっています。

また、「その他」では「令和5年度から参入を考えている」及び「新規の為、数年でサービス種を広げていくことは考えていない」という回答が挙げられています。



問9④ 今後(3年間)の計画相談支援・障がい児相談支援以外の事業展開について、どのように考えていますか。(1つに○)

今後(3年間)の計画相談支援・障がい児相談支援以外の事業展開については、「現時点ではわからない」が55.7%、「縮小を考えている」が1.6%、「現状のまま」が19.7%、「拡大を考えている」が9.8%となっています。



10. 自由意見

問10 その他（浦安市の障がい福祉に関する施策や、障がい福祉サービスを提供するあたり、ご意見・お考え等をお書きください）

ご意見やご要望、生活の中で困っていることや悩んでいること等、市に伝えたいことについては、19事業所から回答がありました。内容ごとに分類した結果を以下に示します。

なお、1事業所で複数のご意見を述べられた場合は、それぞれで集計したため、累計回答数は29件となっています。

項目	件数
1. 浦安市の障がい福祉の現状と施策について	11
2. 今後の希望について	8
3. 施設の利用状況について	4
4. 事業所同士のつながりについて	4
5. 施設の経営状況について	1
6. その他	1
合 計	29

頂いたご意見を項目ごとに整理して、以下に示します。

1. 浦安市の障がい福祉の現状と施策について (11 件)

- ・障がいのある方の暮らしの基盤になる「住まい」について、往々にして低所得者である当事者（家族も経済的に支援できない）の方の公的扶助における住宅扶助費の運用を見直すべきだと考える。地域の実情として、新しいワンルームマンションへの建て替えが進んであり、低所得者層の賃貸物件探しについては困難を極めている。グループホームについても、浦安で事業者が赤字にならず運営しようと思うと、各室の家賃設定を 46,000 円に設定することが難しい。その結果、一人暮らしにおいても、グループホームについても、経済的な理由から「浦安で暮らせない」という当事者が増えていくことが容易に想像できる。基幹相談としても、他の自治体の取組、特に都市部の取組を調査して、障害のある当事者が慣れ親しんだ浦安に住み続けることができるように、障がいのある方の住まいについての施策の見直しについて提言していきたい。
- ・ヘルパー不足の深刻さも年々、加速していると感じる。医療的ケアがある人や行動障がいがある方への支援はもちろんのこと、週末の移動支援、重度訪問介護の日勤帯支援（まだ夜勤帯の担い手の方が比較的見つけやすい）の担い手不足によって、グループホームからの単身生活への移行、施設や病院からの地域移行、親元からの独立が果たせない状況になっている。難しい支援となる当事者の方の支援を提供しても、夜間早朝や週末のケアを提供しても、事業所にインセンティブが無ければ、なかなか事業として展開できないと考える。その理由としては、当然ながら、一般の方が通常「働かない」時間帯に働く方への人件費の捻出、職員への研修費や同行研修の長さ等を考えると、それらを事業所への報酬として支える施策が必要だと考える。上記 2 点は、地域生活の根幹となることから、具体的な検討を速やかに自立支援協議会などでワーキングチームを組んで、それらの検討にたけた人材を集めて課題解決のための施策を作っていくことが必要だと考えます。
- ・障害福祉サービス等報酬などの収入では雇用条件が整いにくい現状があり、人員不足やサービスの質の低下が懸念される。
- ・保護者との連携がむずかしい場面が増え、支援度合いが高まっている状況が見られる。
- ・グループホーム等ご本人に合った生活場の整備。
- ・特別支援学校卒業後に活用する日中活動場の職員が、これまでのご本人の様子をしっかりと理解できていると良い。切れ目のない相談支援体制も必要と感じる。
- ・地域の方（場合によっては家族も）の障がいに対する理解や啓発活動の推進。
- ・社会復帰や自立支援を A 型事業所があり、利用者さんの特性に応じた仕事の提供から出来る事業所が選べると考えます。始めは短時間からでも仕事を日々することで、社会復帰や自立支援になると思います。
- ・相談員のついていない利用者も多く、相談員がいても専門員が乏しく障がいを理解しているのかと思う時もある。障がい者の支援も一部の事業所に偏っているのかと感じることもある。基幹支援センターは基幹としての役割を果たしているかも疑問を感じる。
- ・障がい者を支援する市役所側は、その近隣の方への配慮（ききとり）も視野に入れた方が良いと思う。善意に甘えているような対応では協力は得られない。
- ・GHを市内で開設すべく、不動産屋他あらゆる手立てを講じて物件や土地を探していますが、千葉単独で探すには限界があると感じているのが現状です。

2. 今後の希望について（8件）

- ・デジタル化：実績記録票、請求明細書等をペーパーレス化し、データを行政に送るという方法にしてほしいです。
- ・サービス単価の見直し：物価高により現状のサービス提供を続けるのは経済的に困難です。スタッフの賃金を上げる事も出来ません。日本の物価状況に合わせ、単価も見直しを行って欲しいです。
- ・様々な障がいをお持ちの方が、ご自身の経験を市民に伝えていくことで、障がいに対する市民の理解が深まっていくと良いと思います。4㎢四方の小さな市だからこそ、重層的支援体制や包括の構築がしやすいというアドバンテージがあるように思います。土地が少なくグループホームの確保などは難しいかもしれませんが市内の超高齢化に向けた都市型の福祉がつくれればと思っています。
- ・浦安市は他市と比較して進んでいると思います。A型事業所として考えると相談支援事業所（市内）が市内の方しか受けて頂けないことが多いので、この点に対して対応してもらえるとありがたいです。
- ・居宅介護の空きが少なく（特に朝と夜）、利用者の希望するサービス提供できないことがあるので、居宅介護のサービスが充実出来たらよいと感じます。
- ・防災等に関わる物資など購入費用の補助をお願いしたい。小さな事業所ほどなかなか全て自前で色々取りそろえることが困難。
- ・AED 設置に関する助成や補助を検討いただきたい。大きな商業施設や公共施設が近くにない事業所においては設置するためのバックアップをいただきたい。
- ・不定期に利用したり、イベント内容等にのみ利用をする日中一時支援の事業所で、職員や利用者のコロナ陽性者が出た場合は、市内の事業所にも情報共有をしてほしい（市内学校のメールのように）。時々しかその事業所を利用しない利用者が知らずに利用しているケースがあるので。

3. 施設の利用状況について（4件）

- ・緊急の受入があった後、出口支援会議が行われても受け入れ先がない。親が高齢の場合、特に先を見据えたプラン立てを相談事業所をお願いしていきたい。いざという時に使えるサービスがないのは当事者が困ってしまう。何かあってから動き始めるのでは遅いと思います。
- ・生活介護は年々利用者が増えていて、いずれ今のスペースでは足りなくなります。しかし拡大しようにも条件の合う物件がなかなかないのが苦しい所です。
- ・一方自立訓練のリアンはなかなか利用者が集まらず苦戦しています。
- ・12月に入り、特に計画作成の依頼が増えて、お断りするケースが出て、心苦しく感じています。4月からの新規、3月の更新の方、希望者が多く、年間の業務量に偏りがあり、対応が難しいです。大人のサービスも児童のようにバースデイ月ですと対応できるケースも増えそうなのですが・・・。利用者（大人）等は書類（申請書・更新など）についてわからず、手続きできなかったケースの相談が時折あります。こちらでもモニタリングのタイミングでしたら対応できるのですが、受給者証以外の申請ですとタイミングが合わず、またこちらで把握も出来ていない事も。案内の書類がフローチャートのようになっていると理解しやすいかもしれません。

4. 事業所同士のつながりについて（4件）

- ・市内の事業所でも顔を知らない支援者が多く、それぞれの分野の中でしか繋がりが無い事が多い為、市内の福祉全盤の底上げには横のつながりをもっと強化する必要があると感じる。
- ・相談支援事業所や学校・幼稚園との連携をもっと行い共通した支援が必要だと感じる。
- ・就労を担当している事業の為、学校卒業後、働き、自立し、生活していった先（高齢化して働けなくなった後）就労を離れた後の事業への引継ぎを連携強化してもらいたい。
- ・他事業所との連携：特に支援が困難なケースなど各事業所や関連施設と一体となって支援ができるよう、専門職員やシステムが必要だと思います。

5. 施設の経営状況について（1件）

- ・区分の認定調査について・・・ご本人・ご家族は問題なしと考えていても、事業所（GH）でかかえてしまうことが多くあるので、30～60分程度の質問等で区分を決めて良いかどうかを考えてしまう。報酬の金額が事業運営に大きく関わってくるので、個々の区分の上下は死活問題につながるため、安易に決めてほしくない。普段からの状況・良い時、そうでない時も伝えてと考えてしまう。日中とは全く違う事も視野に入れてほしい。小さな事業所はこのようなことの積み重ねで運営が行き詰まってしまう。週に2～3回泊まりをするスタッフも少ない為、目の前の通路がふさがった感があります。

6. その他（1件）

- ・平素より、当法人事業における利用者支援にご理解ご協力をくださり誠にありがとうございます。今後も私共の強みを最大限発揮して、リスクヘッジをきかせながら、永続的に持続可能な機能構築を目指し、日々精進いたします。浦安市の障がい福祉事業におかれましては、それぞれの特色を活かして、持続可能性ある、健全な業界の発展に向かれるよう切に願っております。以上よろしくお願ひ申し上げます。

第5章 アンケート調査票

障がい福祉に関する アンケート調査

— ご協力をお願い —

日頃より、浦安市の障がい福祉行政の推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

浦安市では、市が取り組むべき障がい者施策の基本的方向を定める「浦安市障がい者福祉計画（令和6年度～令和8年度）」策定の準備をしています。

その一環として、計画づくりの基礎資料とするため、障がいのある方の生活の状況やご意見、お考えをうかがうアンケート調査を実施することになりました。

ご回答いただいた調査票は、すべて統計的に処理し、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。このアンケートを、浦安市の障がい福祉施策の充実に活かしていきたいと思っておりますので、ぜひ、ご協力をお願いします。

令和4年12月

浦安市
浦安市

— ご記入にあたってのお願い —

- このアンケートは、浦安市に住所がある身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、難病等の診断を受け福祉サービスの利用の認定を受けている方をお願いしています。
- 回答は、宛名のご本人が記入してください。ご本人が回答を記入できない場合は、ご家族や介護者の方が、ご本人の意思や考えを聞き取るなどして記入してください。
- 質問には、回答していただく方が限られる場合がありますので、説明書さに注意してください。
- このアンケートの結果は、報告書として冊子にし、ホームページでも公開します。
- ご不明な点がありましたら、障がい事業課までお問い合わせください。
- アンケートの記入が完了したら、返信用封筒に入れ（切手は不要）、**令和4年12月28日（水）まで**に郵便ポストに投函してください。

【お問い合わせ先】浦安市役所 障がい事業課
電話：047-712-6397（直通） ファクス：047-355-1294
Eメール：shougaijisyoku@city.urayasu.lg.jp

この調査票を記入していただいたのはどなたですか。（1つに○）

- 本人
- 本人以外の家族が本人の意思等を聞いて代筆
- 福祉サービス事業所等の介護者が本人の意思等を聞いて代筆
- 家族、介護者が本人の意思等をくみ取り記入
- その他（ ）

1 基礎的事項

問1 あなたの年齢（令和4年12月1日現在）をお答えください。（記入）

_____ 歳

問2 お持ちの手帳や、認定・診断を受けている状況をお答えください。
また、手帳をお持ちの場合は、種類と等級をお答えください。
(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

- 身体障害者手帳..... _____ 級
- 療育手帳..... [⊙] A1 A2 Bの1 Bの2]
- 精神障害者保健福祉手帳..... [1 級 2 級 3 級]
- 難病（特定疾病）の認定
- 精神障がい（発達障がい・高次脳機能障がいを含む）診断
- その他（ ）

問2で「1. 身体障害者手帳」と答えた方におたずねします。

問2-1 障がいの種類はどれに当てはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

- 視覚障がい
- 聴覚障がい
- 平衡機能障がい
- 言語・言語・そしゃく機能障がい
- 肢体不自由
- 内部障がい
- その他（ ）

障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査

障がい福祉サービス等事業所 各位

障がい福祉サービス等の提供にかかるアンケート調査にご協力ください。

平素より本市の障がい福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。市では「浦安市障がい者福祉計画（令和6年度～令和8年度）」を策定する基礎資料とするため、障がい福祉サービス等を提供する事業者の方の状況やご意見、お考えを伺うアンケート調査を実施いたします。

お手数をおかけしますが、浦安市の障がい福祉施策に活かしていきたいと思っております。ぜひ、ご協力をお願いします。

令和4年12月 浦安市

〇この調査は、浦安市在住または浦安市が保護地の障がい児者に福祉サービスを提供している事業所のみさまにお送りしております。

〇建物ごとに1つの調査票を送付しております。

〇調査票の記入後は、同封した返信用封筒でご返送ください。

締め切りは、令和4年12月28日(木)です。

〇このアンケート結果は計画策定の基礎資料として活用するとともに、報告書として冊子にし、市ホームページでも公開します。ただし、回答内容については統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。

〇本調査についてのご質問などがありましたら、以下までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

浦安市役所 障がい事業課 電話:047-712-6397
 ファックス:047-355-1294 Eメール: shoukaikyoku@city.urvasa.lg.jp

----- 以下、ご記入ください。 -----

法人名		
事業所名	※建物ごとに1つの調査票を送付しています。事業所名が複数ある場合には、すべての事業所名をご記入ください。	
事業所所在地	〒	

回答者について

役職	回答者名
連絡先	(電話) _____ (FAX) _____ (メール) _____

- ◇記入上のお願い
- 回答は、基本的に該当する番号に○をつける方式です。設問で指定のある数だけ○をつけてください。
- 具体的な数値をご記入いただく部分や自由回答も重要ですので、お手数ですがご記入ください。
- ご記入いただく調査基準日は、設問で指定のあるものを除き、**令和4年4月1日現在**でお願いします。

★障がい福祉サービス等一覧

事業所の実施事業について、以下の表のサービス番号に○を付けてください。

サービス番号	サービス内容	サービス番号	サービス内容
1	居宅介護	16	自立生活援助
2	重度訪問介護	17	共同生活援助 (グループホーム)
3	同行支援	18	児童発達支援
4	行動支援	19	医療型児童発達支援
5	療養介護	20	放課後等デイサービス
6	生活介護	21	居宅訪問型児童発達支援
7	短期入所(ショートステイ)	22	保育所等訪問支援
8	重度障害者等包括支援	23	計画相談支援
9	施設入所支援	24	障害児相談支援
10	自立訓練(機能訓練)	25	一般相談支援
11	自立訓練(生活訓練)	26	移動支援
12	就労移行支援	27	日中一時支援
13	就労継続支援A型	28	地域活動支援センター (I型・II型・III型)
14	就労継続支援B型	29	その他()
15	就労定着支援		

※アンケート冊子の中で、上記のサービス番号でご回答いただく設問があります。

浦安市 障がい福祉に関するアンケート調査報告書

発行年月 令和5年3月
発行・編集 浦安市役所 福祉部 障がい事業課
〒279-8501
浦安市猫実一丁目1番1号
TEL : 047 (712) 6397 FAX : 047 (355) 1294
